

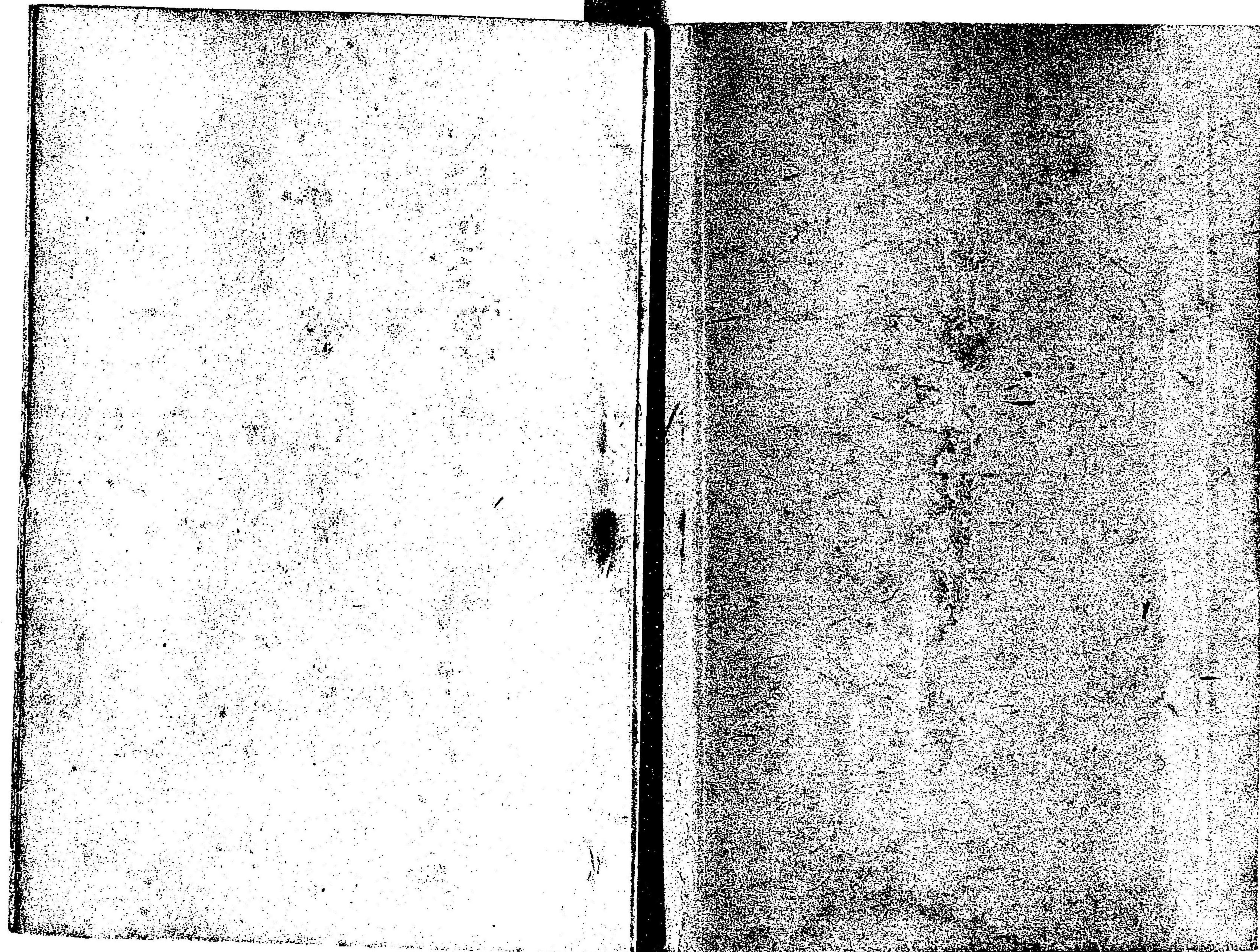
特 71

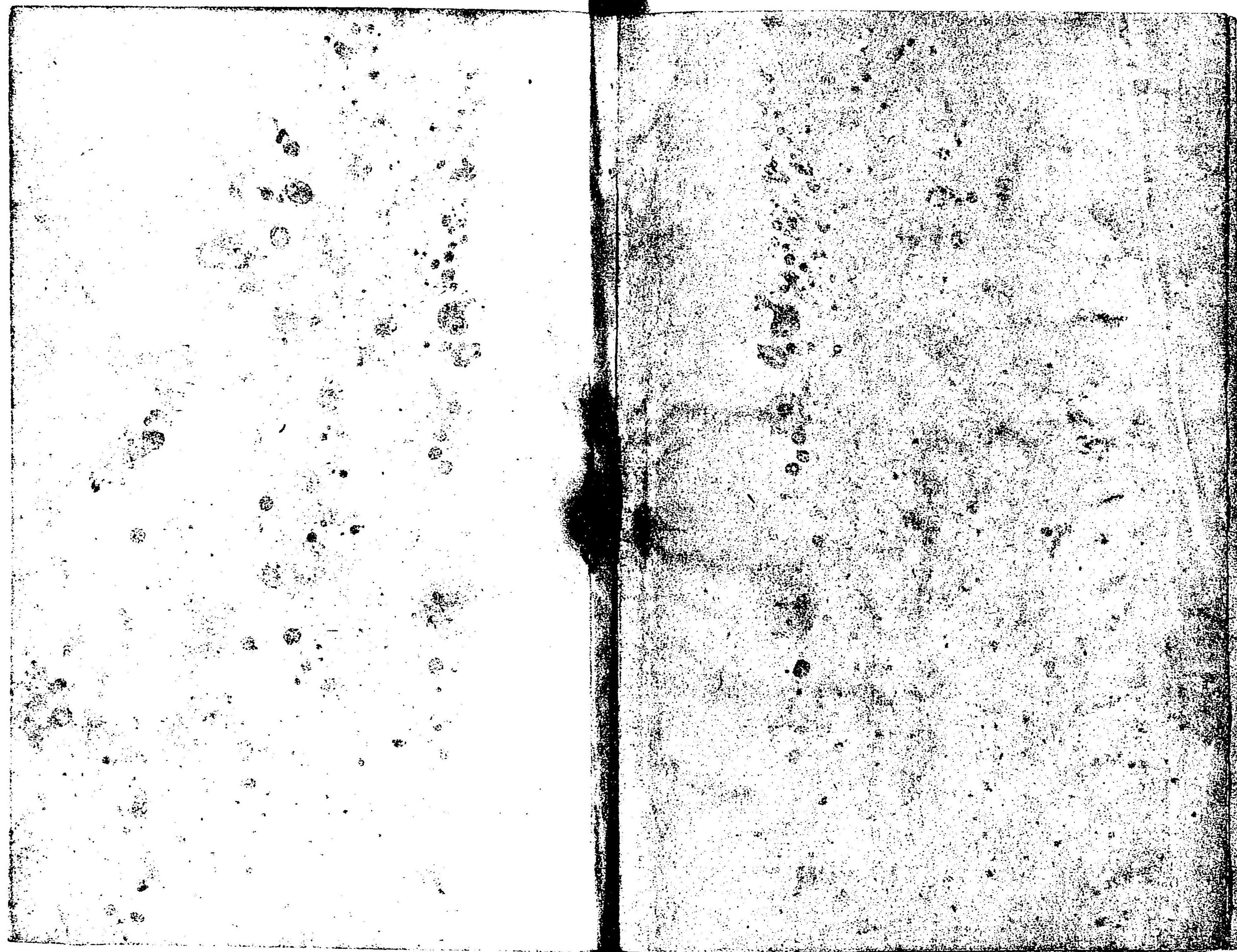
676

野戰砲兵射擊教範

~~266~~

~~207~~

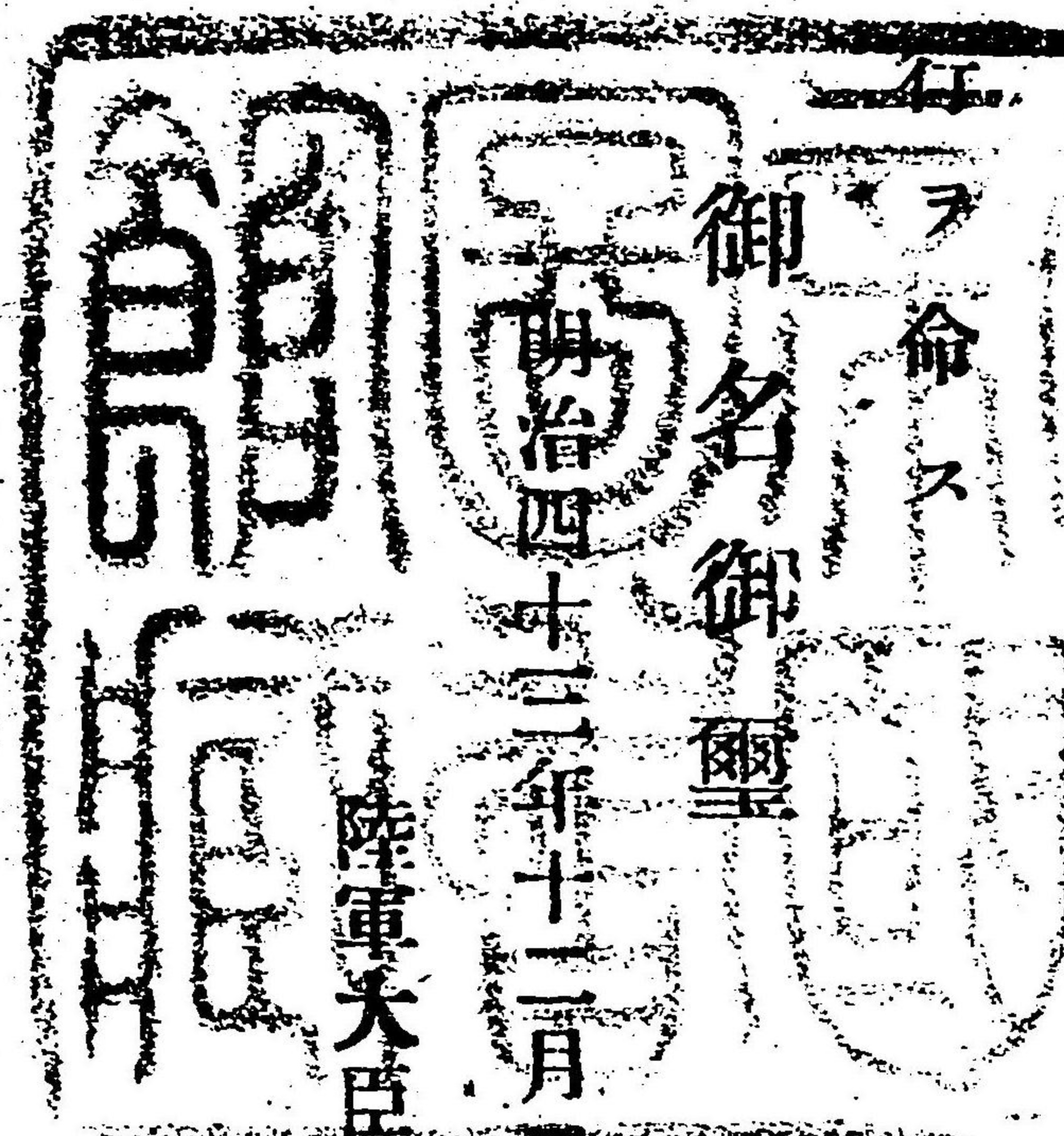




原野戰砲兵射擊教範ヲ改定シ之カ施

行
ヲ命ス

御名御璽



明治四十二年十二月二十八日

陸軍大臣

子爵

寺



明治四十二年六月一日

寺内交

特刊
676

軍令陸八號

野戰砲兵射擊教範

野戰砲兵射擊教範目次

總則

第一篇 射擊ニ關スル定説

彈道ノ形狀及名稱

照準ノ定義

彈丸ノ效力

彈丸ノ集散

第二篇 照準法

要則

野砲(騎砲)照準法

山砲照準法

甲 六

一頁

三三

三八

十二

十五

二十二

二十二

二十四

二十四

三十四

目次

照準手拔擢法

拔擢順序

選拔檢查法

褒賞及報告

第三篇 射法

要則

射彈ノ觀則

不動目標ニ對スル射擊

試射

效力射

著發射擊

曳火射擊

二

四十七

四十七

四十九

五十六

五十八

五十八

五十九

六十九

七十二

七十二

七十五

動目標ニ對スル射擊

繫留氣球ニ對スル射擊

夜間射擊

遮蔽陣地ニ於ケル射擊

第四篇 射擊演習

要則

中隊射擊

大隊射擊

聯隊射擊

講評

射擊成果表ノ調製

監的哨及放列哨ノ勤務

目次

三

百二十二

百十二

百八

百八

百六

百二

九十二

九十二

八十八

八十七

八十五

八十二

目次

演習場ノ警戒

報告

第五篇 拳銃射撃

四

百二十六

百二十八

百三十

野戰砲兵射撃教範目次終

野戰砲兵射撃教範

總則

第一 射撃ハ砲兵唯一ノ戰鬥法ナリ故ニ砲兵ハ之ニ熟達スルニアサレハ全ク戰鬥ノ要求ヲ充タスコト能ハス

第二 射撃ハ嚴肅ナル射撃軍紀、精熟セル操砲及機宜ニ適セル射撃ノ指揮ニ依リテ始メテ良好ナル成績ヲ得ルモノトス

第三 射撃教育ハ指揮官及兵卒ノ射撃技能ヲ訓練シテ射撃ニ關スル操典ノ要求ヲ充足シ以テ火戰ヲ有效ニ實行シ得セシムルヲ目的トス

總則

一

第四 本教範中聯隊長及聯隊ニ就キテ記載シタル事項ハ特ニ規定スルモノノ外其他ノ獨立隊長及獨立隊ニモ亦之ヲ準用ス

第一篇 射撃ニ關スル定説

彈道ノ形狀及名稱

第五 發射ヒテレタル彈丸重心ノ過クル線ヲ彈道ト謂

第六 彈丸火藥瓦斯ノ作用ニ依リ某速度ヲ以テ某方向ニ發射セラレ砲口ヲ離ルルヤ絶エス重力及空氣抗力ノ交感ヲ受ク之カ爲發起ノ方向ニ飛行スルコトナク漸次降下ス其他尙彈丸ハ腔綫ノ爲旋動ヲ賦與セララルヲ以テ絶エス彈頭ヲ前方ニ向ハシムルモ發起ノ方向ヲ含ム垂直面ノ一側ニ多少偏出スルニ至ル

射撃ニ關スル定説

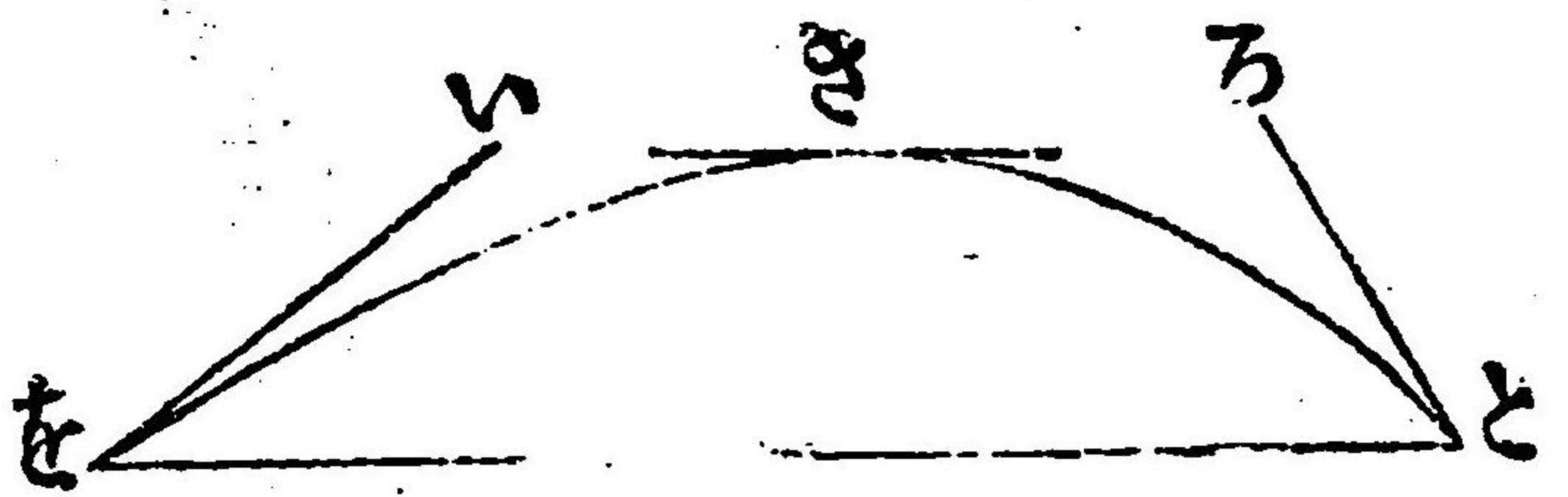
射撃ニ關スル定説

四

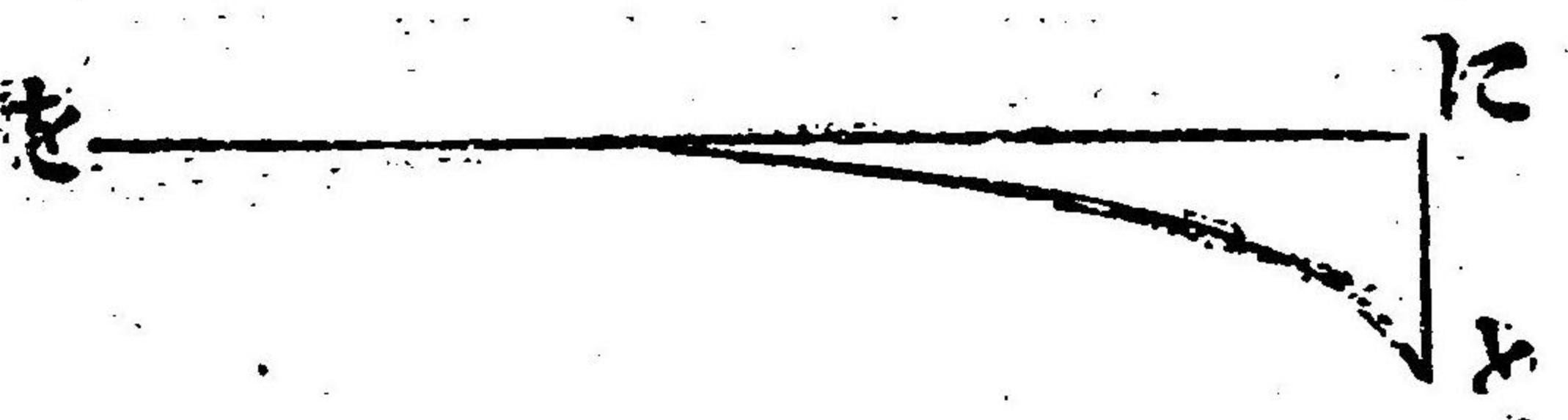
第七 砲身軸ノ延線「をい」ヲ射線ト謂ヒ射線「をい」ト
 水平面「をい」ト成ナル角「い」とヲ射角ト謂ヒ射線
 「をい」ヲ含ム垂直面ヲ射面ト謂フ
 砲口「をい」ヲ含ム水平面ト彈道「をい」トノ第二ノ交會
 點「と」ヲ落點ト謂フ
 彈道中最モ高キ點「さ」ヲ最高點ト謂ヒ砲口「をい」ヨリ最
 高點「さ」ニ至ル彈道ヲ昇弧ト謂ヒ最高點「さ」ヨリ落點
 「と」ニ至ル彈道ヲ降弧ト謂フ
 彈道ノ最高點ハ常ニ砲口ヨリモ落點ノ方ニ近ツキ降弧
 ノ彎曲ハ常ニ昇弧ヨリ甚シ
 落點「と」ニ於ケル彈道ノ切線「ろ」とト水平面「をい」ト
 ニテ成ス角「ろ」とを「ヲ落角ト謂フ

射撃ニ關スル定説

第一圖



第二圖



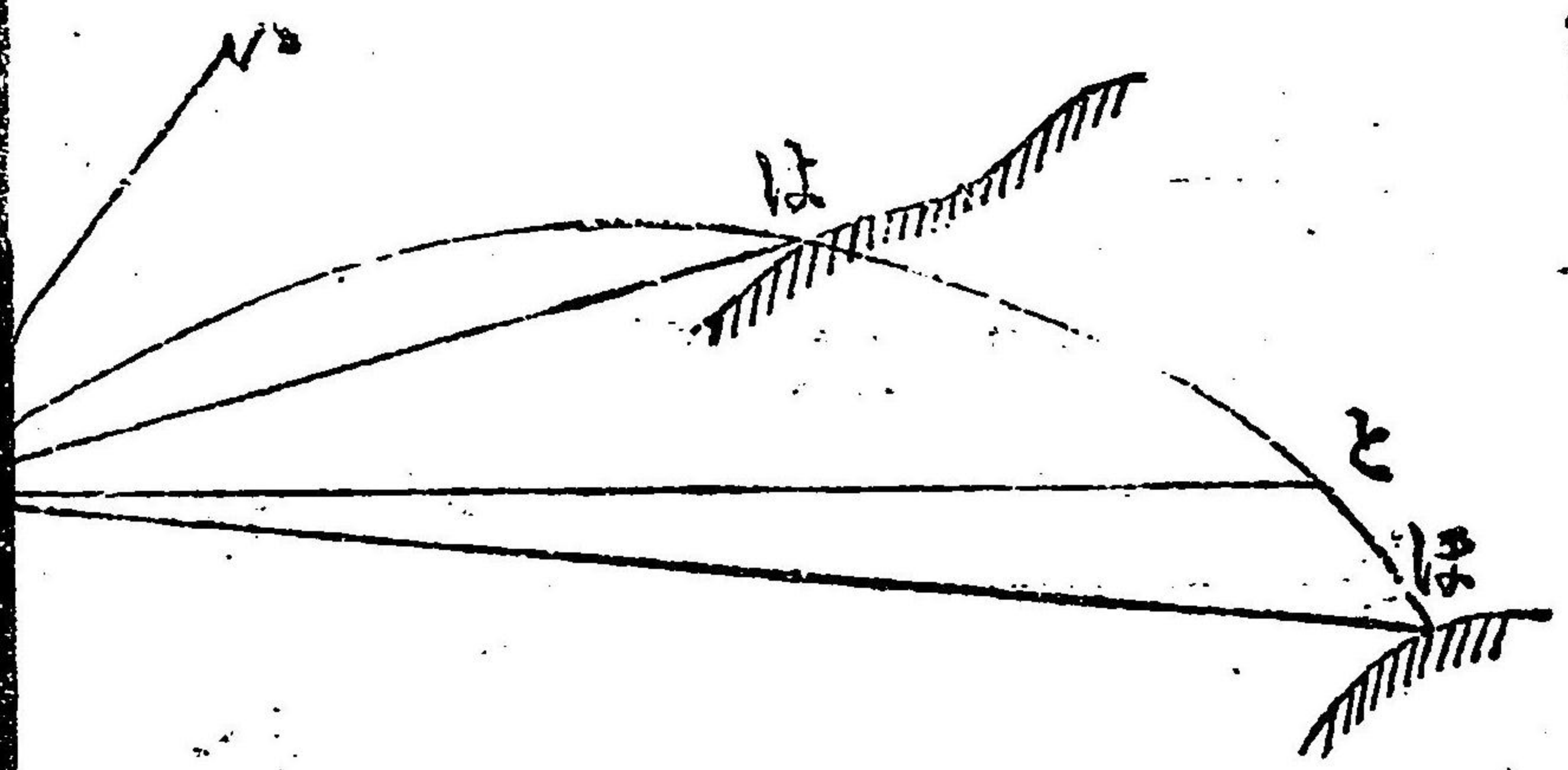
落角ハ射角ヨリ大
 ニシテ距離ノ増加
 スルニ從ヒ二角ノ
 差ハ漸次増大ス

第一圖

落點ハ彈丸ノ旋動
 ニ依リ射面「をい」
 ヨリ偏出ス其距離
 「に」とヲ定偏ト謂
 フ野砲(騎砲)及山
 砲ハ共ニ定偏ヲ右
 方ニ生ス第二圖

五

第三圖



各距離ニ應スル定
偏ノ變化ハ距離ノ
増加スル比ヨリ大
ナリ
第八 發射セル彈
丸ノ落達セル點
「は」又ハ「と」ヲ彈
著點ト謂ヒ彈著點
ヲ砲口ニ連接セル
線「を」ハ「又ハ」を
「は」ト射線「を」ハ
「と」ニテ成ス角「い

をハ「又ハ」をハ「は」高角ト謂フ
目標ヲ砲口ニ連接セル線「を」ハ「又ハ」をハ「と」砲口ヲ含

ム水平面「を」と「と」ニテ成ス角「は」を」と「又ハ」を」と「は」

カウカク
高低角ト謂フ此角砲口ヲ含ム水平面ノ上方ニ生スルト
キハ高低角正ニシテ下方ニ生スルトキハ負ナリ第三圖

第九 彈丸砲口ニ於テ有スル速度ヲ初速ト謂ヒ彈道ノ
某一點ニ於テ有スル速度ヲ其點ノ存速ト謂フ

第十 砲口ヨリ彈著點ニ至ル距離ヲ射距離ト謂フ
彈道ハ地表面ニ對シ常ニ彎曲スルヲ以テ彈丸ヲシテ目

標ニ命中セシムルニハ砲口軸ヲシテ常ニ目標ノ上方ニ
通セシメサルヘカラス

同一初速ヲ以テ同一彈丸ヲ發射スルトキハ射角ノ大小

ニ依リ射距離ノ増減ヲ生ス

第十一 發射セラレタル彈丸砲口ヲ離ルル瞬時ニ於テ彈丸飛行ノ方向ハ發射前ニ於ケル砲身軸ノ方向ニ對シ野砲(騎砲)ニ在リテハ上方ニ山砲ニ在リテハ下方ニ小角度ノ差異ヲ生ス之レヲ定起角ト謂フ

第十二 發射セラレタル彈丸砲口ヨリ彈著點ニ至ルニ

要スル時間ヲ經過時間ト謂フ

第十三 射表ニハ氣壓七百五十密米、氣溫攝氏十五度、濕度二分ノ一ニ於テ水平地ノ目標ニ對スル射撃ノ諸元ヲ掲グ

照準ノ定義

第十四

照門ノ中心ト照星頂ニ互ル線若ハ眼鏡ノ十字ノ交截點ヲ通スル視線ヲ照準線ト謂ヒ照準線ヲ含ム垂直面ヲ照準面ト謂フ

第十五

照準面ヲ所望ノ點ニ導クヲ方向照準ト謂ヒ砲ニ所望ノ射角ヲ與フルヲ高低照準ト謂ヒ之ヲ綜合シテ行フヲ單ニ照準ト謂フ

直接ニ照準線ヲ目標ニ通シ方向及高低照準ヲ爲ストキ

ハ之ヲ

直接照準ト謂ヒ縱ヒ直接ニ方向照準ヲ爲スモ高低水準器、象限儀若ハ弧形照準機ヲ以テ高低照準ヲ爲

ストキ

ハ之ヲ間接照準ト謂フ

第十六

表尺ヲ定メ一點ヲ照準スルニ方リ野砲(騎砲)

ニ在リテハ方向角山砲ニ在リテハ横表尺零ニ在ルトキ照準線ト砲身軸ト成ス角ハ水平面上ニ在リテハ射距離ニ應スル射角否サルトキハ高角ニ等シ

高低水準器、象限儀若ハ弧形照準機ニ依リ砲ニ角度ヲ與フルトキハ砲身軸ト水平面ト成ス角ハ水平面上ニ於ケル其射距離ニ應スル射角ニ等シ

第十七 目標ト砲車トノ位置ニ高低差アルトキ直接及間接照準ニ依リ高低照準ヲ爲ストキハ此二者間ニ高低角ニ等シキ差ヲ生ス

高低水準器分畫銀若ハ弧形照準機滑匣分畫銀ノ一分畫ハ十六分ノ一度ニシテ射距離ノ千分ノ一ニ應スル砲口ト目標トノ高低差ヲ修正スルニ適ス而シテ高低角正

(負)ナルトキ高低水準器ニ在リテハ正(負)弧形照準機ニ在リテハ前(後)へ修正ス

第十八 野砲(騎砲)ニ在リテハ回轉盤ノ補助分畫及横表尺ノ一分畫ハ共ニ射距離ノ千分ノ一ニ應スル方向修正ニ適シ回轉盤一分畫ハ補助分畫百ニ等シク即チ射距離ノ十分ノ一ニ應スル方向修正ニ適ス

山砲ニ在リテハ横表尺ノ一分畫ハ射距離ノ五百分ノ一ニ應スル方向修正ニ適シ方向銀一分畫ノ修正量ハ角度銀上ニ在リテハ射距離ノ約ネ千分ノ四十、旋銀上ニ在リテハ射距離ノ約ネ千分ノ三ニ應ス

第十九 搖架分畫ノ一分畫ハ射距離ノ約ネ千分ノ十二

搖架轉把一旋回量ハ射距離ノ約ネ十分ノ五ニ應スル方
向ヲ變ス

彈丸ノ效力

第二十 榴霰彈ハ多數ノ彈子ヲ填實シ複働信管ニ依リ
著達シタル後或ハ空中ニテ破裂ス

榴彈ハ多量ノ炸藥ヲ填實シ彈底信管ニ依リ著達シタル
後爆裂ス

第二十一 彈丸ノ空中ニ於テ破裂スル點ヲ破裂點ト謂
ヒ砲口ト目標ノ基脚トヲ通スル線ヨリ破裂點ニ至ル距
離ヲ破裂高ト謂ヒ砲口ト目標ノ基脚トヲ通スル線ニ垂

裂距離ト謂フ

榴霰彈彈著點若ハ破裂點ニ於テ破裂スルトキハ其彈子
及破片ハ前方ニ向ヒ圓錐狀ニ散飛ス其圓錐角ヲ束藁角
ト謂フ

第二十二 著發榴霰彈ノ效力ハ射距離ノ大小、地形、
地質、目標ノ高サ及彈著點ト目標トノ距離ノ大小ニ依
リ著シキ差異ヲ生ス

第二十三 曳火榴霰彈ハ破裂點ノ前方ニ於テ彈子及破
片ヲ束藁角内ニ散飛シ深長ナル地域ニ效力ヲ及ホス

曳火榴霰彈ノ束藁角ハ二千五百米ノ距離ニ於テ野砲
(騎砲)ニ在リテハ約ネ十九度山砲ニ在リテハ約ネ十三
度トシ之ヨリ小ナル射距離ニ在リテハ漸次小トナリ之

射撃ニ關スル定説

ヨリ大ナル射距離ニ在リテハ漸次大トナル

第二十四 射表ニ示ス破裂高、破裂距離ヲ基本破裂高、基本破裂距離ト謂フ

野砲(騎砲)ニ在リテ千乃至四千米ノ射距離ニ於ケル基本破裂距離ハ八十乃至六十米基本破裂高ハ二米五十乃至十五米トス

山砲ニ在リテ千乃至三千米ノ射距離ニ於ケル基本破裂距離ハ七十乃至六十米基本破裂高ハ六乃至二十米トス

第二十五 破裂點正シク基本破裂高基本破裂距離ニ合スルトキハ其效力最モ著シ破裂高ト破裂距離トノ比基本破裂高ト基本破裂距離トノ比ニ近ク且破裂高基本

破裂高ノ二倍以内ナルトキハ尙十分ナル效力ヲ現ハシ得ヘシ破裂高甚高キカ若ハ破裂高ト破裂距離トノ比不良ナルトキハ效力十分ナラス

第二十六 曳火榴霰彈ノ效力ハ射距離小ナルニ從ヒ著シク増加ス

零距离ノ曳火榴霰彈ハ砲口前約ネ六十米ニ於テ破裂ス
第二十七 榴彈ハ榴霰彈ト略同一ノ彈道ヲ畫キ抵抗力アル物體ニ對シ著大ナル破壊力アリ

彈丸ノ集散

第二十八 同一火砲ヲ以テ同一景況ニ於テ數多ノ彈丸ヲ發射スルモ常ニ同一點ニ著達スルコトナク某限界内

ニ散飛ス而シテ其散飛ノ景況ハ中央ニ近ツクニ從ヒ密
 集ス又散飛帯ノ深サハ其幅ヨリ著シク大ナリ。
 散飛帯ノ深サヲ射距離必中界ト謂ヒ其幅ヲ方向必中界
 ト謂フ又垂直目標ニ於テハ其高サチ高低必中界ト謂フ
 數多彈著點ノ中心ヲ平均彈著點ト謂ヒ此點ヨリ砲口ニ
 至ル距離ヲ平均射距離ト謂フ
 平均彈著點ヲ中心トシ射距離(方向)上此點ノ前後(左
 右)ニ發射彈ノ半數ヲ含ム限界ヲ射距離(方向)半數必
 中界ト謂ヒ垂直目標ニ於テハ此點ノ上下ニ發射彈ノ半
 數ヲ含ム限界ヲ高低半數必中界ト謂フ
 第二十九 射表ニ示ス半數必中界ハ一火炮ヲ以テ施行
 セル射撃ノ結果ナリ故ニ數多ノ火口ヲ以テセハ其平均

彈著點各々相異ルヘキヲ以テ必中界モ亦増大スヘシ六
 門ヲ以テ射撃スルトキ其半數必中界ハ通常射表ニ示ス
 モノノ一倍半トス
 第三十 曳火榴霰彈ヲ發射スルニ方リ同一ノ信管距離
 及射角ヲ以テスルモ同一點ニ於テ破裂セス其破裂點ノ
 偏差ハ主トシテ射距離ニ在リテハ信管燃燒時限ノ遲速
 高低ニ在リテハ信管燃燒時限ノ遲速及射角ノ誤差ニ關
 ス
 破裂點散飛ノ深サヲ射距離破裂界、其幅ヲ方向破裂界、
 其高サヲ高低破裂界ト謂フ而シテ方向破裂界ハ殆ト方
 向必中界ニ等シ
 數多破裂點ノ中心ヲ平均破裂點ト謂ヒ其破裂高ヲ平均

破裂高、其破裂距離ヲ平均破裂距離ト謂フ
平均破裂點ヲ中心トシ射距離(高低)(方向)上此點ノ前
後(上下)(左右)ニ破裂點ノ半數ヲ含ム限界ヲ射距離(高
低)(方向)ノ半數破裂界ト謂フ

第三十一 平均破裂高基本破裂高ニ合スルモ尙稀ニ著
發ヲ生スルコトアリ然レトモ六發ノ射彈中二發以上ノ
著發彈アルトキハ平均破裂高ハ基本破裂高ヨリ著シク
小ナリ

平均破裂距離基本破裂距離ニ合スルモ尙稀ニ破裂點目
標ノ後方ニ在ルコトアルヘシ而シテ六發ノ射彈中二發
以上目標ノ後方ニ於テ破裂スルトキハ平均破裂距離ハ
基本破裂距離ヨリ著シク小ナリ

第三十二 射距離上平均彈著點ヲ換フルニハ射角ノ増
減ヲ以テス其増減スヘキ量ハ二十五米ヲ最小トス

第三十三 平均破裂高ヲ換フルニハ信管距離若ハ射距
離ノ増減ヲ以テス其増減スヘキ量ハ二十五米ヲ最小ト
ス

第三十四 方向上平均彈著點及破裂點ヲ換フルニハ方
向ノ修正ヲ以テス

第三十五 氣壓、溫度、濕度及風ノ強弱方向ハ射距離
及 信管燃燒時限ニ交感ヲ及ホスモノナリ然ルニ兩者
ノ此交感ヲ受クル度ハ常ニ同シカラサルヲ以テ射距離
ト信管距離トノ一致ヲ缺クニ至ル此差異ハ射距離ノ大
ナルニ從ヒ益々増加ス而シテ通常夏期ニ於テハ高破裂

冬期及標高著大ナル高地ニ於テハ低破裂ヲ生ス

第三十六 高低水準器、象限儀若ハ弧形照準機ニ依リ射撃スルニ方リ高低角アルトキハ射距離ト信管距離ト一致セス而シテ高低角正ナルトキハ破裂點低ク若ハ著發シ高低角負ナルトキハ破裂點高シ

第三十七 風側方ヨリ吹クトキハ彈丸ハ側方ニ偏ス其量ハ風速大ニシテ射線ニ直交シ且射距離ノ増大スルニ從ヒ益々大トナル射線ト直角ニ吹ク風ノ交感ヲ修正スルニハ野砲(騎砲)ニ在リテハ風速三米山砲ニ在リテハ風速八米ナルトキ射距離ノ吉米數ニ等シキ横表尺分畫數ヲ風ノ來ル方ニ移ス又野砲(騎砲)ニ在リテハ回轉盤補助分畫ヲ以テ修正スルコトヲ得

第三十八 兩車輪ノ位置ニ高低差アルトキハ彈道ハ低キ車輪ノ方ニ偏スヘシ

野砲(騎砲)ニ在リテハ車軸傾斜角四度以下ナルトキハ表尺坐筒ノ氣泡管ニ依リ之ヲ修正ス

山砲ニ在リテハ兩車輪ノ高低差十珊米ナルトキ射距離ノ吉米數ノ六倍ニ等シキ横表尺分畫數ヲ高キ車輪ノ方ニ移シ之ヲ修正ス

第二篇 照準法

要則

第三十九 火砲ノ威力ハ熟練ナル操砲就中正確ニシテ迅速ナル照準ニ依リテ始メテ最大ナルモノトス故ニ照準ノ教育ハ操砲ノ教練中最モ注意シテ訓練シ戰鬪諸般ノ景況ニ應ジ毫モ遺憾ナカラシムルニ至ルヲ要ス

第四十 初步ノ教育ニ在リテハ適宜ノ物體ヲ目標ト爲シ先ツ方向高低照準ヲ部分的ニ教育シ漸次歩ヲ進ムルニ從ヒ之ヲ綜合シ成ルヘク各種ノ地形及天候ニ於テ實際ニ類スル目標ヲ選ヒ小距離ヨリ逐次大距離ニ明瞭ナ

ルモノヨリ逐次認識困難ナルモノニ及ホシ照準具ノ裝定及照準操作ヲ併セ行ハシムヘシ

第四十一 照準具ノ精度ハ射撃ノ成果ニ至大ナル影響ヲ及ホスヲ以テ幹部ハ能ク照準具ノ性能及結構ニ精通シ其機能ヲ常ニ完カラシムルコトニ注意スルヲ要ス殊ニ屢々眼鏡ノ視軸、高低水準器及弧形照準機ノ良否ヲ比較審査シ所要ノ處置ヲ爲スヘシ

第四十二 方向照準ニ方リテハ特ニ指示ナキトキハ目標ノ中央部ヲ照準ス

高低照準ニ方リテハ隊伍ニ對スルトキハ其下際ヲ堡壘ニ對スルトキハ其火線ヲ照準ス

第四十三 假標ハ鮮明ニシテ砲車ヲ距ル遠ク不時ニ消

減スルノ虞ナキモノナルヲ要ス
 適當ナル假標ナキトキハ標桿ヲ立ツ
 第四十四 照準一般ノ教育ヲ終リタル後中隊長ハ兵卒
 中視力發達ノ見込ナク理解力ニ乏シク將來照準手ニ適
 セザル者ハ此演習ニ列セシメサルモ妨ケナシ

野砲(騎砲)照準法

第四十五 表尺ヲ裝スルニハ砲尾ヲ滿下シ右手ヲ以テ
 高低水準器ニ觸レサル如ク縱表尺ノ上部ヲ握リ橫表
 尺ノ分畫面ヲ後ロニシ左手ヲ縱表尺ノ下端ニ添へ表尺
 坐筒ノ溝ニ挿シ右手ノ下部ヲ縱表尺ヨリ少シク離シ表
 尺ヲ壓下ス其下端表尺坐筒ノ下方ニ出ツルニ至レハ左

手ヲ以テ之ヲ支ヘツツ縱表尺ヲ略二千米ノ距離ニ裝ス
 表尺ノ挿入抽出若ハ縱表尺ノ大ナル移動ニ方リテハ先
 ツ右手ヲ以テ解脫管ノ攫爪ヲ十分前方ニ壓シ左手ニテ
 縱表尺ノ下端ヲ支ヘ要スレハ右手ニテ縱表尺ノ上部ヲ
 握リ操作シ終レハ攫爪ヲ舊ニ復ス
 第四十六 表尺ヲ定ムルニハ縱表尺ヲ略所望ノ高サニ
 置キ渦狀螺桿ノ轉輪ヲ旋ラシテ所命ノ距離ヲ正シク坐
 筒上縁ニ一致トシメ次ニ誘導螺桿ノ轉輪ヲ旋ラシテ指
 標ヲ左ニ移シ縱表尺ニ示ス偏流數ニ等シキ分畫ニ合フ
 此際回轉盤ノ指標ハ零ニ在ルモノトス
 屢生スヘハ射距離變換ヲ行ヒ以テ表尺ヲ改ムルコト
 ニ習熟セシムルヲ要ス

象限儀ヲ用フルトキ表尺ヲ定ムルニハ之ヲ略最大距離ニ定メ象限儀ノ垂直線ニ依リ所命ノ距離ニ應スル偏流數ヲ讀ミ之ヲ横表尺ニ合ス此際回轉盤ノ指標ハ零ニ在ルモノトス

第四十七 回轉盤ヲ以テ方向角ヲ定ムルニハ右手ノ指ヲ解脫子ノ攫飯ニ當テ之ヲ十分後方ニ壓シ左手ヲ表尺頭ノ左線ニ當テ回轉盤ヲ旋ラシ其指標ヲ所命ノ分畫ニ合シ次ニ右手ヲ以テ轉輪ヲ旋ラシテ解脫子ノ指標ニ所命ノ補助分畫ヲ一致セシム但單ニ分畫ノミヲ命セラレタルトキハ解脫子ノ指標ニ補助分畫ノ零ヲ合セシムルヲ異リトス
補助分畫九十附近ニ在リテニ屢一分畫ノ裝定及讀ミ方

ヲ誤ルコトアルヲ以テ之ニ注意スルヲ要ス

第四十八 回轉盤ヲ以テ方向角ヲ修正スルニハ現ニ回轉盤竝解脫子ノ指標ノ對スル刻線ヨリ起リ所命ノ數ヲ増減シ其量ニ應スル數ヲ指標ニ一致セシム
前項ノ場合ニ在リテ回轉盤分畫ヲ修正スルニハ回轉盤ノ指標ヲ現ニ解脫子ノ指標ノ對スル補助分畫ノ量ニ略相當スル位置ニ移シタル後攫飯ヲ放ツヲ要ス又補助分畫ヲ修正スルニハ先シ其十位數ヲ逐次増減シ遂ニ所命ノ分畫ヲ合セシム
回轉盤分畫ヲ増(減)スルニハ回轉盤ノ指標ニ對シ之ヲ左(右)ニ移シ補助分畫ヲ増(減)スルニハ轉輪ヲ左(右)ニ旋ラシモノトス

第四十九 假標者ノ目標ノ位置ニ依リ眼鏡ヲ高ムルヲ要スルトキ又ハ六千米以上ノ距離ニ在リテハ表尺補助桿ヲ用ヒ方向照準ヲ爲ス
 表尺補助桿ヲ装スルニハ先ヅ表尺頭眼鏡室ノ發條ヲ壓シテ眼鏡ヲ脱シ之ヲ表尺補助桿ノ眼鏡室ニ嵌メ右手ヲ以テ表尺補助桿ノ下部ヲ握リ左手ヲ底飯ニ添へ底飯ヲ表尺頭ノ眼鏡室ニ装ス又表尺補助桿ヲ脱スルニハ之ト反對ノ操作ヲ爲ス
 表尺補助桿ヲ装シアルトキ眼鏡ヲ俯仰スルニハ頭飯ノ誘導螺ヲ以テス
 表尺補助桿ヲ装シアルトキハ操作ニ方リ之ニ依托スルコトヲ避クヘシ

第五十 表尺補助桿ヲ使用スルモ照準面ヲ目標ニ通スル能ハサル場合ニ於テ砲車上ニ立ツカ若ハ後方ノ高キ位置等ヲ利用シ眼高ヲ高メ照準面ヲ目標ニ通シ得ルトキハ砲車長ハ手要スレハ聲ニテ合圖ヲ爲シ四番ヲシテ架尾ヲ左右セシメ砲ニ方向ヲ與フル要スレハ標準鏡標桿若ハ之ニ代フヘキ物件ヲ以テ照準面ヲ決定スルコトアリ

第五十一 砲ニ方向ヲ與ヘタル後假標ヲ照準スルニハ回轉盤ヲ旋ラシテ眼鏡ノ縦線ヲ略假標ニ通セシメ第四十八第二項ノ要領ニ準シ攫飯ヲ放チ次テ轉輪ヲ旋ラシ之ヲ正シク假標ニ一致セシム
 此際射角ノ略所命ノ距離ニ應スル如ク取リアルヲ要ス

第五十二 横表尺ヲ以テ方向角ヲ修正スルニハ誘導螺桿ノ轉輪ヲ旋ラシ現ニ指標ノ對スル刻線ヨリ所命ノ數タケ指標ヲ右若ハ左ニ移ス

第五十三 表尺ヲ以テ照準ヲ爲スニハ四番ハ照準棍ヲ執リ架尾ヲ左右シテ砲口ヲ略目標ニ向ハシムニ番ハ左手ヲ以テ坐筒誘導螺桿ヲ旋ラシテ坐筒ニ在ル氣泡管ノ氣泡ヲ略中央ニ導キ然ル後眼ヲ眼鏡ヨリ約ネ三指幅ヲ隔テテ狼ヒ手若ハ聲ニテ合圖ヲ爲シ四番ヲシテ架尾ヲ左右セシメ眼鏡ノ縦線ヲ照準點ニ導キ次テ高低照準機轉把ヲ旋ラシテ眼鏡ノ十字ノ交截點ヲ照準點ト一致セシム而シテ方向ノ小修正ヲ爲スニハ搖架轉把ヲ旋ラシ眼鏡ノ縦線ヲ照準點ニ導ク

照門及照星ニ依リ照準ヲ爲スニハ前項ニ準シ照準面ヲ照準點ニ一致セシム此際ニ番ハ眼ヲ照門ヨリ約ネ二拳幅隔ツルヲ可トス第四圖

照準ニ方リ高低照準機轉把及搖架轉把ノ旋回ノ方向及其量ハ變換スハキ距離及方向ノ量ニ心手期セスシテ相一致スル如ク精熟セシムルヲ要ス

第五十四 方向照準ヲ爲スニ方リ架尾ノ移動大ナルトキハ一番ハ後方轉把ヲ旋ラシ制轉機セイブキヲ緩メ架尾ノ移動ヲ容易ナラシム

第五十五 高低水準器ヲ以テ照準ヲ爲スニハ二番ハ先ツ表尺ヲ所命ノ距離ニ定メ第五十三ノ如ク方向照準ヲ爲シ次テ高低照準機轉把ヲ旋ラシ成ルヘク眼ヲ高低水

準器ノ直上ニシ其氣泡ヲ氣泡管ノ中央ニ導ク此際豫メ高低角ノ修正ヲ爲シアルトキノ外高低水準器ノ分畫ハ零ニ在ルヲ要ス

照準ニ方リ氣泡ヲ迅速ニ導カンニハ高低照準機轉把ヲ右ニ旋ラストキハ氣泡ハ後方ニ移リ之ニ反スルトキハ前方ニ移ルコトニ注意スルヲ要ス

第五十六 高低角ヲ測ルニハ表尺ヲ以テ照準シタル後高低水準器ノ轉輪ヲ旋ラシ氣泡ヲ氣泡管ノ中央ニ導キ指針ノ指ス度数ヲ「高低角正(負)何度幾何」ト讀ムヘシ
第五十七 高低角ヲ修正スルニハ高低水準器ノ指針ヲ所命ノ度数ニ一致セシム

第五十八 象限儀ヲ定ムルニハ象限儀ノ垂直線ニ依リ

所命ノ距離ニ應スル角度分畫ヲ讀ミ其整數角度ニ等シキ本分畫ノ分畫ニ副分畫ノ指標ヲ合シ次テ十六分角度數ヲ副分畫上ニ讀ミ其刻線ヲ直ク次ニ在ル本分畫ニ一致セシム但十六分角度數八以上ニ在テハ先ツ副分畫ノ指標ヲ二分ノ一度タケ移動シ所命ノ十六分角度數ヨリ八ヲ減シタル數ニ等シキ副分畫ヲ前ノ如ク一致セシム
第五十九 象限儀ヲ以テ砲ニ射角ヲ與アルニハ二番ハ象限儀ヲ定メタル後砲尾上面ニ在ル駐筈ニ準シ分畫面ヲ左ニシテ象限儀ヲ靜ニ置キ次テ高低照準機轉把ヲ施ラシ氣泡ヲ氣泡管ノ中央ニ導ク
第六十 夜間照準ヲ爲スニハ通常假標トシテ携帶燈ヲ砲口ノ前方約ネ五十歩ニ置キ之ニ對シ方向照準ヲ爲シ

高低水準器ヲ以テ砲ニ射角ヲ與フ此際携帶燈ヲ以テ眼鏡ノ左側及高低水準器ノ下方ヲ照ス

第六十一 動目標ニ對シテハ二番ハ目標ノ運動ニ追隨シテ發射ヲ爲スニ至ルマテ照準ヲ續ク

第六十二 火光或ハ塵煙ノ外認識スル能ハサル目標ニ對シ照準ヲ爲スニハ二番ハ火光或ハ塵煙ヲ速ニ認識シ直ニ其位置ヲ記憶スルニ足ルヘキ點ヲ選ヒ之ヲ以テ爾後照準ノ據點ト爲ス要スレハ標桿ヲ立ツ

山砲照準法

第六十三 表尺ハ通常左ノ場合ニ使用ス

直接照準ヲ爲スヘキ場合

弧形照準機ヲ以テ高低照準ヲ爲スニ方リ方向飯ヲ以テ方向照準ヲ爲ササルトキ

第六十四 表尺ヲ裝スルニハ横表尺ノ分畫面ヲ後ロニシ坐筒發條ヲ壓シテ表尺溝ニ挿シ坐筒ノ支坐ヲシテ徐ロニ表尺溝ノ上縁ニ密合セシム

第六十五 表尺ヲ定ムルニハ一番ハ左手ヲ以テ駐螺ヲ緩メ右手ヲ以テ表尺頭ヲ摘ミ表尺幹ヲ略所命ノ高サニ抽出シ駐螺ヲ輕ク緊メ右手ヲ以テ轉螺ヲ旋ラシ所命ノ距離刻線ヲ正シク坐筒上縁ニ一致セシメタル後駐螺ヲ緊メ右手ヲ以テ螺桿頭ヲ旋ラシテ遊標ヲ左ニ移シ其矢標ヲ表尺高ニ應スル偏流數ニ等シキ分畫ニ合ス

偏流ヲ換フルニハ先ツ横表尺ヲ檢シ現ニ矢標ノ對スル刻線ヲ記憶シ此刻線ヨリ起リ號令セラレタル數タケ遊標ヲ右若ハ左ニ移ス但未タ表尺高ニ應スル偏流ヲ取リアラサルトキハ其數ヲ記憶シ之ニ所命ノ偏流數ヲ増減シ得タル數タケ遊標ノ右若ハ左ニ移ス
 屢、生スヘキ射距離變換ヲ行ヒ以テ表尺ヲ改ムルコトニ習熟セシムルヲ要ス

第六十六 表尺ヲ零ニ復スルニハ一番ハ駐螺ヲ緩メ表尺幹ヲ表尺坐筒ニ全ク挿シ駐螺ヲ緊メ横表尺ヲ零ニ復ス

第六十七 表尺ヲ以テ照準ヲ爲スニハ三番ハ砲車ニ面シ照準棍ヲ執リ架尾ヲ左右シテ遊標頭ト照星ニ互ル垂

直面ヲ示サレタル線ニ通セシムル如クス一番ハ照準ニ要スル姿勢ヲ取り暫時體ヲ右方ニ傾ケ三番ノ操作終ラントスルヤ轉把ヲ旋ラシ照準點ヲ照星ノ稍々上方ニ現ハサシメ目標ヲ照準シ其方向右(左)ニ偏スルニ從ヒ手若ハ聲ニテ合圖ヲ爲シ三番ヲシテ架尾ヲ左右セシム一番ハ再ヒ轉把ノ小旋回ニ依リ照準線ヲシテ全ク照準點ト一致セシム第五圖

照準ニ方リ照準機轉把ノ旋回ノ方向及其量ハ變換スヘキ距離ノ量ニ心手期セスシテ相一致スル如ク精熟セシムルヲ要ス

第六十八 方向照準ヲ爲スニ方リ架尾ノ轉移大ナルトキハ一番或ハ二番ハ其方ノ軌履ヲ少シク上ケ架尾ノ移

動ヲ容易ナラシム

第六十九 弧形照準機ハ不動目標ニ對シ通常左ノ場合ニ於テ砲ニ射角ヲ與フル爲使用ス

目標ノ認識困難ナル爲直接照準ヲ行ヒ難キトキ
目標ノ前後ニ在ル地物ニ依リ照準面ヲ目標ニ通スル
トキ

其他間接照準一般ノ場合

第七十 弧形照準機ヲ裝スルニハ右手ヲ以テ照準機ノ前端ヲ左手ヲ以テ其後端ヲ執リ分畫飯ヲ後ロニシ照準機ヲ坐飯ト直角ニシ裝著發條ノ孔ヲ坐飯ノ駐釦ニ嵌メ之ヲ左方ニ旋ラシツツ兩手ヲ以テ少シク照準機ヲ上ケ全ク之ヲ坐飯ニ裝ス

第七十一 弧形照準機ヲ定ムルニハ一番ハ轉鈕ヲ後方ニシ左手ヲ以テ誘導飯ヲ摘ミ之ヲ上ケ滑匣ヲ移動シテ指鍼ヲ略所命ノ距離刻線ニ致シ次テ右手ヲ以テ滑匣ノ後端ヲ壓シツツ左手ヲ以テ轉螺ヲ旋ラシ指鍼ノ前縁ヲ正シク所命ノ距離刻線ニ一致セシメタル後轉鈕ヲ舊ニ復ス但指鍼ヲ距離刻線ニ一致セシムル爲滑匣ヲ後方ニ移ストキハ右手ヲ以テ其後端ヲ壓スルコトナシ又豫メ高低角ノ修正ヲ爲シアルトキノ外指鍼ハ正シク滑匣分畫ノ零ニ在ルヲ要ス

射距離ヲ換フルニ方リ其量小ナルトキハ單ニ轉螺ノミヲ以テ滑匣ヲ移動スルヲ可トス
屢々生スハキ射距離變換ヲ行ヒ以テ弧形照準機ヲ改ム

動ヲ容易ナラシム

第六十九 弧形照準機ハ不動目標ニ對シ通常左ノ場合

ニ於テ砲ニ射角ヲ與フル爲使用ス

目標ノ認識困難ナル爲直接照準ヲ行ヒ難キトキ

目標ノ前後ニ在ル地物ニ依リ照準面ヲ目標ニ通スル

トキ

其他間接照準一般ノ場合

第七十 弧形照準機ヲ裝スルニハ右手ヲ以テ照準機

ノ前端ヲ左手ヲ以テ其後端ヲ執リ分畫板ヲ後ロニシ照

準機ヲ坐飯ト直角ニシ裝著發條ノ孔ヲ坐飯ノ駐釦ニ嵌

メ之ヲ左方ニ旋ラシツツ兩手ヲ以テ少シク照準機ヲ上

ケ全ク之ヲ坐飯ニ裝ス

第七十一 弧形照準機ヲ定ムルニハ一番ハ轉鈕ヲ後方

ニシ左手ヲ以テ誘導板ヲ摘ミ之ヲ上ケ滑匣ヲ移動シテ

指鍼ヲ略所命ノ距離刻線ニ致シ次テ右手ヲ以テ滑匣ノ

後端ヲ壓シツツ左手ヲ以テ轉螺ヲ旋ラシ指鍼ノ前縁ヲ

正シク所命ノ距離刻線ニ一致セシメタル後轉鈕ヲ舊ニ

復ス但指鍼ヲ距離刻線ニ一致セシムル爲滑匣ヲ後方ニ

移ストキハ右手ヲ以テ其後端ヲ壓スルコトナシ又豫メ

高低角ノ修正ヲ爲シアルトキノ外指鍼ハ正シク滑匣分

畫ノ零ニ在ルヲ要ス

射距離ヲ換フルニ方リ其量小ナルトキハ單ニ轉螺ノミ

ヲ以テ滑匣ヲ移動スルヲ可トス

屢、生ス、キ射距離變換ヲ行ヒ以テ弧形照準機ヲ改ム

ルコトニ習熟セシムルヲ要ス

第七十二 高低角ヲ測ルニハ表尺ヲ以テ照準シタル後
弧形照準機ノ轉鈕ヲ後方ニシ滑匣ヲ適度ニ移動シ次テ
轉螺ヲ旋ラシテ氣泡ヲ正シク氣泡筒ノ中央ニ導キ轉鈕
ヲ舊ニ復シ更ニ指鍼壓螺ヲ緩メ指鍼ヲ移動シテ表尺ト
同一ノ距離刻線ニ一致セシメテ指鍼壓螺ヲ緊メ指鍼ノ
滑匣分畫零ヨリ前(後)ニ在ルニ從ヒ滑匣分畫數ヲ一高
低角前(後)へ何度幾何ト讀ムヘシ

第七十三 高低角ヲ修正スルニハ滑匣ノ指鍼壓螺ヲ緩
メ指鍼ヲ前(後)ニ移動シテ所命ノ分畫ニ一致セシメタ
ル後指鍼壓螺ヲ緊ム

第七十四 弧形照準機ヲ以テ照準チ爲スニハ一番ハ表

尺ヲ略所命ノ距離ニ定メ偏流ハ正シク定メ次テ弧形照準機ヲ定メ
三番ト共ニ方向照準ヲ爲シ次テ一番ハ右手ヲ以テ轉把
ヲ旋ラシ眼チ弧形照準機ノ直上ニシ氣泡ヲ正シク氣泡
筒ノ中央ニ導ク

照準ニ方リ氣泡ヲ迅速ニ導カンニハ轉把ヲ左ニ旋ラス
トキハ氣泡ハ後方ニ移リ之ニ反スルトキハ前方ニ移ル
コトニ注意スルヲ要ス

第七十五 方向飯ハ不動目標ニ對シ通常左ノ場合ニ於
テ假標ノ媒介ニ依リ砲ニ方向ヲ與フル爲使用ス

砲車ノ附近ニ在リテ目標ヲ望見シ難ク且方向照準ヲ
爲スヘキ地物目標ノ前後ニ在ラサルトキ

第七十六 方向飯ヲ裝スルニハ脚桿キヤクカンヲ角度飯ト直角ニ

起シ突筒イボヲ後ロニシテ表尺坐筒ニ挿シ突筒ヲ表尺坐筒ノ準溝ニ嵌ム

第七十七 方向鈹ヲ定ムルニハ一番ハ先ツ旋鈹センパンネ壓螺ヲ緩メ指鈹ヲ所命ノ角度鈹分畫ニ一致セシメタル後其壓螺ヲ緊メ次ニ平鈹ヘイハンネ壓螺ヲ緩メ平鈹ノ矢標ヲ所命ノ數ニ一致セシメタル後其壓螺ヲ緊メ次テ規鈹テバシト細絲鈹ザイシントヲ起ス

第七十八 方向鈹ヲ以テ方向照準ヲ爲ヌニ方リ高低照準ハ弧形照準機ヲ以テ行フ

第七十九 方向鈹ヲ以テ方向照準ヲ爲ヌニハ一番ハ旋鈹ヲ略水平ナラシムル如ク關節壓螺クワンセツネヲ緊メ規鈹ノ垂直孔ヲ通シテ細絲鈹ノ細絲ト假標ト一致スル如ク手若ハ

聲ニテ合圖ヲ爲シ三番ヲシテ架尾ヲ左右セシム

第八十 方向鈹ヲ以テ方向角ヲ測ルニハ表尺ヲ以テ砲ニ方向ヲ與フルカ若ハ砲車ノ後方ヨリ通視シテ照準面ヲ目標ニ通セシメタル後旋鈹壓螺ヲ緩メ旋鈹ヲ移動シテ假標ヲ狙ヒ指鈹ヲ其最モ近キ分畫ニ一致セシメ旋鈹壓螺ヲ緊メ次ニ平鈹壓螺ヲ緩メ平鈹ヲ移動シテ假標ニ一致セシメタル後平鈹壓螺ヲ緊メ角度鈹上ニ於テ其分畫數ナ「何分畫」旋鈹上ニ於テ矢標ノ零ヨリ右(左)ニ在ルニ從ヒ其旋鈹分畫數ヲ「右(左)幾何」ト讀ムヘシ

第八十一 方向鈹ヲ以テ方向角ヲ修正スルニハ一番ハ平鈹壓螺ヲ緩メ矢標ノ一致セシ旋鈹分畫數ニ號令セラレタル分畫數ヲ増(減)シ其量ニ應スル分畫ニ矢標ヲ一

致セシメ平飯壓螺ヲ緊ム

第八十二 標桿ハ不動目標ニ對シ通常左ノ場合ニ於テ
方向照準ノ爲假標トシテ使用ス但標桿ニ代フヘキ適當
ノ地物アルトキハ之ヲ利用シテ標桿ニ代フ

直接照準ニ於テ射擊間目標ノ認識困難ニ陥ルカ或ハ
屢々隠ルルトキ

照準線ヲ直接ニ目標ニ通スル能ハサルモ架尾ノ後方
ヨリ照準面ヲ目標ニ導キ得ルトキ

方向飯ヲ以テ照準スルニ方リ照準面略目標ニ通スル
ニ至リタルトキ

夜間ノ照準

第八十三 照準線ヲ直接ニ目標ニ通スル能ハサルトキ

砲ニ方向ヲ與フルニハ一番ハ表尺ヲ略所命ノ距離ニ定
メ偏流ハ正次ニ架尾ノ後方ニ到リ目標及照星ノ延線中ニ
表尺ノ遊標頭ヲ位置セシムル如ク手若ハ聲ニテ合圖ヲ
爲シ三番ヲシテ架尾ヲ左右セシメ砲ノ方向ヲ定ム此際
三番ハ後方ニ向ヒ照準棍ヲ執ル

第八十四 標桿ヲ假標トシテ照準ヲ爲スニハ第七十四
ノ要領ニ準ス但標桿上端中央ニ對シ方向照準ヲ行フ
若後方ニ標桿ヲ立テアルトキハ一番ハ前身ノ右側ニ到
リ後方ニ面シ照星ト標桿上端ノ中央ニ互ル垂直面中ニ
遊標頭ヲ位置セシムル如クス此際要スレハ二番ハ一番
ノ指示ニ應シテ砲尾ヲ上下ス

第八十五 夜間照準ヲ爲スニハ通常假標トシテ提燈ヲ

砲口ノ前方約ネ五十歩ニ置キ之ニ對シ方向照準ヲ爲シ
 弧形照準機ヲ以テ砲ニ射角ヲ與フ此間ニ番ハ他ノ提燈
 ヲ用ヒテ照星ヲ側方ヨリ弧形照準機ヲ前方ヨリ照ス
 第八十六 一般ニ標桿ヲ立テタル場合ニ在リテハ發射
 後砲車ヲ舊ニ復スルコトニ注意スヘシ之カ爲車軸ノ一
 端ニ更ニ標桿又ハ所在ノ物件ヲ立ツルカ若ハ地物ニ依
 リテ砲車ノ位置ヲ標ス
 第八十七 動目標ニ對シテハ照準線一タヒ目標ニ通ス
 ルヤ一番ハ「良シ」ト唱ヘ爾後目標ノ運動ニ追隨シテ發
 射ヲ爲スニ至ルマテ照準ヲ續ク
 目標橫行ノ速度大ナルトキハ一番或ハ二番ハ時々其方
 ノ軋履ヲ少シク上ケ架尾ノ轉移ヲ容易ナラシム

第八十八 火光或ハ塵煙ノ外認識スル能ハサル目標ニ
 對シ照準ヲ爲スニハ一番及三番ハ火光或ハ塵煙ヲ速ニ
 認識シ直ニ其位置ヲ記憶スルニ足ルヘキ點ヲ選ヒ之ヲ
 以テ爾後照準ノ據點ト爲ス要スレハ標桿ヲ立ツ

照準手拔擢法

拔擢順序

第八十九 照準手ノ拔擢ハ毎年各中隊ニ於テ之ヲ行フ
 第九十 中隊長ハ各年期ノ兵卒中視力聽力發達シ性質
 沈著ニシテ理解力ニ富ミ且射擊操作ニ熟シ特ニ照準ノ
 技術ニ長シ照準手タルニ適スト認ムル者約ネ十名ツツ
 ニ就キ射擊演習ニ先チ選抜検査ヲ行フ

野砲(騎砲)ノ爲検査科目左ノ如シ

二番ノ行フ直接照準

高低水準器ヲ以テスル高低照準

二番及四番ノ照門及照星ヲ以テスル照準

山砲ノ爲検査科目左ノ如シ

直接照準

弧形照準機ヲ以テスル高低照準

三番ノ行フ方向照準

此検査ニ於テ各科十四點以上ヲ得タル者ニ射撃演習中野砲(騎砲)ニ在リテハ照準手及四番山砲ニ在リテハ照準手及三番ノ動作ヲ爲サシメ其成績良好ニシテ性質照準手ニ適スト確認スル者ニ就キ選拔照準手ヲ命シ之ヲ

軍隊手牒ニ記入ス

選拔照準手ハ十五名各年期約
ネ五名ナルヲ要ス

選拔照準手ノ列序ハ選拔検査ノ成績ニ從ヒ之ヲ定メ若其成績相等シキ者アルトキハ先ツ選拔検査ノ總誤差ヲ比較シ其誤差尙相等シキ者アルトキハ野砲(騎砲)ニ在リテハ二番ノ行フ直接照準ノ誤差ヲ山砲ニ在リテハ直接照準ノ誤差ヲ比較シ其列序ヲ定メ尙此成績相等シキ者アルトキハ検査ヲ復行ス

選拔検査法

第九十一 野砲標的第六圖ヲ約ネ二千米ノ所ニ置キ目標ト爲ス

第九十二 野砲又ハ騎砲ニ在リテハ左ノ方法ニ依リ檢査ヲ行フ

二番ノ行フ直接照準 砲隊鏡ニ蛛網ヲ十字ニ張リテ之ヲ砲身ニ裝ス
檢査官ハ表尺ヲ二千米ニ定メ眼鏡ヲ通シ目標ヲ照準シ次ニ砲隊鏡ノ延線上七十米ノ所ニ標板第七圖ヲ立テ然ル後砲隊鏡ヲ移動シ其十字ヲ標板ノ中央ニ合セシム
以上ノ準備終レハ檢査官ハ高低照準機轉把及搖架轉把ヲ約ネ一旋回シ然ル後「二千」ノ號令ヲ下ス但表尺ハ檢査準備ニ用ヒタルモノヲ移動セサルヲ要ス
此號令ニテ二番ハ眼鏡ヲ通シ照準ヲ爲ス檢査官ハ五秒ノ終ニ「止」ノ號令ヲ下シ砲隊鏡ヲ覗キ其十字ハ何レ

ノ點ニ在ルカヲ確メ一珊米ノ略近數ヲ以テ方向高低ノ誤差ヲ測リ連續五回施行ノ後方向高低ノ平均誤差ヲ加ハ之ヲ二分ス

高低水準器ヲ以テスル高低照準 表尺ヲ千八百米ニ定メ高低水準器ヲ以テ高低照準ヲ爲シ砲隊鏡ヲ移動シ其十字ヲ標板ノ橫軸ニ合セシメ次ニ高低照準機轉把ヲ旋ラシ表尺ヲ略二千米ノ高サニ置キ然ル後「千八百」ノ號令ヲ下ス

此號令ニテ二番ハ表尺ヲ定メ高低水準器ヲ以テ高低照準ヲ爲ス檢査官ハ八秒ノ終ニ「止メ」ノ號令ヲ下シ前法ニ準シ高低ノ誤差ヲ測リ連續五回施行ノ後其平均誤差ヲ求ム

二番及四番ノ照門及照星ヲ以テスル照準 表尺ヲ二千四百米ニ定メ照門及照星ヲ通シ目標ヲ照準シ砲隊鏡ヲ移動シ其十字ヲ標板ノ中央ニ合セシメ次ニ架尾ヲ側方ニ移動シ高低照準機轉把ヲ旋ラシ表尺ヲ略二千米ノ高さニ置キ且横表尺二箇ヲ違ヘ然ル後「二千四百二ツ右(左)へ」ノ號令ヲ下ス

此號令ニテ二番ハ表尺ヲ定メ四番ト協同シ照門及照星ヲ通シ照準ヲ爲ス検査官ハ十四秒ノ終ニ「止メ」ノ號令ヲ下シ前法ニ準シ方向高低ノ誤差ヲ測リ連續五回施行ノ後方向高低ノ平均誤差ヲ加ヘ之ヲ二分ス

第九十三 山砲ニ在リテハ左ノ方法ニ依リ検査ヲ行フ
直接照準 砲隊鏡ニ蛛網ヲ十字ニ張リテ之ヲ砲身ニ縛

ル

検査官ハ先ツ表尺ヲ以テ目標ヲ照準シ次ニ轉把ヲ旋ラシテ砲隊鏡ヲ略水平ナラシメ其延線上七十米ノ所ニ標板第七圖ヲ立テ成ルヘク其中央ヲシテ砲隊鏡ノ十字ト合セシメ其點ヲ記憶ス而シテ表尺高要スレハ横表尺ヲモ移動シ照準線ヲシテ照準點ニ一致セシメ検査ニ用フル表尺ヲ決定ス

以上ノ準備終レハ検査官ハ架尾ヲ側方ヘ移動シ轉把ヲ旋ラシ表尺高ヲ零ニ置キ且横表尺ハ所要ノ偏流ト二箇ヲ違ヘ然ル後「何千何百二ツ右(左)へ」ノ號令ヲ下ス但此表尺ハ検査準備ニ於テ得タルモノナルヲ要ス
此號令ニテ一番ハ表尺ヲ定メ三番ト協同シテ照準ヲ爲

ス検査官ハ十八秒ノ終ニ「止メ」ノ號令ヲ下シ砲隊鏡ヲ
 覗キ其十字ハ何レノ點ニ在ルカヲ確メ曩ニ記憶セシ點
 ヨリ起算シ一珊瑚米ノ略近數ヲ以テ方向高低ノ量ヲ測リ
 連續五回施行ノ後方向高低ノ平均誤差ヲ加ヘ之ヲ二分
 ス

弧形照準機ヲ以テスル高低照準砲隊鏡ノ十字ヲ標板ノ
 横軸ニ合セシメ弧形照準機ヲ以テ射角ヲ測リ要スレハ
 指鍼ヲ移動シ検査ニ用フル距離刻線ヲ決定ス次ニ轉把
 ヲ旋ラシ弧形照準機ノ滑匣ヲ零ニ置キ然ル後「何千何
 百」ノ號令ヲ下ス但此距離ハ検査準備ニ於テ得タルモ
 ノナルヲ要ス

此號令ニテ一番ハ弧形照準機ヲ定メ高低照準ヲ爲ス檢

査官ハ十二秒ノ終ニ「止メ」ノ號令ヲ下シ前法ニ準シ高
 低ノ誤差ヲ測リ連續五回施行ノ後其平均誤差ヲ求ム
 三番ノ行ヲ方向照準 砲隊鏡ノ十字ヲ標板ノ縱軸ニ合
 セシメ次ニ表尺ヲ移動シ照準線ヲシテ目標ニ一致セシ
 メ架尾ヲ側方ニ移動シ然ル後「何千何百」ノ號令ヲ下ス
 此號令ニテ三番ハ方向照準ヲ爲ス検査官ハ五秒ノ終ニ
 「止メ」ノ號令ヲ下シ前法ニ準シ方向ノ誤差ヲ測リ連續
 五回施行ノ後其平均誤差ヲ求ム
 第九十四 平均誤差ノ計算ハ正負ニ關スルコトナク毎
 回ノ高低（方向）誤差ヲ加ヘ其和ヲ照準回數ニテ除ス
 第九十五 平均誤差ノ數ニ應シ第一表ニ示ス點數ヲ與
 フ

褒賞及報告

第九十六 毎年射擊演習終レハ聯隊長ハ選拔照準手中其成績優等ナル者ヲ褒賞スル爲聯隊ヲ整列シ優等者ニ徽章ヲ與フ但徽章ヲ授與スルニハ之ニ聯隊長ノ名ヲ以テ其優等ヲ證シタル賞狀ヲ添附スルモノトス

第九十七 徽章ハ中隊毎ニ選拔照準手列序ニ從ヒ各科十七點以上ノ成績ヲ得タル者五名ニ之ヲ與フ

第九十八 徽章ハ全服役間之ヲ佩用シ上衣ノ左助ニシテ概ネ第三第四釦ノ中間ノ高サニ佩フ若數箇ヲ有スルトキハ右ヨリ左ニ列スヘシ但之ヲ佩用スルハ制服ヲ著シタルトキニ限ル

第九十九 中隊長ハ選拔照準手列序表^{第二}ヲ製シ大隊長ヲ經テ聯隊長ニ呈シ聯隊長ハ其人名ヲ隊中ニ布達ス但旅團内ノ聯隊ニ在リテハ聯隊長ハ之ヲ旅團長ニ呈ス

第三篇 射法

要則

第百 射砲ハ野砲(騎砲)及山砲ノ精度ニ基キ戰鬪間屢
遭遇スヘキ場合ニ應スル射擊修正一般ノ法則ヲ規定
ス

第百一 修正確實ニシテ迅速ナルハ射擊術ノ要訣ナリ
故ニ何レノ場合ニ在リテモ教範ノ精神ニ基キ準據スヘ
キ各現象ヲ十分ニ利用シ時機ヲ失セス効力ヲ發揚スル
ヲ要ス之カ爲射法ニ通曉スルハ極テ緊要ナリ

第百二 射擊ハ之ヲ連續スル試射効力射ノ二期限ニ分

ツ

第一期 試射ハ略近表尺ヲ得ルヲ目的トス之ニ依リ
テ得タル表尺ヲ試表尺ト稱フ

第二期 効力射ハ試表尺及破裂點ノ位置ヲ修正シ効
力ヲ收ムルヲ目的トス

第百三 射法ハ中隊ノ爲ニ規定ス而シテ數多中隊ノ射
擊ニ在リテハ各中隊ハ統一的指揮ノ下ニ此法則ヲ履行
スルモノトス

射彈ノ觀測

第百四 彈著點及破裂點ノ目標ニ關スル遠近、方向及
高低ヲ正當ニ觀測スルハ射擊修正ノ基礎ナリ故ニ觀測

射法

確實ナラサル射彈ハ決シテ射撃修正ノ資ト爲スコトヲ得ス

第百五 視力ニ適スル精良ノ眼鏡ハ著シク觀測ヲ容易ナラシム然レトモ若目標近キカ或ハ最初ノ射彈方向疑ハシキ虞アルカ又ハ著シク側方ニ在リテ觀測ヲ爲ストキ射彈目標ニ接近セサル間ハ眼鏡ヲ用ヒスシテ觀測スルヲ利トスルコトアリ

發射ノ前後ニ於テ無益ニ長ク眼鏡ヲ使用スルトキハ眼ヲ疲勞セシメ往々誤觀測ヲ爲シ且射撃指揮ヲ害スルニ至ルヘシ

第百六 著發射撃ニ於テ射彈目標ト觀測者トノ線内彈著スルトキ爆煙目標ヲ蔽ヘハ其射彈ハ近ク目標爆煙ヲ蔽ヘハ遠ク又波狀地若ハ傾斜地ニ於テ爆煙目標ノ下(上)方ニ現ハルレハ近(遠)シ爆煙ヲ見ル能ハサルトキト雖彈著ニ依リテ砂塵破碎物等ヲ生スルトキハ之ヲ同一ノ徵候ニ供スルコトヲ得

命中彈ハ單ニ目標ニ及ホシタル效力ニ依リテ之ヲ知ルコトヲ得其他爆煙初目標ノ一方ニ現ハレタル後直ニ他ノ一方ニ現ハルルトキハ之ヲ命中彈ト看做スコトヲ得數彈同時ノ觀測ニ於テ遠近兩彈ヲ併セ得タルトキハ目標ヲ爽又セルモノトス

第百七 一般ニ射彈ヲ觀測スルニハ爆煙ノ起レル瞬時ニ於テスルヲ要ス風射線ト平行ニ吹トキ殊ニ然リ場合ニ依リ稍々長ク觀測スルヲ利トスルコトアリ

第六百八 射彈若目標ト觀測者トノ線内ニ彈著セサルト
キ左ニ示ス如キ場合ニ在リテハ目標ニ關スル彈著點ノ
遠近ヲ判定スルコトヲ得

風射線ト直角ニ吹クトキ爆煙目標ノ前(後)方ヲ通過ス
レハ其射彈ハ近(遠)シ又風斜メニシテ放列(目標)ヨリ
目標(放列)ノ方ニ吹クトキハ近(遠)著彈ノミヲ知リ
得ヘシ但此等ノ場合ニ於テハ稍々長ク觀測スルヲ必要
トスルコトアリ

又目標トノ關係位置ヲ偵知シアル地物ノ媒介ニ依ルカ
目標ヲ瞰下シ得ヘキ位置ニ在リテ觀測スルカ若ハ目標
所在ノ地形其前後ノ地形ト色相ヲ異ニスルカ如キ特別
ナル場合ニ於テハ前記ノ要領ニ準シ往々射彈ノ遠近ヲ

判定シ得ルコトアリ

第六百九 其他尙放列ノ側方若ハ放列内ニ在ル補助觀測
手ト中隊長トノ觀測ヲ以テ交會法ニ依リ目標ニ關スル
射彈ノ遠近ヲ判定スルコトヲ得ヘシ之カ爲中隊長ハ補
助觀測手ニ標線トシテ目標ノ全部若ハ一部ノ幅ヲ示ス
補助觀測手ハ中隊長ニ面シ彈著點ヲ標線ノ右(左)方ニ
見レハ右(左)手ヲ其側方ニ伸ハシ方向中ニ見レハ兩手
ヲ舉ケ方向疑ハシキトキハ帽ヲ振り見エサトキハ兩手
ヲ舉ケ交叉スル如ク左右ニ振ル
夜間ニ在リテハ携帶燈若ハ提燈等ヲ以テ前頂ニ準スル
記號ヲ爲スモノトス

中隊長補助觀測手共ニ同方向ニ見レハ射彈ハ疑ハシ但

標線ノ方向ナルトキハ射彈ハ夾又トス
二觀測同シカラヌシテ補助觀測手目標ノ方ニ手ヲ伸ハ
セハ射彈ハ遠シ之ニ反スレハ近シ

補助觀測手兩手ヲ舉ケ中隊長補助觀測手ニ反スル方ニ
見レハ射彈ハ遠シ補助觀測手ノ方ニ見レハ近シ
又放列内ニ在ル小隊長ノ觀測ヲ交會法ニ依ル觀測ニ利
用スルハ屢々必要ナリ

第一百 補助觀測手ノ位置ヨリ確實ニ目標ニ關スル彈
著點ノ遠近ヲ觀測シ得タルトキハ其遠近ヲ報スル爲中
隊長ニ面シ片手ニ帽ヲ執リ遠著彈ナルトキハ之ヲ目標
ノ方へ水平ニ伸ハシ近著彈ナルトキハ之ニ反ス
第一百一 曳火射撃ニ於テハ破裂高ノ觀測ヲ爲スト同

時ニ破裂點ノ目標ニ關スル遠近ヲ知ルコト緊要ナリ爆
煙目標ノ高サニ現ハルル如ク低ク破裂スルカ或ハ前二
條ノ法ニ準シ觀測スルトキハ著發セル射彈ト同一ノ要
領ニ從ヒ目標ニ關スル破裂點ノ遠近ヲ判定シ得ヘシ
爆煙目標ノ高サニ破裂セサル曳火榴霰彈ニ在リテモ其
彈子ノ效力及其落達ノ景況時トシテハ日光ノ爲地上ニ
現ハルル爆煙ノ投影又ハ目標トノ關係位置ヲ偵知シア
ル地物ノ媒介ニ依リテ目標ニ關スル破裂點ノ遠近ヲ判
定スルコトヲ得

目標後ニ於テ著發セル曳火榴霰彈ノ破裂點ハ通常目標
後ニ在リト推定スルコトヲ得然レトモ目標前ニ於テ著
發シタルモノニ在リテハ目標ニ關スル其破裂點ノ位置

ヲ推定スルコト能ハス

第一百十二 破裂距離ノ大小ハ側方位置ヨリ觀測スルカ
或ハ彈子落達ノ景況ヲ明瞭ニ觀測シ得ルトキニ限り之
ヲ判定スルコトヲ得

第一百十三 地面ニ近ク破裂スル曳火ト著發トハ爆煙ノ
色ト其形狀トニ依リ屢々之ヲ區別スルコトヲ得即チ爆
煙ノ色白クシテ形圓キトキハ概ネ曳火セルモノニシテ
其色濁リヲ帶ヒ形不規ナルモノハ概ネ著發セルモノト
判定シ得ヘシ

第一百十四 目標ノ後方急峻ナル登傾斜ヲ爲ルトハ
標上ノ著發ハ破裂高修正上著發ト看做スコトヲ得又
一般ニ目標下ノ曳火ハ破裂高修正上著發ト看做スコト

ヲ得

第一百十五 良好ナル破裂高ハ野砲又ハ騎砲三千米以下
ニ在リテハ射距離ノ約ネ千分ノ三其以上ニ在リテハ約
ネ千分ノ四ニ應スル高サニシテ之ヲ基高ト稱フ山砲ニ
在リテハ野砲又ハ騎砲ノ二倍トス
基高ヨリ高ク破裂スルモノヲ高シ其二倍以上ノモノヲ
甚高シ又基高ヨリ低キモノヲ低シト稱フ
六射彈中二發以上甚高キ(著發スル)カ或ハ五發以上
高(低)キトキハ其平均破裂高ハ過高(過低)ナリトス其
他ノ場合ニ在リテハ平均破裂高ハ良好ナリトス
千五百米以内ノ距離射撃上特ニ近
距離ト謂フニ在リテハ平均破裂高
ハ基高ヨリモ稍々低キヲ可トス

破裂高ハ目標露出スルトキハ露出部ノ脚ヨリ遮蔽スルトキハ遮蔽稜頂ヨリ算ス然レトモ遮蔽セル目標ニ對シテハ其遮蔽稜頂ヨリ低下セル度ヲ顧慮シ信管距離ヲ修正スルヲ要ス

第一百十六 良好ナル平均破裂高ヲ有スル數多ノ曳火榴霰彈目標ノ前方ニ於テ曳火スルニ方リ稀ニ後方ニ於テ曳火スルカ或ハ數多射彈ノ彈子目標ノ前後ニ跨リテ落達スルカ或ハ效力ヲ現ハスコトヲ確實ニ觀測スルカ或ハ破裂距離ノ測知ニ依リテ其景況可ナルコトヲ知ルトキハ平均破裂點ノ位置ハ良好ナルモノトス之ニ反シ若六射彈中二箇以上ノ比ヲ以テ目標後ニ於テ曳火スルカ或ハ數多射彈ノ彈子ノ全部目標後ニ落達スルトキハ其

平均破裂點ハ過遠ニシテ不良ナルモノトス又側方ヨリノ觀測若ハ彈子落達ノ景況ニ依リ破裂距離過大ナルヲ認ムルトキハ其平均破裂點ハ過近ニシテ不良ナルモノトス其他觀測容易ナルニ方リ毫モ效力ヲ認めサルトキハ其平均破裂點ノ位置ハ不良ナルモノトス
第一百十七 觀測ヲ確實ナラシムル爲中隊長ハ其觀測ノ結果ヲ直ニ發唱スヘシ

不動目標ニ對スル射擊

試射

第一百十八 試射ハ通常著發榴霰彈ヲ以テ行フ

第一百十九 目標ヲ遠近兩彈ノ間ニ夾又ス之カ爲四百米若ハ二百米ノ闊度ヲ以テ逐次距離ヲ増減シ遂ニ最初ノ射彈ト反對方位ノ一射彈ヲ得ルニ至ル
 斯ノ如クシテ得タル夾又ヲ逐次ニ半減シ著發射擊ニ在リテハ遂ニ五十米ニ短縮シテ其中數ヲ試表尺ト定ム但著發榴霰彈ニ依リ試射ヲ行ヒタル後曳火射擊ニ移ルニ方リテハ其夾又ヲ百米ニ止メ兩極限ヲ試表尺ト定ム
 命中彈又ハ夾又彈ヲ得タルトキ著發射擊ヲ續行スルニ方リテハ其距離ヲ以テ試表尺トシ曳火射擊ニ移ルニ方リテハ之ヲ試表尺ノ近極限ト定ム
 六千米以上ノ著發射擊ニ在リテハ夾又ヲ百米ニ止ムルヲ異リトス

第一百二十 夾又ノ探求中全ク觀測シ得サル射彈アルトキハ遅クモ三發ノ後他ノ距離ニ移ル
第一百二十一 低破裂ノ曳火榴霰彈ノ破裂點ヲ以テ射ヲ行フニハ齊發ヲ用ヒ第一百十九ノ要領ニ準シ百米夾又ヲ求メ次テ著發射擊ニ移ルニ方リテハ其近極限ノ表尺ヲ以テ試射ヲ續行ス其夾又闊度ハ五十米トス曳火射擊ヲ續行スルニ方リテハ其兩極限ヨリ各、五十米ヲ減シタル距離ヲ以テ試表尺ト定ム
 夾又彈ヲ得タルトキ著發射擊ニ移ルニ方リテハ其表尺ヲ以テ前項ノ如ク試射ヲ續行ス曳火射擊ヲ續行スルニ方リテハ其距離ヨリ五十米ヲ減シタルモノヲ試表尺ノ近極限ト定ム

破裂點低下ノ度ハ其平均破裂高零乃至四分ノ二基高ナルヲ適度トス之ヲ爲行フ修正ハ信管距離ノ變換ヲ以テス
 著發彈ヲ觀測シ得タルトキハ破裂點ヲ以テスルモノト同一ト着做ス又基高以上ノ破裂點ヲ以テ近彈ノ觀測シ得タルトキハ射擊修正ノ資ト爲スコトヲ得ス

效力射

著發射擊

第二百二十二 效力射ヲ爲スニハ先ツ試表尺ヲ以テ射擊ヲ續行ス修正ハ通常觀測シタル六射彈毎ニ之ヲ行フ

第二百二十三

目標ニ對シ六射彈中二乃至四發近キトキハ修正完シトス六射彈中二箇ノ命中彈ヲ觀測シタルトキモ亦同シ

諸種ノ射彈ヲ得ルモ其比例所望ニ達セサルカ或ハ最初ノ三射彈悉ク同方位ナルトキハ射距離五十米ノ修正ヲ爲ス此修正過大ニシテ尙所望ニ達セサルカ或ハ最初ノ三射彈悉ク同方位ナルトキハ更ニ反對方位へ二十五米ノ修正ヲ爲ス

前項ニ反シ五十米ノ修正尙過小ニシテ所望ニ達セサルカ或ハ最初ノ三射彈悉ク同方位ナルトキハ更ニ五十米ノ修正ヲ爲スカ或ハ夾又ヲ探求ス
 既ニ一タヒ所望ノ比例ニ達スルカ或ハ二十五米ノ修正

ヲ行ヒタル後更ニ距離ノ修正ヲ行フニハ數多射彈觀側ノ結果ニ從フ

六千米以上ノ距離ニ在リテハ前諸項ノ修正量ヲ二倍ス
第百二十四 材料破壊ヲ目的トスル射撃ニ在リテハ前條ノ要領ニ從ヒ一タビ所望ノ比例ニ達スルカ或ハ二十五米ノ修正ヲ行ヒタル後砲車毎ニ射撃ノ修正ヲ爲スコトヲ得此場合ニ在リテハ觀測セル每砲車ノ六射彈中二乃至三發近キトキハ修正完シトス六射彈中二箇ノ命中彈ヲ觀測シタルトキモ亦同シ

第百二十五 若觀測困難ニシテ夾又ヲ所望ノ闊度ニマテ短縮シ能ハサルトキハ得タル夾又ノ近極限ヲ起點トシ中隊一順毎ニ五十米ツツ距離ヲ増シ以テ夾又内疑ハシキ地境ヲ反復射撃シ爲シ得レハ夾又矩縮ス全ク遠著彈ヲ觀測シ得サルトキモ又之ニ準ス
深長ナル地域ニ普ク效力ヲ及ホサントスル場合ニ於テモ又前項ノ要領ニ準ス

曳火射撃

第百二十六 試表尺ヲ得タル後尙裝填シアル著發榴霰彈ハ近極限ヲ以テ擊拂ヲ爲サシム其射彈悉ク目標後ニ彈著スルトキハ更ニ夾又ヲ探求メ但觀測セル射彈三發ニ滿タサルトキハ之ヲ行フコトナシ

第百二十七 土地ノ高度、天候、季節其他ノ原因ニ依リ若射距離ト信管距離トノ一致セサルコトヲ豫知スル

トキハ所要ノ信管距離ヲ修正スルヲ要ス
 高低水準器、象限儀若ハ弧形照準機ヲ用ヒテ射撃ヲ行
 フトキ高低角アルトキハ前項ニ準シテ修正ス但豫メ高
 低角ノ修正ヲ爲シアルトキハ之ヲ行フコトナシ
第二百二十八 既ニ試表尺ヲ得レハ通常先ツ其近極限ニ
 テ曳火榴霰彈裝填シ百米夾又ノ兩極限ヲ交互ニ射撃ス
 之カ爲通常一順裝填ヲ用フ要スレハ一極限ヲ數順射撃
 スルコトヲ得

第二百二十九 破裂高及破裂距離良否ノ決定ハ通常觀測
 シタル六射彈ノ結果ニ基ク

第三百十 六射彈中最初ノ二射彈連續甚高キカ或ハ著
 發スルカニ從ヒ直ニ射距離五十米ヲ減シ或ハ増シテ一

發發射ス此一發尙同景況ヲ生スルトキハ更ニ射距離五
 十米ヲ減シ或ハ増ス修正可ナリト認ムルニ至ルマテ斯
 ノ如クス然ルトキハ次回ノ一順裝填ニハ其得タル修正
 量ノ和ヲ信管距離ニ修正ス但此際試表尺ヲ變スルコト
 ナシ

其他ノ場合ニ在リテハ平均破裂高過高ナルカ過低ナル
 カニ從ヒ次ノ一順裝填ニハ信管距離二十五米ヲ修正シ
 遂ニ良好ナル平均破裂高ヲ得ルニ至ル既ニ一タヒ良好
 ナル平均破裂高ヲ得レハ爾後ノ修正ハ數多射彈觀測ノ
 結果ニ從フ二十五米ノ修正後次ノ一順裝填ニ於テ其修
 正過大ナル結果ヲ現ハシタルトキモ又同シ

第三百三十一 平均破裂高良好ナルトキ破裂距離ノ修正

ハ左ノ法ニ從フ
 兩極限中一極限ニ於ケル平均破裂點ノ位置良好ナルト
 キハ其極限ニ於テ連續裝填ス
 近極限ニ於ケル平均破裂點ノ位置過近ニシテ遠極限ニ
 於ケルモノ過遠ナルトキハ其中數ニ於テ連續裝填ス
 近(遠)極限ニ於ケル平均破裂點ノ位置過近(過遠)ナル
 トキハ之ヲ放棄シ遠(近)極限ヲ射撃ス爾後連續裝填
 ヲ爲スヘキ標準ヲ得サルトキハ此極限及之ヨリ百米増
 (減)シタル距離ヲ交互ニ射撃ス
 遠(近)極限ニ於ケル平均破裂點ノ位置過近(過遠)ナル
 トキハ兩極限ヲ放棄シ遠(近)極限ヨリ更ニ百米遠(近)
 キ距離ヲ射撃ス爾後連續裝填ヲ爲スヘキ標準ヲ得サル

トキハ此距離及之ヨリ百米増(減)シタル距離ヲ交互ニ
 射撃ス
 平均破裂點ノ位置ニ關シ確實ナル標準ヲ得サルトキハ
 百米夾又ノ兩極限ヲ交互ニ射撃ス
 破裂點位地ノ判定困難ナルニ方リ要スレハ一時射距離
 ヲ減少シ破裂高ヲ低下シテ觀測スルコトヲ得
 某距離ニ於テ射撃中六發ノ發射ヲ待タスシテ其距離ヲ
 放棄スヘキ標準ヲ得タルトキハ直ニ他ノ距離ニ移ルコ
 トル得
 連續裝填後ノ修正ハ數多射彈觀測ノ結果ニ從ヒ其修正
 量ハ通常五十米トス
 第三百三十二 防楯及其他ノ掩護物ニ據ル敵ニ對シテハ

目標ノ景況ニ應シ曳火射撃及著發射撃ヲ時時變換スルヲ必要トス

曳火射撃ヨリ著發射撃ニ移ルニハ連續裝填中ナルトキハ其距離ヲ以テ直ニ試表尺トス未タ連續裝填ノ標準ヲ得サルトキハ通常先ツ中數表尺ヲ取り五十米ノ闊度ヲ以テ更ニ試射ヲ行フ

著發射撃ヨリ曳火射撃ニ移ルニハ通常其距離ヲ以テ連續裝填ニ移ル

時トシテ夾又ヲ短縮シ破裂高ヲ低下セル曳火榴散彈ヲ用フルヲ利トスルコトアリ然ルトキハ五十米夾又ノ兩極限ヲ交互ニ射撃スルカ若ハ其中數ヲ以テ射撃ス

第三百三十三 若觀測困難ニシテ夾又ヲ所望ノ闊度ニマ

テ短縮シ難キトキハ夾又ヲ先ツ二百米以上ニ止メ其近極限ヲ起點トシ百米ツツ距離ヲ増シ夾又闊度内ヲ一順裝填ヲ以テ反復射撃シ爲シ得レハ破裂點ノ觀測ニ依リ夾又ヲ短縮ス

第三百三十四 遮蔽セル目標ニ對シテハ其位置トノ關係ヲ知レル地物ニ試射ヲ行ヒ所要ノ修正ヲ爲シ百米ツツ距離ヲ變換ン推定セル目標地域ヲ一順裝填ヲ以テ反復射撃シ以テ普ク全地域ニ射彈ヲ散布ス而シテ此地域ノ廣狹ニ從ヒ要スレハ掃射ヲ行フ

斯ノ如キ射撃ニ在リテ十分ナル效力ヲ收メンニハ多クノ彈藥ヲ要スルヲ以テ諸種ノ手段ヲ盡シ目標地域ヲ探求スルヲ要ス

第三百三十五 射方向ニ於ケル縱深大ナル目標或ハ地域

ニ普ク效力ヲ及ホサントスル場合ニ於テハ級梯表尺ヲ取ルカ或ハ第三百三十三ニ準シテ射撃ス
第三百三十六 四百米以内ニ近接シタル目標ニ對シテハ零距離ノ曳火榴霰彈ヲ裝填シ急射ヲ行フ

動目標ニ對スル射撃

第三百三十七 動目標ニ對シ試射スルニハ概ネ**第一百十八**乃至**第一百二十一**ノ要領ニ準シ目標ノ速度及行進方向ニ從ヒ百米乃至四百米ノ間ニ目標ヲ夾又ス

第三百三十八 曳火射撃ヲ行フニハ裝填シアル著發榴霰彈ヲ近極限ニテ擊拂ヲ爲シ其觀測ノ結果及目標ノ速度並行進方向ヲ顧慮シ效力ヲ期スヘキ一距離又ハ數距離

ニテ曳火榴霰彈ヲ以テ彈數指定ノ急射ヲ行フ但退行目標ニ在リテハ裝填シアル著發榴霰彈ハ通常遠極限ニテ擊拂ヲ爲スモノトス

目標效力界ヲ脱スルヲ認ムレハ觀測ノ結果及目標ノ速度並行進方向ニ從ヒテ距離ヲ變換ス

著發射撃ヲ行フヲ要スルトキハ前諸項ノ要領ニ準シ射撃ス但擊拂ヲ行フコトナシ

第三百三十九 破裂高ノ修正ハ**第一百三十**ノ要領ニ準シ直ニ信管距離ノ變換ヲ以テ行フ

第四百十 横行或ハ斜行スル目標ニ對シテハ目標ノ速度及距離ニ應シ豫メ方向ノ修正ヲ爲シアルヲ要ス

第四百十一 目標ノ必ス通過セサルヘカラサル確定ノ

點及目標ノ進出スヘシト推測スル地點アレハ豫メ此點ニ射撃ヲ修正シ其到著ニ方リ彈數指定ノ急射ヲ行フ

第四百十二 瞬時ニ消失スントスルノ虞アル目標ニ對シテハ得タル距離ノ正確ノ度ニ應シ小隊又ハ砲車毎ニ級梯表尺ヲ取り最初ヨリ曳火榴霰彈ヲ以テ彈數指定ノ急射ヲ行フ可トス若此射彈效力ナキヲ認ムレハ觀測ノ結果ニ從ヒ適當ニ距離ヲ増減シ再ヒ前ノ如ク發射ス

斯ノ如キ目標ニ對シテハ距離ノ適否ハ效力ニ影響スルコト甚大ナルヲ以テ殊ニ之カ標準ヲ得ルコトヲ勉メサルヘカラス

第四百十三 騎兵ノ襲撃ニ對シテハ必ス近彈ヲ得ヘキ表尺ヲ取り最初ヨリ曳火榴霰彈ヲ裝填シ尙其距離ヲ點檢シ目標ノ效力界ニ近接スルヲ待チ彈數指定ノ急射ヲ行フ可トス目標效力界ヲ脫スルヲ認ムレハ適當ニ距離ヲ減シ再ヒ前ノ如クス

第四百十四 目標停止スルカ若ハ四百米以内ニ近接スルトキハ不動目標ニ對スル射法ヲ適用ス

繫留氣球ニ對スル射撃

第四百十五 一砲車ヲ以テスル曳火榴霰彈ノ破裂點ニ依ルカ又ハ曳火低破裂ノ試射ヲ以テ二百米夾又ヲ求メ其兩極限並其中數ヨリ各々五十米ヲ減シタル距離ヲ以テ試表尺ト爲ス

夾又彈ヲ得タルトキハ其距離ト之ヨリ百米増減シタル

モノトヲ試表尺ト爲ス
 試表尺ヲ得ルヤ其近キ表尺ヲ起點トシテ小隊ノ級梯表
 尺ヲ取ラシメ彈數指定ノ急射ヲ行フ
 破裂高及破裂距離ノ修正ハ第三百三十及第三百三十一ノ要
 領ニ準ス但一砲車ヲ以テスル曳火榴霰彈ノ破裂點ニ依
 ルトキ破裂高ヲ修正スルニハ射距離ヲ以テスルヲ異リ
 トス
 效力射ニ在リテハ破裂點ハ氣球ノ上方ニ在ルヲ要ス
 天候又ハ場合ニ依リ夾又ヲ四百米ニ止メ前記ノ要領ニ
 準シ射擊スルヲ可トスルコトアリ
 破裂點觀測ノ爲ニハ通常補助觀測手ヲ併用シ第百九ニ
 準シテ其遠近ヲ判定ス
 補助觀測手ニハ標線トシテ目標ノ全幅ヲ示シ成ルヘク

遠ク放列ノ兩側ニ出スヲ利アリトス

夜間射擊

第四百十六 夜間射擊ハ晝間ノ射擊ヲ繼續スルカ晝間
 ニ於テ諸準備ヲ整ヘアルカ若ハ夜間火光ヲ認識シ得タ
 ルトキ施行スルモノトス
 既ニ射擊ノ修正ヲ完了シタルトキハ最モ利アリ故ニ必
 要ナル地點ニハ豫メ晝間ニ於テ射擊ノ修正ヲ爲シ分火
 ノ處置ヲ施シ置クヲ可トス若晝間之ヲ爲シ能ハサルト
 キニ在リテモ各砲軍ノ射線竝補助觀測手及中隊長用標
 線ノ標定或ハ精密ナル距離ノ測定等射擊ノ準備ハ總テ
 晝間ニ於テ整ヘ置クヲ要ス又夜間火光ヲ認メテ射擊ス

ル場合ハ發射前最モ精確ニ上記ノ準備ヲ爲スコト必要ナリ
 夜間ノ試射ハ前條ノ要領ニ準シ一砲車ヲ以テスル曳火榴霰彈ノ破裂點ニ依リテ行フ若射彈ノ觀測困難ナルトキハ確實ニ觀測シ得タル近彈ヲ起點トシテ第二百二十五又ハ第三百二十三ニ準シ疑ハシキ地域ヲ射撃スルヲ可トス

遮蔽陣地ニ於ケル射撃

第四百十七 遮蔽陣地ニ在リテ野砲(騎砲)ヲ以テ射撃ヲ準備スルニ方リテハ左ノ方法ニ依リ方向照準ヲ爲スヲ可トス

中隊長ハ適當ノ方法ヲ以テ某砲車ノ方向ヲ目標上ノ一點又ハ原點ニ通セシメ此砲車ヲ基準砲車ト爲ス他ノ砲車ハ中隊長ノ指示スル側方ノ假標又ハ標桿ト基準砲車トノ延線上ニ正シク配列シタル後基準砲車ヨリ假標又ハ標桿ニ對シ測定セル方向角ト同一ノ方向角ヲ以テ假標又ハ標桿ヲ照準シ各砲車ノ方向ヲ平行セシム
 地形ニ依リ放列線ヲ一線ナラシムル能ハサルトキハ基準砲車ヨリ各砲車ノ眼鏡ノ位置ヲ照準シテ得タル方向角ニ三十一分畫五十ヲ増シタル方向角ヲ各砲車ニ與ヘ基準砲車ノ眼鏡ノ位置ヲ反覘シ以テ他ノ砲車ノ方向ヲ基準砲車ニ平行セシム
 各砲車ヨリ直接ニ照準シ得ヘキ適當ナル假標ヲ前方ニ

有スルトキハ其假標ト目標又ハ原點トノ間ノ方向角ヲ測定シ之ヲ各砲車ニ與ヘ假標ヲ照準セシム

第四百十八 前條ノ場合ニ於テ各砲車ハ照準終ルヤ各筒ニ選定セル假標ヲ照準シ砲車長ハ其得タル方向角ヲ記載シ置クモノトス之ヲ標定分畫ト稱フ

第四百十九 原點ニ方向ヲ標定シアルトキハ中隊長ハ射撃開始ニ方リ射撃スヘキ目標上ノ一點ト原點トノ間ノ方向角ヲ測定シ方向角ノ修正ヲ命ス

第四百五十 目標變換ノ號令ヲ用フルコトナク方向角ノ修正ヲ以テ目標ヲ變換セシムルニハ中隊長ハ新目標上ノ一點ト舊目標上ノ一點トノ間ノ方向角ヲ測定シ之ニ應スル方向角ノ修正ヲ命ス要スレハ兩目標正面幅ノ差

ノ五分ノ一ヲ級梯率トシ分火セシム

第四百五十一 一目標ニ對スル射撃終レハ通常中隊長ハ各砲車ヲ原方向ニ復歸セシムル爲メ標定分畫取レノ號令ヲ下ス然ルトキハ各砲車ハ記載シアル方向角ヲ取り

先ニ各筒ニ選定セシ假標ヲ照準ス
砲車ヲ原方向ニ復歸セシムルニ方リ若標定分畫ヲ改ムルノ必要アルトキハ中隊長ハ規正セラレタル現在ノ射線ノ方向ト原方向トノ間ノ方向角ヲ測リ之ニ應スル分畫ノ修正ヲ命シ次テ分畫換ヘノ號令ヲ下ス然ルトキハ各砲車ハ所命ノ分畫ヲ修正シ前項ノ如ク照準ヲ爲ス砲車長ハ先ニ記載シタル標定分畫ヲ此方向角ニ改ム

第四篇 射撃演習

要則

第一百五十二 射撃演習ハ指揮官及兵卒ヲシテ平素ノ教練ニ於テ修得シタル諸動作ヲ實射ニ依リ實戰的ニ習熟セシメ射撃教育ヲ完成スルヲ以テ目的トス

第一百五十三 射撃ノ成果ヲ良好ナラシメンニハ平素射撃ニ關スル教練ヲ有效ニ實施スルコト極テ緊要ナリ然レトモ中隊長以上ノ諸隊長ハ幹部ノ爲各種ノ方法ニ依リ射撃指揮特ニ射法、目標受授及距離目測等ヲ營内若ハ野外ニ於テ部隊ヲ使用シ或ハ幹部ノミヲ以テ豫習セシメ射撃教育ノ完全ヲ圖ルヲ要ス

第一百五十四 射撃演習ニ於ケル將校以下ノ教育ニ就キテハ特ニ左ノ件ニ注意スルヲ要ス

中少尉ニハ小隊長ノ職務及中隊ノ指揮ヲ大尉ニハ中隊ノ指揮ヲ少佐及古參大尉ニハ大隊ノ指揮ヲ演習セシム

特務曹長ニハ小隊長ノ職務及單簡ナル中隊射撃ノ指揮ヲ教育ス

下士ニハ砲車長、彈藥小隊長及補助觀測手ノ職務ヲ教育ス又古參下士ニハ小隊長ノ職務ヲ教育ス

兵卒ニハ實射ノ操作ニ習熟セシメ又適任ナル砲手ニハ砲車長ノ職務ヲ教育ス

第一百五十五 射撃演習ハ演習場ニ於テ行フヲ常トス然

レトモ生地ニ於ケル射撃演習ハ演習ノ價值ヲ一層大ナ
ラシム故ニ機會アレハ之ヲ行フヲ要ス

第五百五十六 射撃演習ハ野砲兵ニ在リテハ聯隊毎ニ山
砲兵ニ在リテハ大隊毎ニ之ヲ行フ

第五百五十七 射撃演習ノ日數ハ往復及休日ヲ除キ野砲
兵聯隊ニ在リテハ約ネ二十一日間

騎砲ヲ有スル聯隊ニ在リ
テハ騎砲兵ニ中隊ノ爲ニ
チ加フ 山砲兵大隊ニ在リテハ約ネ十一日間チ標準トス

第五百五十八 旅團長ハ部下各聯隊ノ射撃演習ヲ監督シ
要スレハ之ヲ統監ス

第五百五十九 聯隊長ハ射撃演習ニ先チ左ノ規定ヲ爲ス
ハシ

各大隊及中隊ノ行フヘキ射撃ノ日時及射撃地區ノ配

當

大隊及中隊射撃ニ於ケル統監及演習大隊長及中隊長
ノ指定

大隊ニ屬セサル將校ノ射撃ニ關スル件

各回ノ射撃ニ使用スヘキ豫定彈藥數

聯隊長ハ右ノ外大隊及中隊ノ射撃計畫ニ於テ注意スヘ
キ要件ヲ知ラシメ且射撃演習間中隊及大隊ノ特ニ研究
スヘキ射撃問題ヲ定ム

大隊長ハ聯隊長ノ指示ニ基キ所要ノ計畫ヲ定メ射撃ノ
種類其他中隊ノ射撃計畫ニ必要ナル事項ヲ中隊長ニ示
ス

中隊長ハ大隊長ノ指示ニ基キ演習ノ計畫ヲ定メ大隊長

ニ呈ス大隊長ハ之ヲ點檢シ聯隊長ノ認可ヲ經テ實施セシム大隊長及其他諸官ノ演習計畫モ亦之ニ準ス

第百六十 演習ハ易ヨリ難ニ進ムノ原則ニ從ヒ平素教育セル諸動作ヲ漸次確實ナラシムル爲最初ヨリ困難ナル射擊ノ實施ヲ望ムヘカラス

第百六十一 演習ハ地形ニ應シテ射擊問題ヲ選定シ之ニ適合スル如ク單簡ナル戰術上ノ想定テ設ケ計畫スルヲ要ス

第百六十二 演習ノ價值ハ其計畫指導ノ如何ニ在リテ存ス故ニ統監ハ最モ慎重ノ注意ヲ加ヘ演習員ノ伎倆ニ應シ演習地ノ地形ト所要彈藥ノ多寡等ヲ參酌シ綿密ニ畫策セサルヘカラス而シテ統監ハ射擊ヲ適當ニ指導セ

ンカ爲演習員ノ射擊指揮ノ經過ヲ熟知スルヲ要ス

第百六十三 目標設置ノ適否ハ射擊演習ノ價值ニ影響ヲ及ホスコト著大ナリ而シテ其要領ハ實戰ノ狀況ニ適合セシムルニ在リ

過度ニ認識シ易キ目標ハ之ヲ設置スヘカラス是實戰ニ於テ屢々發生スヘキ困難ニ打克ツコトニ慣レシメンカ爲ナリ初歩ノ射擊ニ於テモ亦此ニ注意スルヲ要ス又目標ハ實戰ニ於テ現ハルヘキ距離ニ配置シテ射擊スルチ法トス

第百六十四 彈藥ハ各中隊及大隊ノ教育程度並射擊問題ノ種類及將校、特務曹長ノ員數ヲ顧慮シ適當ニ配當スルコト注意ニスルヲ要ス

第百六十五

榴霰彈若ハ榴彈ヲ使用シ其他ハ代用彈ヲ使用スルヲ可トス又射撃ノ目的ニ依リ榴彈、榴霰彈ヲ混用スルヲ外勉メテ二種以上ノ彈丸ノ混用ヲ避クヘシ

第百六十六 各種目標ニ對シ諸種ノ射撃ヲ行ハシムルコト必要ナリ然レトモ演習用彈藥ノ數ハ限リアルヲ以テ多クノ場合ニ於テ此要求ヲ充テスニハ射撃中最モ困難ニシテ且最モ研究ヲ要スル一部即チ試射及效力射ノ最初ノ時期ニ於ケル修正ヲ演習スルヲ以テ足レリトセサルヘカラス

第百六十七

射撃效力ノ景況ヲ知得セシメンカ爲聯隊長ハ特ニ中隊ヲ指定シテ多クノ彈藥ヲ配當シ若干回ノ

射撃ヲ行ハシムルコトヲ得

第百六十八

一射撃演習間ニ於テ中隊及大隊ニ各種射撃ヲ悉ク實施セシムルコト能ハス故ニ聯隊長ハ數年ニ亙リテ實施スル如ク之ヲ配當スルヲ要ス

戰闘間最モ多ク對戦スヘキ主要ナル目標ニ對スル射撃ハ確實ニ實施シ得ルニ至ルマテ再三施行セサルヘカラ

第百六十九

統監ハ中隊ニ毎射撃ノ豫定彈藥數ヨリモ爲シ得ル限り多クノ彈藥ヲ携行セシムルヲ要ス

統監ハ常ニ彈藥ヲ節用スルコトニ注意シ演習ノ目的ヲ達スルヲ認ムレハ直ニ射撃ノ停止ヲ命シ或ハ更ニ新任務ヲ與フル等ノ方法ニ依リ彈藥ノ浪費ヲ豫防スヘシ然

レトモ彈藥ノ浪費ヲ顧慮シ爲ニ過度ニ製肘ヲ加ヘ戰況ニ合セサルカ如キ演習ハ寧ロ大ナル弊害ニ陷ルコトアルヘキニ注意スルヲ要ス

又動目標ニ對スル射撃ニ在リテハ實際目標ノ現ハルハキ時間ヲ標準トシ效果ヲ收メ得サルトキニ在リテモ直ニ其射撃ヲ中止セシムルヲ要ス

第七十 統監ハ射撃間職務ノ實行ヲ十分ニ監査センカ爲所要ノ將校或ハ下士ヲ補助ニ充ツルヲ可トス

第七十一 射彈ノ觀測ハ實射ニ於テ始メテ修習シ得ヘキ重要ナル課目ナリ故ニ統監ハ注意シテ之ヲ監査シアルヲ要ス又初步ノ射撃ニ在リテハ誤觀測ヲ發見セハ直ニ之ヲ矯正スヘシ是適當ナル印象ヲ記憶ニ存セシメ

ンカ爲ナリ

第七十二 演習員ヲシテ射撃效力ニ關シ常ニ正當ナル判斷ヲ爲シ彈藥ヲ節用スルノ慣習ヲ得セシムルコト緊要ナリ之カ爲統監ハ演習員ヲシテ射撃ノ目的ヲ達スルヲ認ムルヤ直ニ射撃ヲ中止シ之ヲ報告セシムルヲ要ス

第七十三 中隊或ハ大隊ニ於テ施行スル射撃ニハ該演習ニ與ラサル他ノ將校、特務曹長ヲシテ成ルヘク見學セシムヘシ

射彈ノ觀測ハ勉メテ之ヲ獎勵スヘシ之カ爲適當ナル將校ヲシテ之ヲ指導セシムルカ或ハ各自毎發ノ觀測ヲ筆記シ原表ニ對照セシムルヲ利アリトス下士ニモ亦觀測

射撃演習

ヲ獎勵スヘシ
第七十四 射撃演習間機會之ヲ許セハ勉メテ斥候及通信ノ諸演習ヲ併セ行フヘシ但常ニ危險ヲ顧慮スルヲ要ス又斥候ノ報告ハ直ニ之ヲ演習員ニ知ラシメサルヲ必要トスルコトアリ
第七十五 射撃ニ際シ中隊或ハ大隊ハ勉メテ戰砲隊ヲ編成スルヲ要ス

中隊射撃

第七十六 中隊射撃ノ目的ハ將校以下ヲシテ射撃ニ熟達セシメ之ヲ戰鬪ノ各時期ニ應用スルノ技能ヲ養成スルニ在リ而シテ此射撃ニ習熟スルハ戰時ニ於テ功ヲ

奏スルノ基礎ナリ故ニ聯隊長ハ成ルヘク之ニ十分ナル日時ト彈藥トヲ配當スルヲ要ス

第七十七 射撃演習ノ初ニ方リテハ左ノ目的ヲ以テ射撃ヲ行フヲ要ス

兵卒ヲシテ發射ノ際受クル感覺並動作ノ要領及實射ニ於ケル砲車ノ景況ヲ了解セシメ平素ノ教練ニ於ケルカ如ク洗著シテ確實ニ操作シ得ルニ至ラシム
 新任ノ下士又ハ經驗乏シキ下士ヲシテ砲車長ノ職務ヲ修得セシメ殊ニ砲車位置選擇ノ適否ハ發射後砲車ノ状態ニ大ナル影響ヲ及ホスコトヲ自覺セシム
 初級士官ヲシテ小隊長ノ職務並射彈觀測ノ要領ヲ修得セシム

第七十八 狀況之ヲ許セハ前條ノ目的ヲ以テ教育進歩ノ程度ニ應シ第一第二教育期間ニ於テ若干ノ射撃ヲ行フナ利アリトス

第七十九 中隊射撃ニ在リテハ大尉若ハ中少尉、特務曹長ヲ演習中隊長トシ通常大隊長若ハ中隊長之ヲ統監ス但第七十七ノ目的ヲ以テスル射撃ニ在リテハ中隊長其演習ヲ計畫指導シ豫メ部下ニ必要ナル注意ヲ與ヘ發射後更ニ必要ノ説明ヲ加ヘ其景況ヲ腦裏ニ印象セシムルコトヲ勉ムヘシ

第八十 中隊射撃ニ在リテハ主トシテ大隊内ニ於ケル中隊ノ動作ヲ練習セシムヘシト雖孤立中隊ニ關スル演習モ亦忽諸ニ附スヘカラス

第八十一 統監ハ演習員及中隊ノ教育程度ニ應シ戰況、目標ノ難易及地形ノ關係等ヲ參酌シテ射撃問題ヲ構成シ漸次困難ナル狀況ニ於テ演習セシムルヲ要ス指導ノ方法ハ一ニ演習員ノ技能ニ適合セサルヘカラス故ニ未熟者ニ在リテハ其技能ニ應シ豫メ射撃問題ヲ與ヘテ之ヲ研究セシメ又ハ所要ノ注意ヲ與ヘテ之ヲ實施セシメ或ハ射撃ヲ中止シテ適當ノ教示ヲ爲シ之ヲ復行セシムル等ノ方法ヲ以テシ要スレハ更ニ豫行演習ヲ行フヘシ然レトモ稍々射撃ニ習熟セル者ニ在リテハ演習開始ニ際シ始メテ射撃問題ヲ示シ咄嗟ノ間能ク其問題ニ應シ適當ニ動作シ得ル如ク習熟セシムルコトヲ勉ムヘシ

射撃間ニ認メタル缺點ハ成ルヘク速ニ之ヲ除去スル爲
必要ナル教練ヲ實施スルコトヲ勉ムヘシ

第百八十二 不意ニ現出スル目標、動目標若ハ近距離
ノ目標ニ對スル射撃及目標變換等ハ演習中隊長ノ果斷
沈著ヲ練磨シ且射撃軍紀ヲ鞏固ニスルノ機會ヲ與フル
モノトス

第百八十三 人員材料ノ缺損、補充、修理及工事ニ關
スル演習ヲ併セ行ハシムルトキハ實戰ニ於テ中隊ノ射
撃動作ニ及ホス困難ヲ知ラシムルコトヲ得

大隊射撃

第百八十四 大隊射撃ノ目的ハ部隊ノ大ナルニ從ヒト

スル指揮上ノ困難ヲ排除シ統一指揮ノ下ニ射撃ノ威力
ヲ發揚スルコトニ習熟セシムルニ在リ

第百八十五 大隊射撃ハ聯隊長之ヲ統監ス然レトモ時
宜ニ依リ中(少)佐ヲシテ之ヲ統監セシムルコトアリ

第百八十六 統監ハ戰鬥ノ各時期ニ於テ屢々生起スヘ
キ大隊ノ射撃指揮ニ關スル諸種ノ事項ヲ射撃問題ト爲
シ射撃目標ノ配當及之ヲ變更スヘキ時期其他大隊ノ射
撃指揮ニ關シテ研究セシメ火力ノ集散、目標ノ變換及
緊急ノ時機ニ應スル處置法等ヲ實施セシムル如ク指導
スルヲ要ス又中隊長ノ獨斷ヲ以テ目標變換ヲ行フ場合
ヲモ實行セシムルコト緊要ナリ

第百八十七 各中隊射撃ノ觀測ヲ容易ナラシメ或ハ各

中隊ノ效力ヲ明知セント欲シ射撃問題ノ選定ヲ拘束スヘカラス多クノ場合ニ於テ監的哨ノ觀測ハ一般ノ射撃ヲ判斷シ得ルニ足ル又已ムルヲ得サルトキハ單ニ效力ノミニ依リ判斷スルコトヲ得

聯隊射撃

第百八十八 機會之ヲ許セハ聯隊射撃ヲ行フヘシ其射撃指揮ハ戰術上ノ動作ヲ主眼トス

講評

第百八十九 講評ハ現地ニ於テ行フ講評ト射撃ノ成果ヲ調査シタル後行フ講評(射撃審査)トニ區別ス

第百九十 現地ニ於テ行フ講評ハ一般ニ戰術動作ニ關スル事項及射撃上現地ニ於テ示スヲ有利ナリト認ムル事項ニ就キ射撃終ルヤ直ニ之ヲ行フモノトス

第百九十一 射撃審査ハ便宜ノ場所ニ於テ演習後成ルヘク速ニ之ヲ行ヒ以テ射撃間ニ得タル記憶ヲ喚起シテ射法ニ通曉セシメ且射撃ニ於テ生シタル疑問ノ見解ヲ明ナラシムルニ在リ故ニ少クモ該演習ニ出場セシ將校ハ之ニ參列セシムルヲ要ス

統監ハ講評前ニ所要ノ將校下士ヲ指命シ射撃成果表ニ準シ講評ニ必要ナル事項ヲ塗板ニ謄寫セシメ或ハ印刷シテ分配セシメ然後講評ヲ行フヲ可トス講評前ニ於テ要スレハ演習員ヲシテ其爲シタル動作ニ就キ説明ヲ

爲サシムヘシ
極テ單簡ナル射撃ニシテ射撃審査ヲ爲スノ必要ヲ認メ
サルモノハ統監ハ直屬上官ノ許可ヲ得テ之ヲ行ハサル
コトヲ得

第九十二 講評ハ綿密ニ教訓ノ意ヲ以テスヘシ而シ
テ其程度ハ演習員ノ技倆ニ適合セサルヘカラス又過度
ニ長時間ヲ費シ徒ニ演習時間ヲ減少シ且避クヘカラサ
ル怠慢ニ陥ラシムルカ如キトナキニ注意スルヲ要ス
演習上過誤アルトキハ其原因ヲ明ニシテ之ヲ矯正スヘ
シ又縦ヒ過誤ニアラサルモ一層善良ナル方法アルトキ
ハ之ヲ教示スヘシ

第九十三 中隊射撃ニ在リテハ統監ハ特ニ射撃問題

ノ答解セラレタルヤ否ヤ又最モ單簡ニ答解セラレタル
ヤ否ヤヲ示スヘシ而シテ之カ判定ヲ爲スニ方リテハ效
力ノ有無ヲ主眼トスヘシ效力ノ判断ハ目標、時間及彈
藥ノ數ニ關ス又何レノ時期ヨリ效力ヲ及ホシタルヤ分
火ハ如何ナリシヤヲ討究スルヲ要ス射撃問題ノ答解セ
ラレサルトキハ其過誤ノ原因ヲ示シ且適當ナル方法ヲ
教示スヘシ又進歩ノ程度ニ從ヒ各修正及號令ヲ操典、
教範ニ比較シ各觀測ヲ原表ト對照スルヲ要ス
大隊射撃ニ在リテハ特ニ大隊長ノ射撃指揮及各中隊ノ
連繫ニ重キヲ置クヘシト雖各中隊ノ射撃ノ成果モ亦忽
諸ニ附スヘカラス

第九十四 下士以下ニ對シテハ主トシテ現地ニ於テ

講評シ尙要スレハ中隊内ニ於テ其行ヒタル射撃ニ就キ射撃成果表ヲ用ヒテ講評シ射撃ノ結果ヲ明ニシ且從來射撃ニ關シテ教育セル事項ヲ各射撃ニ對照シテ之ヲ説明スベシ

射撃成果表ノ調製

第百九十五 射撃成果表ハ射撃ノ成績ヲ審査判定スルノ基礎ヲ作ルノ外尙兵器ノ統計的景況、射法ノ適否及效力ニ關スル事項ヲ鑑定スルノ用ヲ爲ス故ニ其記載法ハ確實ナルヲ要ス

射撃成果表ノ調製ニ要スル原表ノ方式ハ聯隊長適宜之ヲ定ム

第百九十六 統監ハ現地ノ講評終ルノ後原表ヲ放列哨長ニ交付ス該哨長ハ更ニ之ニ基キ射撃成果表ヲ完成シ統監ニ呈ス統監ハ順序ヲ經テ之ヲ聯隊長ニ呈シ聯隊長ハ一閱ノ後順序ヲ經テ之ヲ射撃中隊ニ交付ス中隊ニ於テハ毎年度分ヲ一括シ之ヲ保存スルモトス

第百九十七 射撃成果表ニ記入スヘキ二三ノ方法ヲ示スコト左ノ如シ他ハ附表射撃成果表ノ例ニ準ス

砲車番號 逐次ニ發射セル各砲車ノ番號ヲ記入ス
號令報告 中隊長、小隊長ノ號令、指示及報告等ニシテ射撃ノ成果ヲ審査スルニ必要ナル諸件ヲ極テ簡略ニ記入シ其混同ヲ避クル爲適宜ノ括弧ヲ附シ之ヲ區別ス

目標若ハ陣地ヲ變換シタルトキハ砲車番號欄ヨリ觀測ノ欄ニ通シ太キ横線ヲ試表尺ヲ得タルトキ及效力射ニ在リテハ一順若ハ同一射距離毎ニ號令報告ノ欄ニ太キ横線ヲ畫シ又動目標ハ兩端ニ矢ヲ附シタル太キ縦線ヲ號令報告ノ欄ノ右方ニ齊發、擊拂及急射ハ太キ縦線ヲ其左方ニ畫ス而シテ齊發、擊拂及急射ハ觀測欄ニ於テ各々其觀測ニ應シ太キ線ヲ以テ區畫ス發射番號一翼或ハ中間ヨリ發射ヲ始ムルニ關セス其發射シタル順序ニ從ヒテ番號ヲ記入ス但齊發、擊拂及急射ニ在リテハ順序ニ關セス發射數ニ應シ番號ヲ附シテ記入ス而シテ彈種ヲ區別スル爲榴霰彈ニ在リテハ此番號欄ヲ太キ線ヲ以テ區畫ス

觀測 左ノ例ニ準シ觀測セル符號ヲ記入スルモノトス
中隊長ノ觀測

一 近シ
十 遠シ
十 命中
又 夾又
??? 疑シ
??? 見エス
チ+ 著發遠シ
キ- 基高近シ
ヒ+ 低シ遠シ
ハ? 甚高シ疑シ
タ? 高シ東稟良シ

キソ+基高束葉遠シ
キソ-基高束葉近シ

放列哨ノ觀測

左八米著發

左十米、一基高四分ノ二

右二十米、四分ノ一基高

方向、四分ノ一基高未滿ノ曳火破裂

左三米、目標下四分ノ二基高

-3/24 /0 +20/14 -10/124 -8

盤的哨ノ觀測

-10/ 左十米、觀測手方向

+100 遠ク百米著發

-70 近ク七十米曳火

-50 近ク百五十米曳火束葉近シ

-30 近ク六十米曳火束葉良シ

-20 近ク二十米曳火束葉遠シ

??/-10

近ク十米ニテ跳飛シ破裂點見エス

目標順次 各目標ニ對シテ射撃セシ順次ヲ記入ス但大隊射撃ニ在リテハ各中隊ノ射撃シタル目標順次ニ關セズ大隊一般ノ射撃シタル目標順次ニ從フ射撃ノ種類 目標ノ種類、射撃ノ種類及其特性ヲ單箇ニ記入ス

試射時間 第一發ヨリ試表尺決定マテノ時間及彈數ヲ記入シ且中隊又ハ小隊ヲ以テ試射ヲ行ヒタルトキハ中又ハ小ヲ附記ス

效力射時間 效力射ノ初ヨリ終マテノ時間及彈數ヲ記入ス但撃拂ノモノヲ除ク

效力射平均點 同一ノ射距離若ハ信管距離ニテ發射シタルモノヲ一括シテ記入ス而シテ著發彈彈著ハ試射ト效力射トヲ問ハス同一ノ射距離ニテ發射セルモノヲ悉ク收拾シ其平均値ヲ記入シ又破裂高、破裂距離ハ一順中著發二發以下ナルトキハ著發ヲ零基高ノ曳火彈ニ看做シテ計上記入シ三發以上ナルトキハ記入セサルモノトス但彈著點、破裂高若ハ破裂距離平均彈著點、平均破裂高若ハ平均破裂距離ニ比シ其差公算躲避ノ四倍量ヲ超過スルトキハ不規彈ニ看做シテ之ヲ除去スルモノトス

目標距離 地圖又ハ其他ノ方法ニ依リテ實距離ニ近キモノヲ五十米ノ倍數ヲ以テ記入ス但動目標ニ在リ

テハ第一發及終發ノ際ニ於ケルニ距離ヲ記入スルモノトス
觀測 觀測ノ結果ヲ記入スルニ方リテハ左ノ諸項ニ準據スヘシ
命中彈及夾叉彈ヲ「近シ」又ハ「遠シ」ト觀測シタルハ誤觀測トセス
破裂高ノ觀測ニ於テハ各四分ノ一基高ノ誤差ハ之ヲ許スト雖一基高ヲ「低シ」又ハ「高シ」ト觀測シタルハ誤觀測トス
曳火射撃中ノ著發ノ疑彈及誤觀測ハ之ヲ曳火ノ疑彈及破裂點ノ誤觀測トス
不觀測彈中相當ノ理由アリテ生シタルモノハ備考欄

ニ記入スヘシ
效力 命中數人材馬ノ區畫ニハ人員材料及馬ニ命中セル彈子破片等ノ合計ヲ記入ス而シテ材料、馬ニ命中セル數ハ()ヲ附ス
被彈人馬百分數ノ區畫ニハ被彈人馬數ヲ其總人馬數ニテ除シ其商ニ百ヲ乘シタルモノヲ記入ス
目標ノ種類、配置及效力ノ景況並目標附近ノ地形
目標ノ順次ニ從ヒ目標ノ種類、員數及配置法ヲ記入シ尙配置セシ略圖ニ彈痕ヲ記入ス但シ略圖ハ之ヲ粘附スルモ妨ケナシ又目標附近ノ地形ハ要スルトキノミ之ヲ圖示ス

彈痕ハ全彈○彈子●破片×ヲ以テ示ス

以上ノ外特ニ必要ナル事項ハ其要ヲ摘ミ備考欄ニ記入スヘシ

代用彈ハ其效力ノ記入ヲ要セス效力ノ欄ニハ目標ノ種類、員數、配置法及目標附近ノ地形ヲ記入スルモノトス

監的哨ノ位置 目標ノ右方若ハ左方ナル語ハ放列ヨリ目標ニ面シテ稱フルモノトス

大隊以上ノ射擊ニ在リテハ目標配當ノ略圖ヲ附スルモノトス

監的哨及放列哨ノ勤務

第百九十八 射擊ヲ行フニハ監的及放列ノ二哨ヲ編成

スルヲ要ス而シテ此勤務ハ第百九十五ニ示セル要求ヲ充タス爲頗ル緊要ナルヲ以テ中隊長ハ機會ヲ得ル毎ニ將校以下ニ此勤務ヲ教育シ且所要ノ下士卒若干名ニ之ニ要スル器具ノ用法其他所要ノ件ヲ教ヘ置クヲ要ス

第百九十九 監的哨及放列哨ニハ各一名ノ將校ヲ以テ其長トス而シテ之ニ屬スヘキ人員ハ統監遲シモ射擊ノ前日之ヲ決定シ尙監的哨長ニ目標ノ種類、員數及設置ノ方法等ヲ示スヘシ

第二百 監的哨長ハ目標ヲ設置シ彈著點、破裂點ノ距離及爲シ得レハ目標前ニ破裂スル曳火彈束彙ノ目標ニ對スル景況ヲ觀測シ且其效力ヲ調査シ助手ヲシテ之ヲ原表ニ記入セシム又數彈同時ノ觀測ニ在リテモ遠近兩

彈ニ區分シテ其彈著點、破裂點ノ距離及彈數ヲ記入セシムルカ又ハ平均彈著點、平均破裂點ノ距離ヲ記入セシメ殊ニ他彈ニ比シ著シク大ナル躲避ヲ有スト認メタルモノハ區別シテ其距離ヲ記入セシムルヲ要ス而シテ其距離ノ觀測ヲ確實ナラシムル爲目標ノ前後ニ若干ノ標抗ヲ立ツヘシ

射撃間不發彈アリタルトキハ監的哨長ハ射撃終了後爲シ得ル限り其位置ヲ搜索シテ之ヲ標識シ統監ニ報告スヘシ

第二百一 放列哨長ハ射彈ノ方向及破裂高ノ觀測ヲ爲シ且發射速度ヲ調査シ助手ヲシテ之ヲ原表ニ記入モシム低破裂ノ試射ニ在リテハ爲シ得レハ四分ノ二基高以下四分ノ三基高以上ト區別シテ彈數ヲ記入セシムルヲ要ス而シテ破裂高ノ觀測ヲ確實ナラシムル爲基高標ヲ用ヒ之ヲ測ルモノトス

號令報告及中隊長ノ觀測等ハ別ニ助手ヲシテ記載セシムルモノトス

第二百二 監的哨ハ示號標第八圖ヲ以テ射撃準備ノ成否ヲ通報ス其法示號標ヲ立ツルハ射撃スルモ危險ナキヲ表シ之ヲ倒スハ射撃スヘカラサルヲ表ス放列哨ニ在リテモ亦發射前ニハ必ス示號標ヲ立テ射撃終レハ之ヲ倒ス

若監的哨長又ハ之ニ屬スル人員等示號標ノ附近ニ位置シ難キ場合ニハ要スレハ標旗ヲ立テ其位置ヲ標シ以テ

危険ヲ豫防スヘシ
二箇以上ノ監的所ヲ使用スルトキハ放列ニ近キ監的所
ハ之ヨリ遠キ監的所ニ於テ示號標ヲ立テタルヲ認めタ
ル後之ヲ立ツヘシ
放列及監的兩哨長ハ各々一名ノ兵卒ヲシテ互ニ示號標
ノ起伏ヲ監視セシムヘシ

演習場ノ警戒

第二百三 射撃中一般人民ノ演習場内通行ニ關スル規
定ヲ場内道路ノ入口ニ掲示ノ置クモノトス
射撃目標ヲ設置スル位置及彈著スヘキ虞アル地區内ニ
入ル道路等ニハ警戒哨ヲ配布シ或ハ假ニ阻絶ヲ設ケ又

附近民有地ニ在ル者ニ危害ヲ加フルノ虞アレハ射撃
中ノヲ避ケシムルヲ要ス

第二百四 警戒哨ハ通常將校ヲ以テ其長トシ之ニ必要
ノ下士卒ヲ屬スルモノトス時宜ニ依リ演習場ノ地形之
ヲ許ストキハ監的哨長ヲシテ警戒哨長ヲ兼ネシムルコ
トアリ

第二百五 當日第一ニ射撃スヘキ部隊ハ射撃前號砲一
發ヲ放チ以テ近傍村落ノ人民ニ注意ヲ與フヘシ

第二百六 射線ノ方向ハ演習場ニ近接セル村落等ニ危
害ヲ及ボササル如ク選定スヘシ要スレハ一定ノ標識ヲ
設ケ危害ヲ及ボスヘキ虞アル方向ヲ標示スヘシ
射撃スル部隊ノ小隊長以上ハ危害ノ虞アル方向ヲ熟知

スルヲ要ス
 榴彈射撃ニ在リテハ破片ニ對シテハ射線ヨリ五百米以
 内ヲ危險界トス
 第二百七 前諸條ノ外演習場ノ警戒ニ關シテハ別ニ定
 ムル所ニ從フ

報告

第二百八 聯隊長ハ射撃演習前射撃演習日課豫定表
 表ヲ製シ之ヲ師團長及野戰砲兵監ニ呈ス此書類ハ演習
 開始ノ一箇月前野戰砲兵監部ニ到達スルヲ要ス
 第二百九 聯隊長ハ射撃演習後左ノ書類ヲ師團長ニ呈
 ス

第一 射撃演習實施表第四表

第二 演習及兵器一般ニ關スル意見

第三 衛生、給養及地方ノ狀況ニ關スル報告

師團長ハ之ニ意見ヲ附シ第二第三ノ書類ヲ陸軍大臣ニ
 第一第二ノ書類ヲ教育總監ニ呈ス此等ノ書類ハ十二月
 盡日マテニ陸軍省及教育總監部ニ到達スルヲ要ス
 第一百七十八ニ從ヒ射撃ヲ行ヒタルトキハ當該年度最後
 ノ射撃演習ニ關スル報告ニ合シテ之ヲ報告スルモノト
 ス

第五篇 拳銃射撃

第二百十 拳銃射撃ハ每年中隊毎ニ通常小銃射撃場ニ於テ士官以下ニ之ヲ施行セシム

聯(大)隊附士官及下士ハ聯(大)隊長ノ指定シタル中隊ニ於テ施行セシム

第二百十一 射撃ニ關スル操作ハ野戰砲兵操典第三部拳銃ノ使用法ニ、照準ハ第五表及第九圖ニ從ヒ之ヲ行

第二百十二 拳銃射撃ニ方リ警戒ニ關スル事項左ノ如

一 射撃ヲ開始スル若干時間前ヨリ射撃場ニ赤旗ヲ

掲ケ警戒ヲ爲スヘシ

二 射撃場ト監的哨トノ交通ハ一時射撃ヲ中止セシメタル後ニ於テスヘシ

三 射撃開始及中止ハ士官ノ指示ニ依リテ之ヲ行フ

四 點數ノ調査及彈痕ノ修理其他必要ニ際シ射撃中止ヲ爲サシムルニハ目標面前ニ赤旗ヲ立テ之ヲ標示セシムヘシ

第二百十三 拳銃射撃ニ方リ危害豫防ノ爲遁守スヘキ件左ノ如シ

一 彈藥ハ列中ニ於テ幹部ノ外携帶スルヲ許サス

二 裝填シタル銃ヲ手ヨリ放チ又ハ他人ニ渡スヘカラス

- 三 射擊場ニ於テ恣ニ照準演習ヲ爲スヲ禁ス
 - 四 彈藥ノ裝填及抽出ハ必ズ銃口ヲ射線ニ向ケテ行フヘシ
 - 五 彈藥ノ出納ハ幹部自ラ之ヲ行フハシ
- 第四百十四 拳銃射擊ノ左表ニ從テ施行スヘシ

習會順次	距離	發射點數	合格點數	姿勢	勢目	目標
一	一〇米	六	三〇	架上立姿	圈	的
二	一〇米	六	一〇	立姿	立姿人像的	

備考 一 第一習會ハ單發射擊第二習會ハ急射トス
二 目標ハ第十圖及第十一圖ニ示スモノヲ使用ス

第二百十五 拳銃射擊ハ徒步ニテ之ヲ施行ス

第二百十六 中隊ハ左ノ諸表ヲ調製スベシ

拳銃射擊成績表 第六表

拳銃射擊報告表 第七表

彈藥射耗報告表 第八表

第二百十七 中隊長ハ毎年第二習會終了後第七及第八表ヲ調製シ大隊長ヲ經テ聯隊長ニ呈ス聯隊長ハ査閱ノ上之ヲ聯隊ニ保存スルモノトス

野戰砲兵射擊教範終

明治四十四年五月廿七日印刷
明治四十四年五月廿一日發行

發行者 栗本長七

印刷者 金山佐次

印刷所 東京市神田區豐島町三十四番地
一三三館印刷所

發行所

陸海軍御用
圖書發行所

一三三館

電話番町二六一六番
振替口座二九九九番

東京市小石川區豐川町十五番地

第一表

照準手技擢検査點數表

備考	砲		(砲騎) 砲野		科目	點數
	三番ノ行フ方向照	スル高低照準	照及二番星ヲ以テスル門	高低水準器ヲ以テスル高低照準		
	1.5	0.5		0.25		20
	3.0	1.0		0.59		19
	5.0	1.5		0.75		18
	7.0	2.0		1.00		17
	10.0	2.5		1.25		16
	15.0	3.0		1.50		15
	20.0	3.5		1.75		14
	25.0	4.0		2.00		13
	30.0	4.5		2.25		12
	35.0	5.0		2.50		11
	40.0	5.5		2.75		10
		6.0		3.00		9
		6.5		3.25		8
		7.0		3.50		7
		7.5		3.75		6
		8.0				5
		8.5				4
		9.0				3
		9.5				2
		10.0				1

本表ノ誤差ハ其點數ニ應ズル最大限ヲ示ス

第二表(用紙半紙)

年 號 月 日 選 拔 照 準 手 列 序 表 野 砲 兵 第 何 聯 隊 第 何 中 隊 長 何 某 印

考 備	19	19	二番ノ行フ 直接照準
	19	19	高低水準器ヲ 以テスル高低 照準
	19	20	二番及四番ノ 照門及照星
	57	5-8	總 點 數
	二	一	列 序
	何年	何年	入 營 年 期
	一等卒何某	上等兵何某	氏 名

第四表(用紙半紙)

明治何年射擊演習實施表(於何原)

野砲兵第何聯隊

考備	彈藥數			射擊回数												演習日數				事項					
	銃	代	榴	間	直	動	射擊種類						距離		射擊	往復行軍	教練	諸手入準備	休業						
							不						三千五百米以上	二千五百米未滿											
							動																		
彈	彈	彈	準	準	標	擊	射	火	曳	潛	發	射	擊	中隊號											
																			第一	第二	第三	第四	第五	第六	合計

注意 一 射擊ノ回数ハ一目標ヲ一回トス若一目標ニ對シ「射擊ノ種類」又ハ「照準法」ヲ二種以上取リタルトキハ適宜一回トシ其欄ニ記入シ其旨ヲ備考ニ記載ス

二 「射擊ノ回数」欄中距離ハ動目標ニ在リテハ最初ノ撃拂ノ距離ヲ示ス

三 第一第二教育期間ニ於テ行ヒタル射擊演習ノ實施ハ本表ニ纏メ記載シ且朱書ヲ以テ區別ス

四 間接照準ノ區畫ニハ野砲兵ニ在リテハ間接照準ノ全回数ヲ記載スルノ外遮蔽地ニ於ケル射擊ノ回数ヲ特ニ括弧内ニ記入シ山砲兵ニ在リテハ照準具ヲ區別シ記載スベシ

第五表

表高道彈銃拳式年六十二

考 備	米 高 道 彈	米 離 距
照準ニ方リテハ其距離ニ應シ本表ニ示ス彈道高タケ下方ヲ狙フモノトス	7	5
	14	10
	20	15
	26	20
	31	25
	36	30
	41	35
	45	40
	47	45
	48	50
	46	55
	43	60
	36	65
	27	70
15	75	
0	80	

第六表(用紙半紙)

年 月 日	第一習會			第二習會			入 期	第 何 中 隊
	彈着登記	總點	合否	彈着登記	總點	合否		
	4 5 4 0 0 0	13	-	5 5 5 5 0	20	+		大 尉 何 某
	3 2 0 4 8 0	17	-	5 5 5 0 0	20	+		曹 長 何 某
	10 9 7 2 6 4	38	+	5 5 0 0 0	10	+	何 年	一 等 卒 何 某

注意 一 圖的ニ記載スル數字ハ點數ヲ示ス而シテ點數ノ界限ニ命中シタルトキハ優點ヲ抹ル又立委人像的ニ命中シタルモノハ五點トス
二 合格ハ「+」不合格ハ「-」ヲ以テ之ヲ表ス

第七表(用紙半紙)

年 月 日 號 銃 射 擊 報 告

第何中隊長

氏名印

考備	計	事故者	合格者	不合格者	種別階級				計
					上官	准士官	兵卒	士官候補一年志兵	

- 注意
- 一 本表ハ第二習會ノ成績ニ基キ調製スルモノトス
 - 二 聯(大)隊附士官、下士ハ朱書ヲ以テ區別ス
 - 三 事故者トハ疾病其他射擊ニ加ハラザル者ヲ謂フ

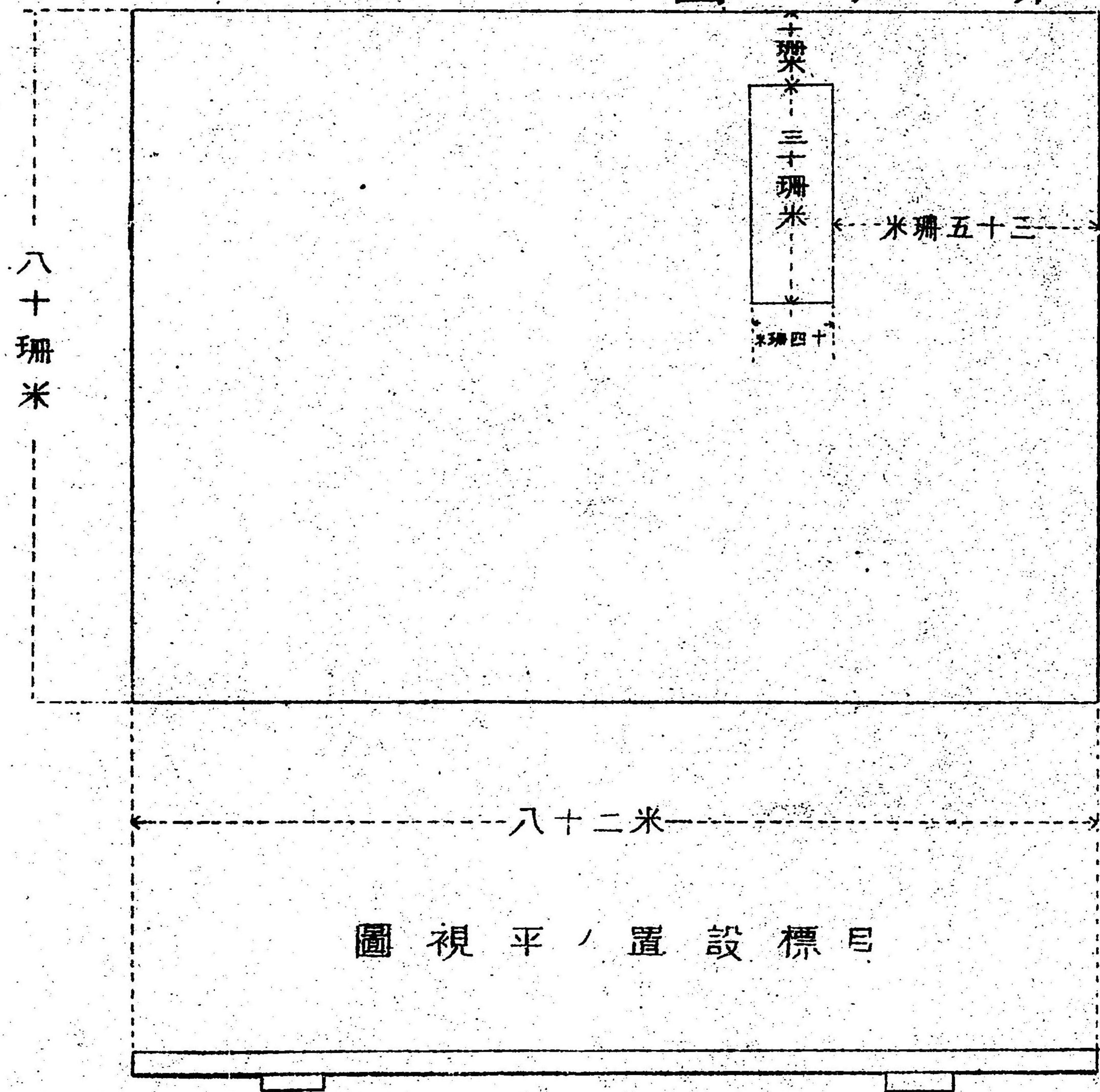
第八表(用紙半紙)

考 備		計	聯(大)隊附士官、下士 名	士官候補生一年志願兵 名	定員受領	受領彈數	射耗彈數	第何中隊長 氏名印
不發彈 百分比例	不發彈 百分比例							
殘彈數	不發彈 百分比例							

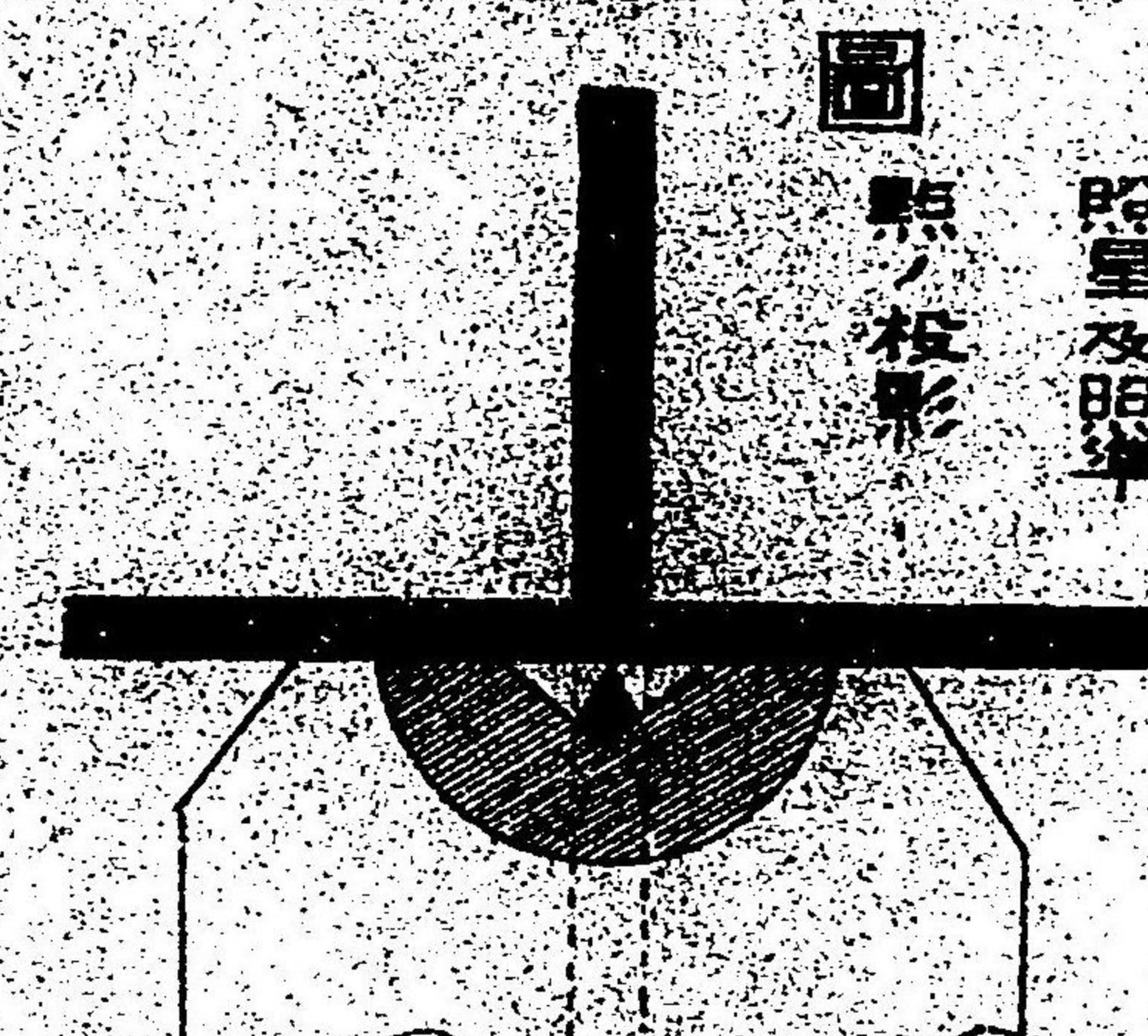
年號 月日 拳銃彈藥射耗報告

第何中隊長 氏名印

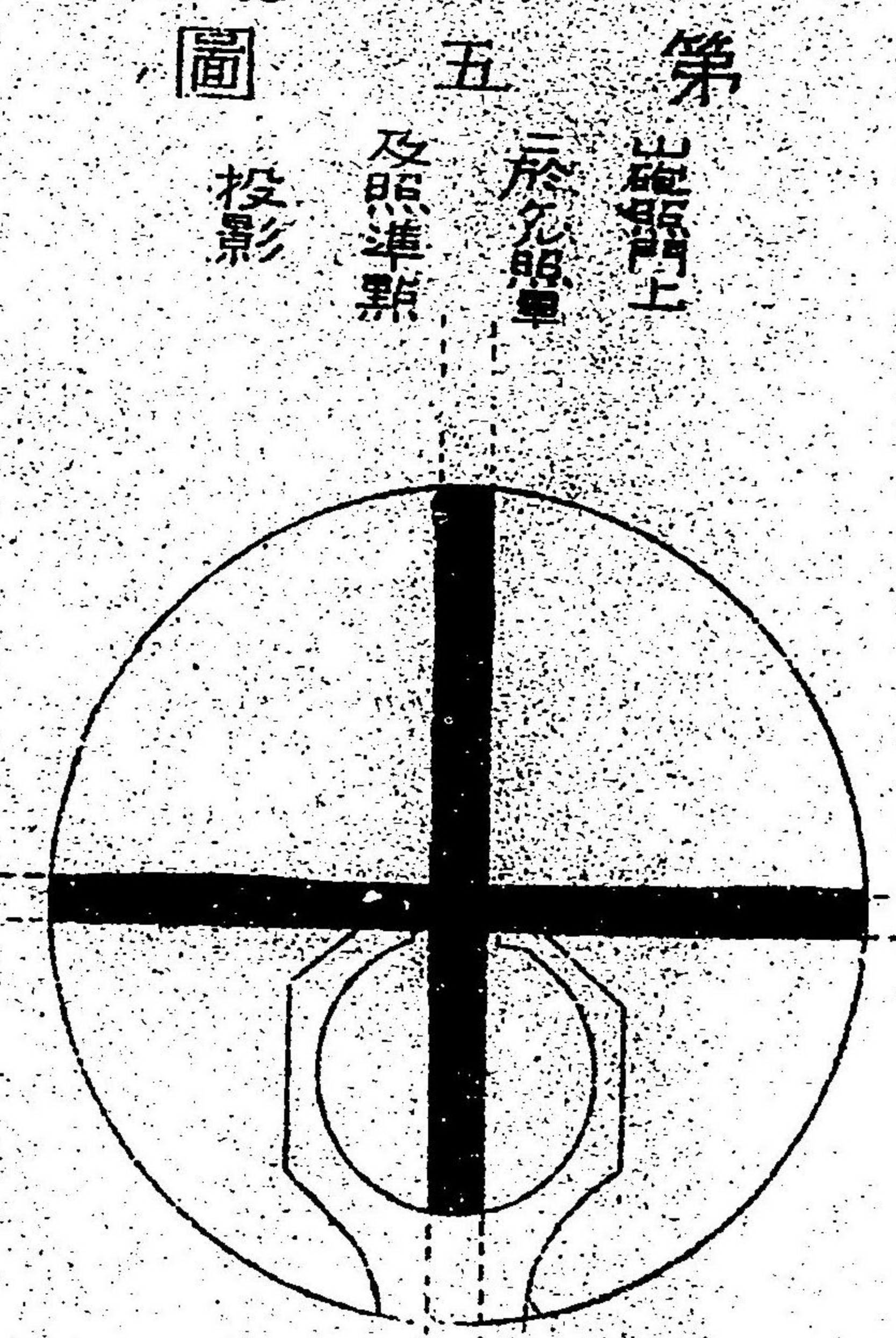
第 六 圖 野 砲 標 (茶 揭 色)



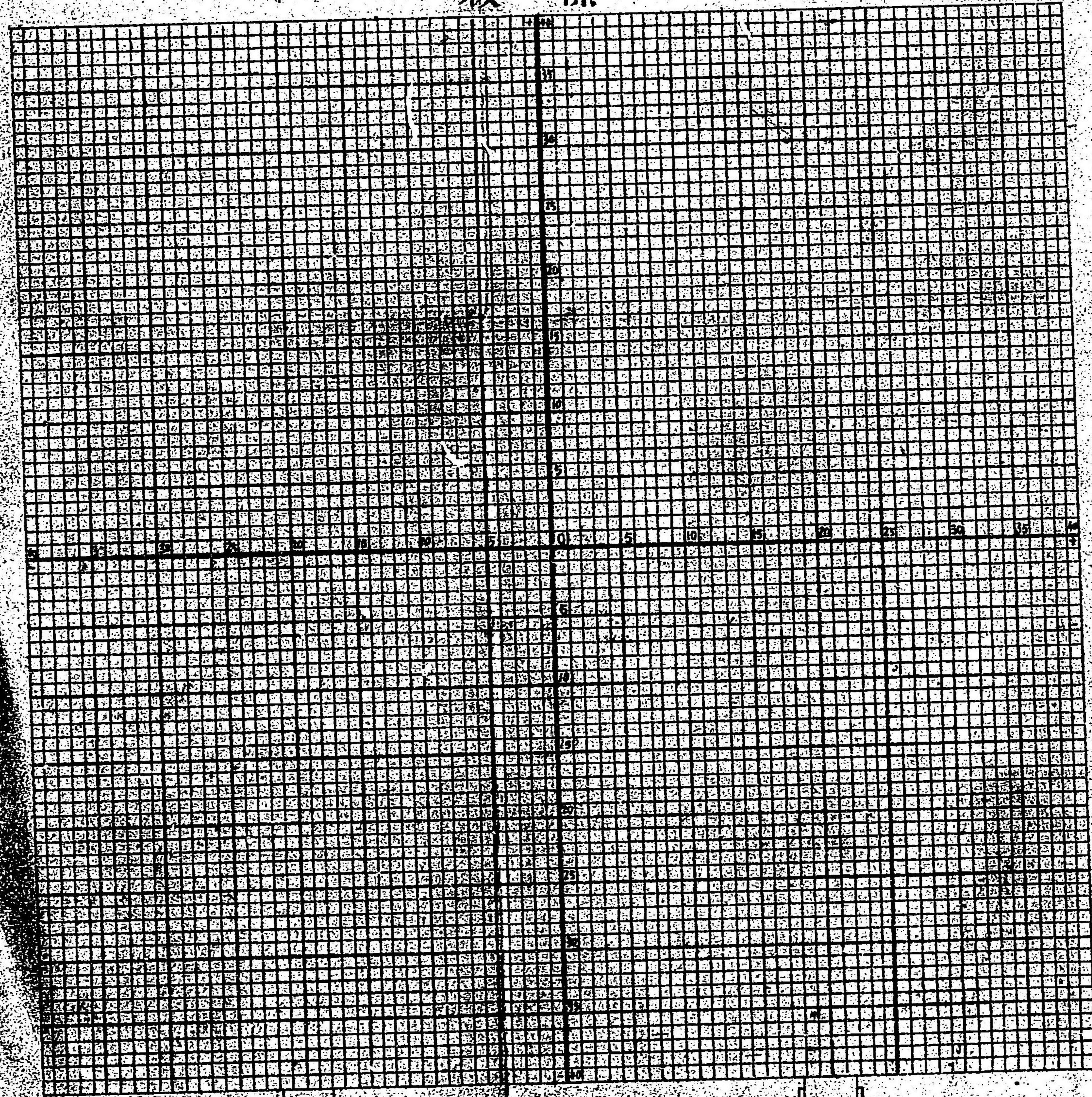
第 四 圖 野 砲 標 照



第 五 圖 野 砲 標 照



第七圖
標板



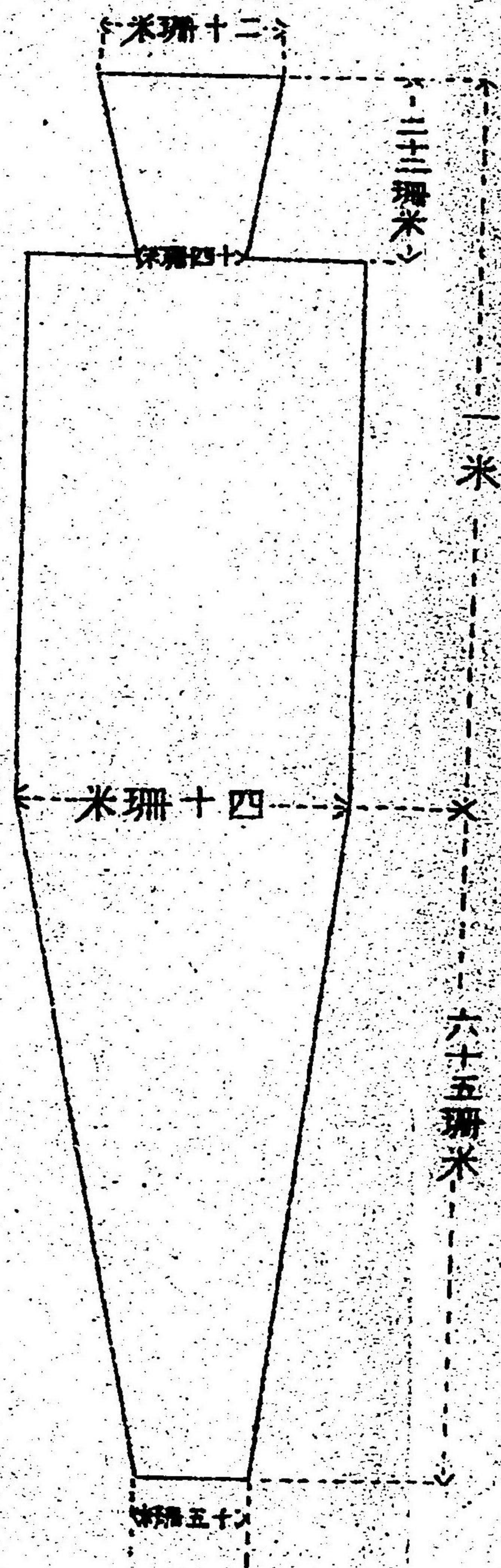
中央ニ測ル

但線ノ中央ヨリ

小線ノ幅一密米
 中線ノ幅二密米
 大線ノ幅三密米
 一方眼一冊米

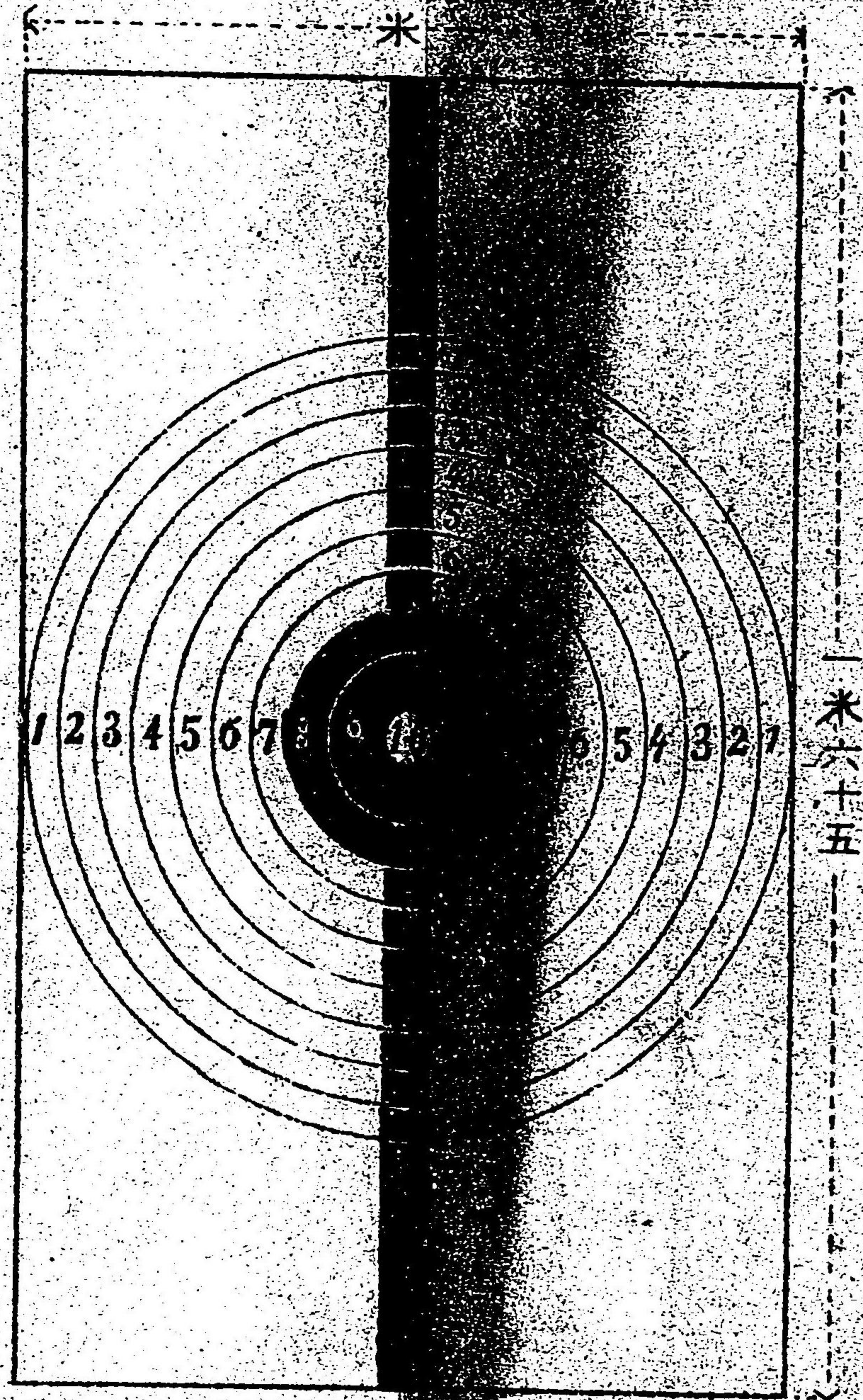


的像人姿立



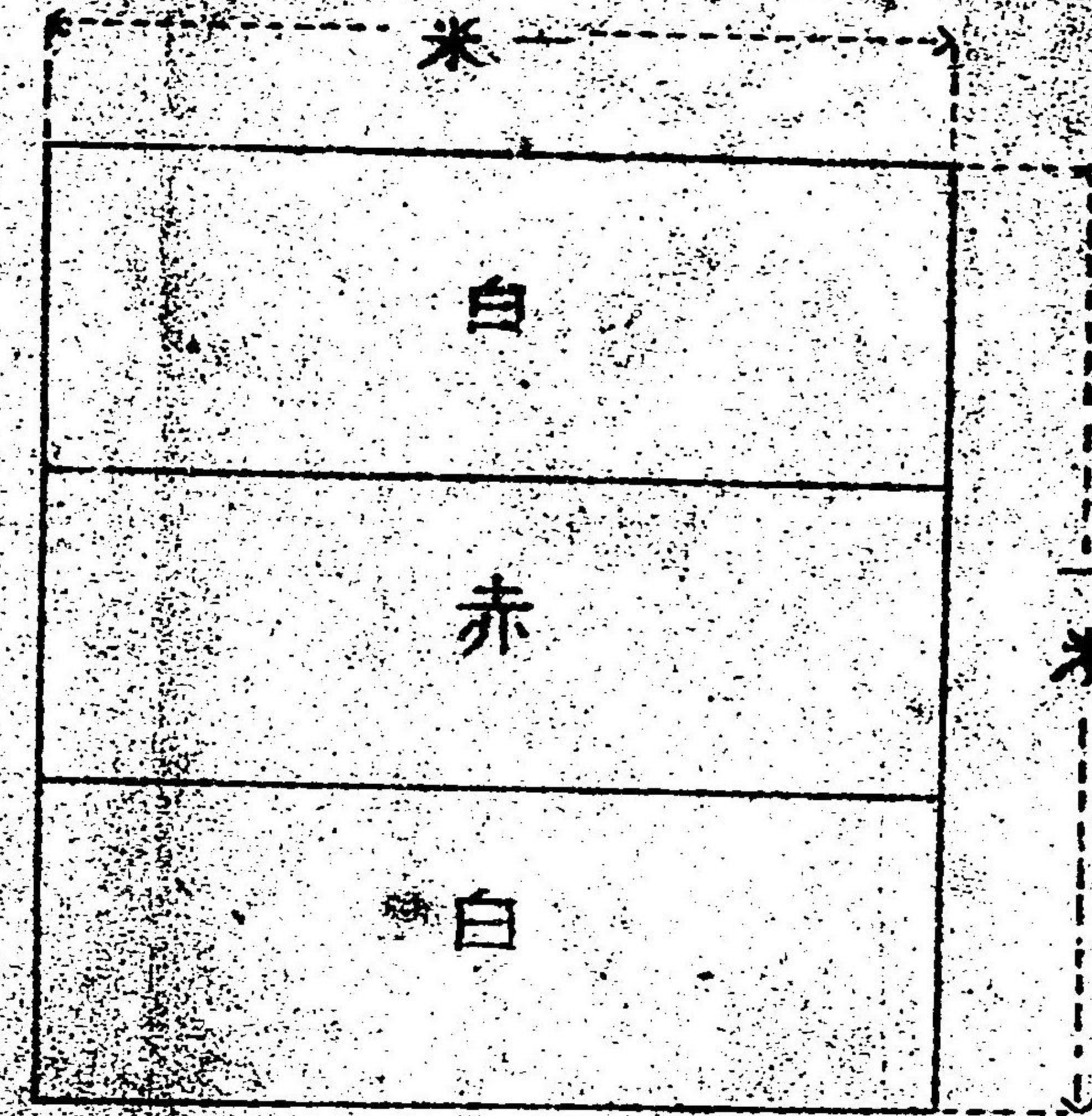
第十一圖

的



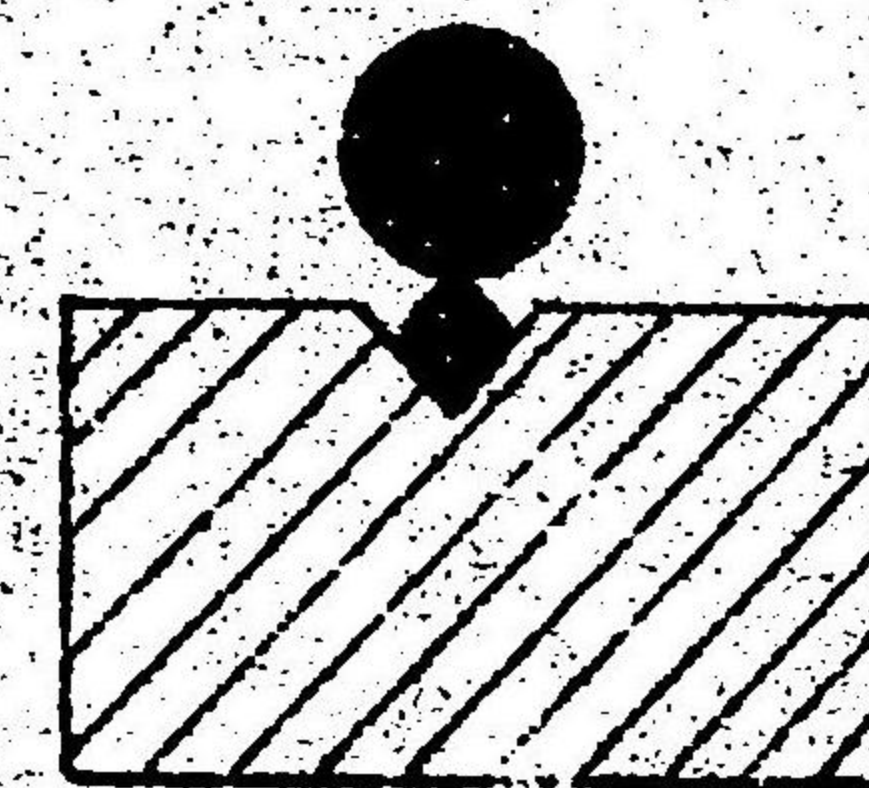
第十圖

標號示



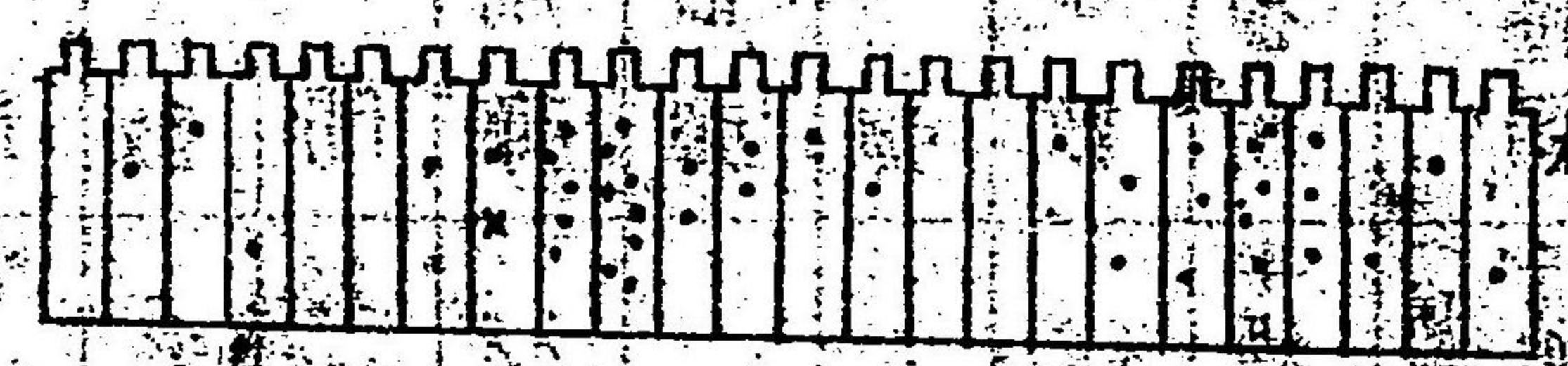
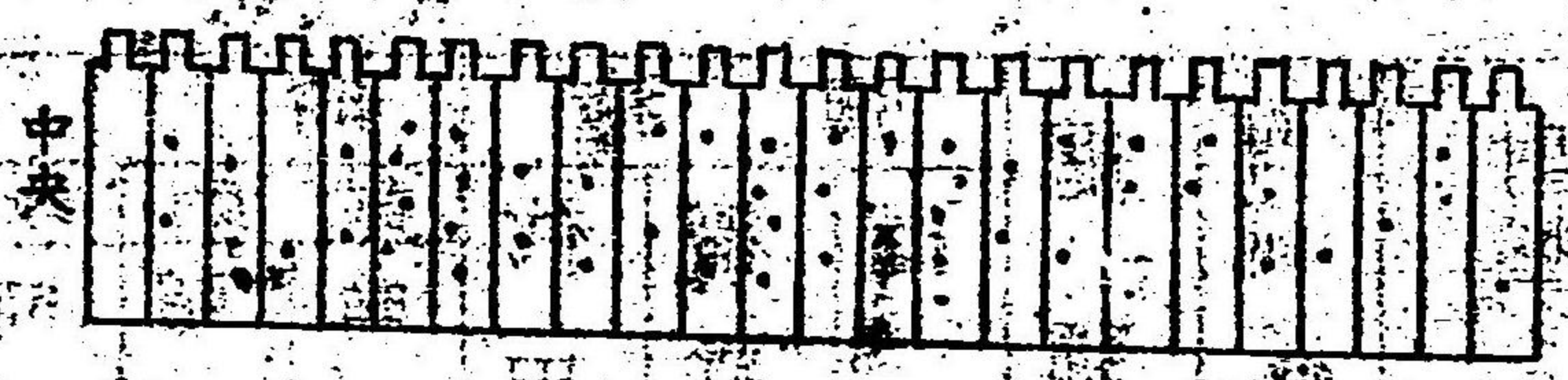
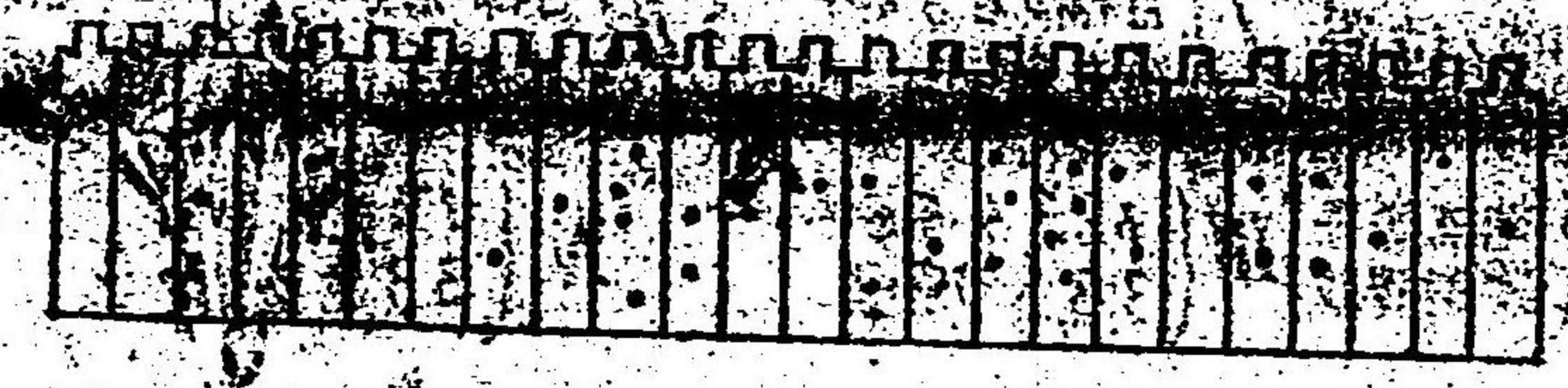
第九圖

影投/點準照及星照於二上門照銃拳

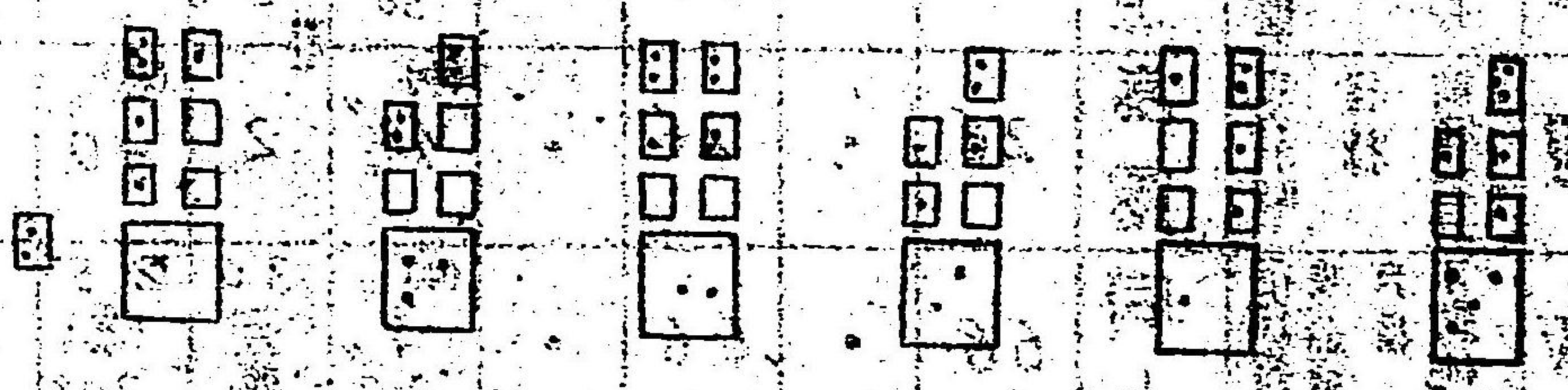


目標種類配置及效力/景況/目標附近地形

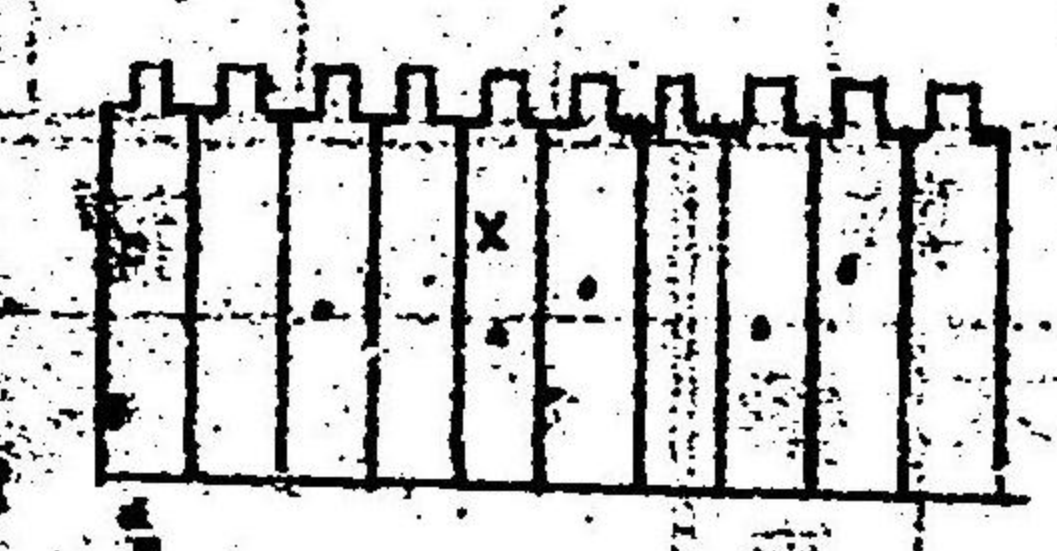
IV 立姿隊形的34名
前進的(連步)



IV 防機砲兵的(彈子優微=對抗カ7ル標的)6門
隊手(中小隊長共)34
間隔23步

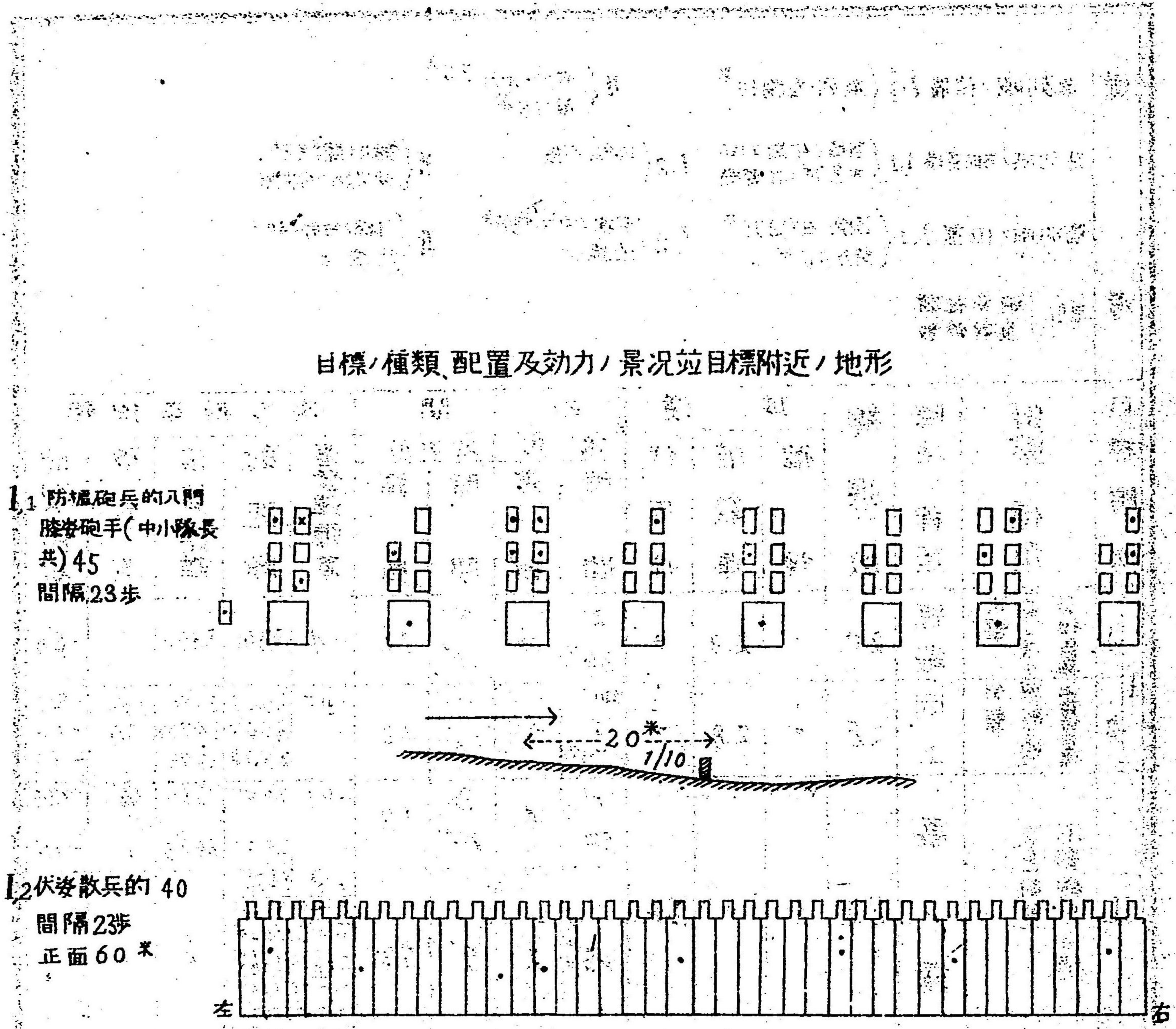


V 立姿隊形的10
間隔1步又2步



砲車番號	號令報告	發車番號	觀			砲車番號	號令報告	發射番號	觀		
			中隊長	監的哨長	測候哨長				中隊長	監的哨長	測候哨長
•	<3400>	19		-50	約		55			約	
•		20		乃至	約		56			約	
•		21		乃至	約		57	-200	±0		
•		22	-	-250	約		58	平均	(1)	乃至	
•		23			約		59	平均	180	乃至	
•		24			約		60		(1)	1/4	
•	<3500>	25		±	約		61				
•		26		±	約		62	+15			
•		27		-120	±		63			4	
•		28	又		約		64			(4)	
•		29		+20	(1)		65				
•		30		+50	(1)		66				
7	<3450信25ソノ順火分テ右ヲ撃テ>	31	ヒ	-120	±	<撃止>					
2	(布) (新管)	32	キ?	-160	-2	(V)					
3	<尋撃テ>	33	ヒ	-150	-2	曳弾3400信25伸セ右ヨリ石包					
4		34	ヒ?	-140	+3	車級梯水番目ハ獨立林ノ右ニ					
5		35	キ	-180	±	現ハレタル司令部ヲシキモノ					
6		36	チ	-100	±	三發急撃テ		-250	+10		
7	<次ノ順3550尚速> (布) (管新)	37	キ	-70	±		2	75	乃至		
2		38	ヒ	+5	±		3	乃至	乃至		
3		39	タ?	-90	+2		4				
4		40	ヒ	-40	+3		5	+250	0		
5		41	キ	-60	±		6	X	75	乃至	
6		42	ヒ	-50	+2		7			乃至	
7	<次ノ順>	43	タ?	-80	-2		8	-400			
2		44	キ	-50	±		9	(1)			
3		45	キ	-45	±		10			1/4	
4		46	ヒ	-70	±		11				
5		47	ヒ?	-30	±		12				
6		48	キ	-60	±		13				
•	<續テ込ニ發急撃>	49			約		14				
•		50		+20	約		15				
•		51		乃至	約		16				
•		52		乃至	約		17				
•		53			約		18				
•		54		-130	(6)	<撃止>					

備	放列哨/位置 I II		III NV		放列哨/方向基準 I		II		III		IV		V		
	放列/右方50*	前方30*	放列/左側20*		目標/右方50*	在小堆土	試射間試點	分火後/分火點	中央部隊/中央	試射間試點	分火後/分火點	目標/中央	試射間試點	分火後/分火點	
考	急射	砲車番號	III	123456	N	123456	V	123456	333333						
		發射彈數	III	333333	N	333333	V	333333							
目標順次	射擊種類	陣地種類	總彈數	榴彈	榴霰彈	代用彈	試射時間	射彈數	效力射時間	射彈數	著發彈著	射距離	信管距離	破裂高	破裂距離
I	機銃目標	半遮蔽	48			48	2' 10"	5	6' 15"	37	-52	3000	3050	1	-113
II	不動砲兵	同上	41			41	(中) 2' 30"	6	3' 18"	18	-15	2300	2425	1	-122
III	前進步兵	暴露	26		26		(中) 45"	2	(意) 40"	18					
IV	不動砲兵	同上	66		66		(中) 3' 30"	30	2' 5" (急) 30"	36		3450	3525	3/4	-99
V	機銃目標	同上	18		18				20"	18					
砲車番號	砲身番號	不規彈藥數				材 料 / 破 損									
		腔發	過早發	跳飛	不發	藥筒不發									
1	57					I. 1									
2	52														
3	53	榴彈													
4	54	榴霰彈													
5	55														
6	56	代用彈													



統監	發哨長	監哨長	中隊長	小隊長			目標順次
				右	中央	左	

射擊成果表

明治何年何月何日於何地
射擊第何日砲種何砲

氣象 曇 温暖

風向
風速
3*
2*
3*

景況 III IV V 平坦ナル草地
地形 I II 後方ニ傾斜セル草地

目標順次	目標距離	着發彈數	曳火彈數	觀測					効力				交叉ノ成否			
				疑著發	彈曳火	不見彈	不觀測彈	誤著發	觀破裂高	測破裂點	命中數	全彈		彈子破片	人(材)	被擄人馬數
I	3050	11	37	2	防城砲兵の六門間隔23步 60米 50米	成
II	2300	23	18	5	12	.	.	1	1	半邊敵防城砲兵の六門 間隔23步	否
III	2300 2100	8	18	143	143	65	90	成
IV	3450	.	66	.	7	.	.	.	4	.	.	46	33 (13)	22	65	成
V	3400	.	18	6	6	5	50	.

野砲兵第何聯隊第何中隊

砲車番號	號令報告				砲車番號	號令報告			
	殺車番號	觀中隊長	監的哨長	副發射長		發射番號	觀中隊長	監的哨長	副發射長
5		77	+	+15	士				
6		72	+	+30	士				
1		73	+	+15	-2				
2		74	?	+10	士				
3		75	-	-30	士				
4		76	?	+15	+3				
5		77	+	+10	士				
6		78	+	+40	+2				
1		79	-	-5	士				
2		80	?	+20	士				
3		81	-	-75	士				
4		82	士	士	士				
〈曳彈三發急擊〉〈擊止〉									

備	放列哨/位置 I,1		放列哨/位置 I,2		放列哨/位置 I,1		放列哨/位置 I,2							
	放列哨/位置 I,1	放列哨/位置 I,2	放列哨/位置 I,1	放列哨/位置 I,2	放列哨/位置 I,1	放列哨/位置 I,2	放列哨/位置 I,1	放列哨/位置 I,2						
備	放列哨/位置 I,1 { 放列/左側 10 ^m	放列哨/位置 I,2 { 放列/右方 30 ^m 前方 5 ^m	放列哨/位置 I,1 { 目標/左端 30 ^m 右方 30 ^m 在標點	放列哨/位置 I,2 { 目標/右端	放列哨/位置 I,1 { 目標/右方 200 ^m 前方 20 ^m	放列哨/位置 I,2 { 目標/左方 150 ^m 延線上	放列哨/位置 I,1 { 目標/左方 180 ^m 延線上	放列哨/位置 I,2 { 試射間試擊 分火後/分火點						
考	急射 (砲車番號 發射彈數)													
目標順次	射擊種類	陣地/種類	總彈數	彈種			時間		效力射平均點					
				榴彈	榴霰彈	代用彈	試射時間	效力射時間	著發彈著	射距離	信管距離	破裂高	破裂距離	
I 1	射擊	遮蔽	20	•	29	•	2' 30"	5' 30"	18	-4	3300	3350	1	-68
I 2	射擊	同上	28	•	28	•	1' 50"	2' 35"	18	-81	2900	2950	1 3/4	-108
II	交互射擊	暴露	82	•	•	•	1' 50"	3' 10"	18	-91	2400	2350	2/4	-135
	不動砲兵目標	露					45"	9' 52"						

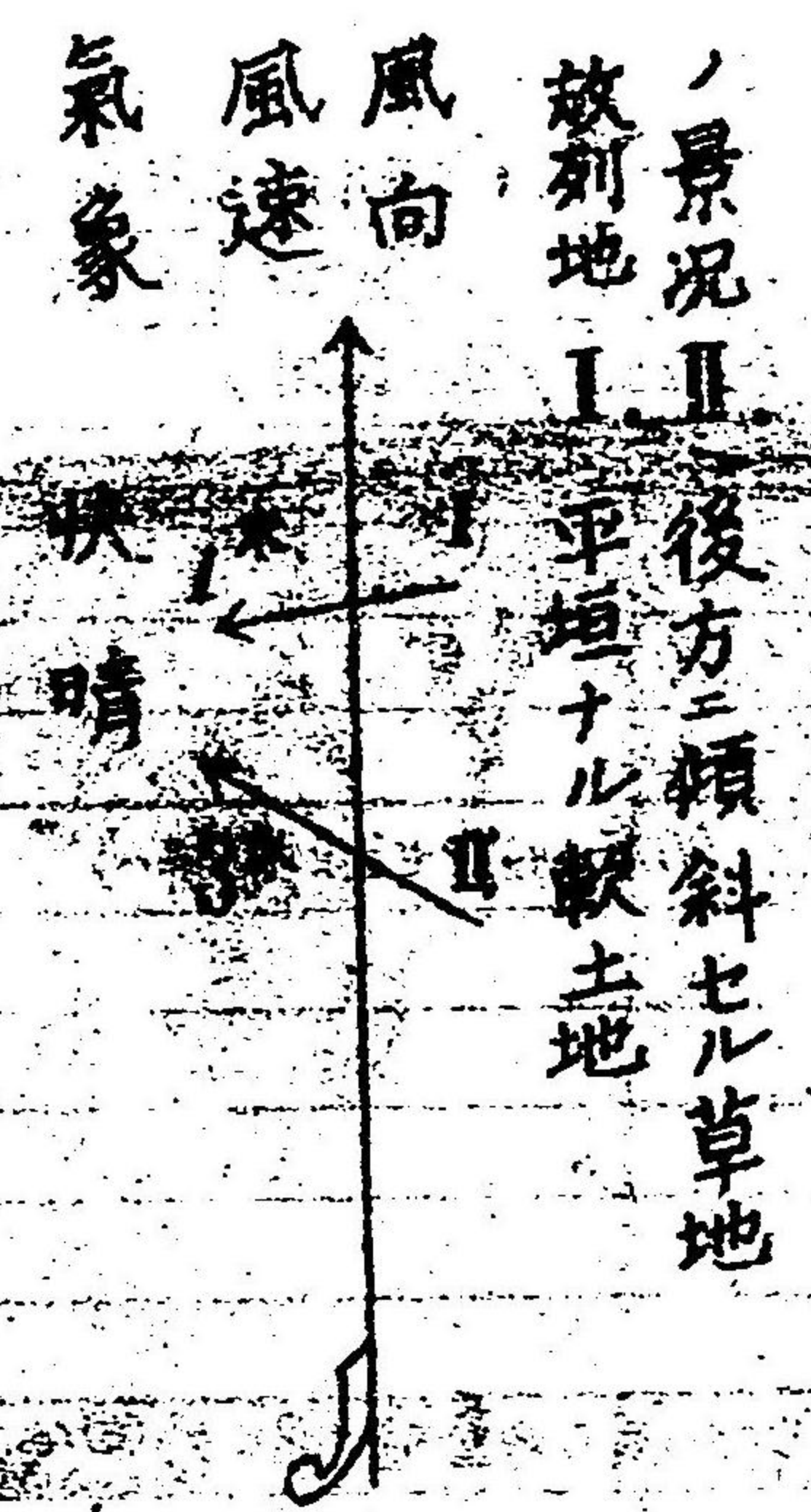
砲車番號	砲身番號	不規彈藥數					材料 / 破損	
		腔發	過早發	跳飛	不發	藥筒不發		
1	51							
2	52							
3	53	榴彈	•	•	•	•		
4	54	榴彈	•	•	•	•		
5	55	代用彈	•	•	II,1	•		
6	56							

砲車番號	號令報告 (I,1)	發車番號	觀測		砲車番號	號令報告	發射番號	觀測		故列哨長
			中隊長	監約哨長				中隊長	監約哨長	
	3500水邊第一基準原點ハ橋立林ノ右端					<擊拂>	5		-10	
	假標ハ左測方ノ標桿方角47分						6		-30	-5
1	<普通25ピケ第一試射>	1	?	+250 +100			7	(6)	-50	7
2	<4マヒ目ハ砲兵>	2	+	+230 +90			8		60	
1	<3100>	3	-	-170 +85			9		90	
1	<3300>	4	-	-5 +90			10		200	
1	<3400>	5	+	+100 +90	1	<第一順ハ右ヨリ撃テ> (右) (砲)	11	?	-10	
1	<3300右ヨリ2マヒ右ヨリ撃拂>	6		-60 +90	2		12		-60	
2		7	(3)	+60 +50	3		13		-50	
3		8	+	-50 +35	4		14	?	-180	
4		9	?	+20 +10	5		15	?	-160	
5		10	(2)	-30 -10	6		16		-160	
6		11		+40 -45	7	<次ハ順3000倍25ピケ> (右) (新管)	17		-110	
1	<第一順右ヨリ撃テ第六3ピケ> (右) (砲)	12	?	-150 +90 2/4	2		18		-10	
2		13	?	-140 +50 2/4	3	<再撃テ>	19	?	100	
3	<第三250第三4ピケ>	14	?	-700 +90 1/4	4		20		-30	
4		15	ヒ	-80 +30 3/4	5		21	?	-80	
5		16	?	-70 +10 1/4	6		22		-20	
6		17	?	-110 -30 1/4	7	<次ハ順2400倍速> (右) (新管)	23		-30	
1	<次ハ順3300倍50神> (右) (砲)	18	ヒ	-40 +90 2/4	2		24		-60	
2		19	?	-60 +10 1/4	3		25	?	-110	
3		20	?	-120 +90 1/4	4		26		-5	35
4		21	ヒ	-50 +25 1/4	5		27	?	-90	
5	<第四2マヒ>	22	?	-80 +10 1/4	6		28		-70	
6		23	ヒ	-5 -30 3/4		<14ピケ分量換撃拂テ>				
1	<次ハ順再撃端速>	24	?	-90 +90 3/4						
2		25	?	-140 +15 3/4						
3		26	ヒ	-40 +15 3/4						
4		27	?	-100 +25 1/4						
5		28	ヒ	-10 +15 1/4						
6	(I,2)	29	?	-80 -30 1/4						
	指令發射普通280035マヒ右									
1	<到2ピケ>	1	-	-200 -5						
2	<3200目ハ砲兵>	2	+	+250 -15						
3	<3000>	3	+	+10 -25						
4	<2900>	4	-	-120 -40						

砲車番號	號令報告 (II)	發車番號	觀測		砲車番號	號令報告	發車番號	觀測		故列哨長
			中隊長	監約哨長				中隊長	監約哨長	
	3500水邊第一基準原點ハ橋立林ノ右端					<擊拂>	5		-10	
	假標ハ左測方ノ標桿方角47分						6		-30	-5
1	<普通25ピケ第一試射>	1	-	-200 -5	6	<2525>	35	-	-60	-2
1	<2700>	2	+	+270 +2	1		36	?	+30	-3
1	<2500>	3	+	+20 ±	2		37	+	+20	±
1	<2400>	4	-	-80 ±	3		38	?	±	+4
1	<右ヨリ撃拂>	5		-70 -3	4	<再撃>	39	-	-30	+2
2		6	(?)	-30 ±	5		40	?	+10	-5
3		7		-120 ±	6		41	-	-5	-3
4		8	(?)	-30 -3	1		42	+	+10	±
5		9	(?)	-100 +2	2		43	+	+40	+2
6		10		-60 -2	3		44	??	10	+3
7	<第一順火分右ヨリ撃> (右) (砲)	11	?	-60 ±	4		45	?	-30	+2
8		12	?	-90 ±	5	<隊長各個ニ修正尚速>	46	(1)(2)	+25	+3
3	<射2450>	13	ヒ	-70 ± 2/4	6		47	-	-20	-2
4		14	?	-180 ± 3/4	1		48	-	-25	±
5		15	ヒ	-70 ± 2/4	2		49	+	+40	-2
6	<第五方向?>	16	ヒ	-70 ± 1/4	3		50	?	-15	-4
1	<次ハ順2400倍50ツツ再撃> (右) (新管)	17	ヒ	-140 ± 1/4	4		51	-	-25	+2
2		18	?	-70 ± 1	5		52	?	+10	+6
3		19	ヒ	-90 ± 2	6		53	+	+25	±
4		20	ヒ	-120 ± 2/4	1		54	-	+30	+2
5		21	ヒ	-140 ± 0	2		55	+	+20	±
6		22	ヒ	-150 ± 3/4	3		56	-	-5	±
1	<次ハ順2400倍25ツツ> (右) (新管)	23	?	-80 ± 1/4	4		57	-	-20	-2
2		24	ヒ	-50 ± 1	5		58	?	-15	+3
3		25	?	-70 ± 1/4	6		59	-	-15	-2
4		26	ヒ	-60 ± 3/4	1		60	-	-15	±
5		27	?	-100 ± 1/4	2		61	+	+25	±
6		28	?	-90 ± 3/4	3		62	?	-20	±
3	<指令發射普通2450>				4		63	±	±	±
	<第三試射>	29	-	-80 -10	5		64	?	+20	-3
3	<2500>	30	+	+10 +2	6		65	+	+5	±
1	<2475右ヨリ撃テ>	31	?	-30 +6	1		66	-	-5	-2
2		32	-	-10 ±	2		67	+	+20	±
3		33	-	-45 +2	3		68	-	-30	±
4		34	?	+15 +5	4		69	-	-25	±
							70	-	-5	±

野砲兵第何聯隊第何中隊

射擊成敗表



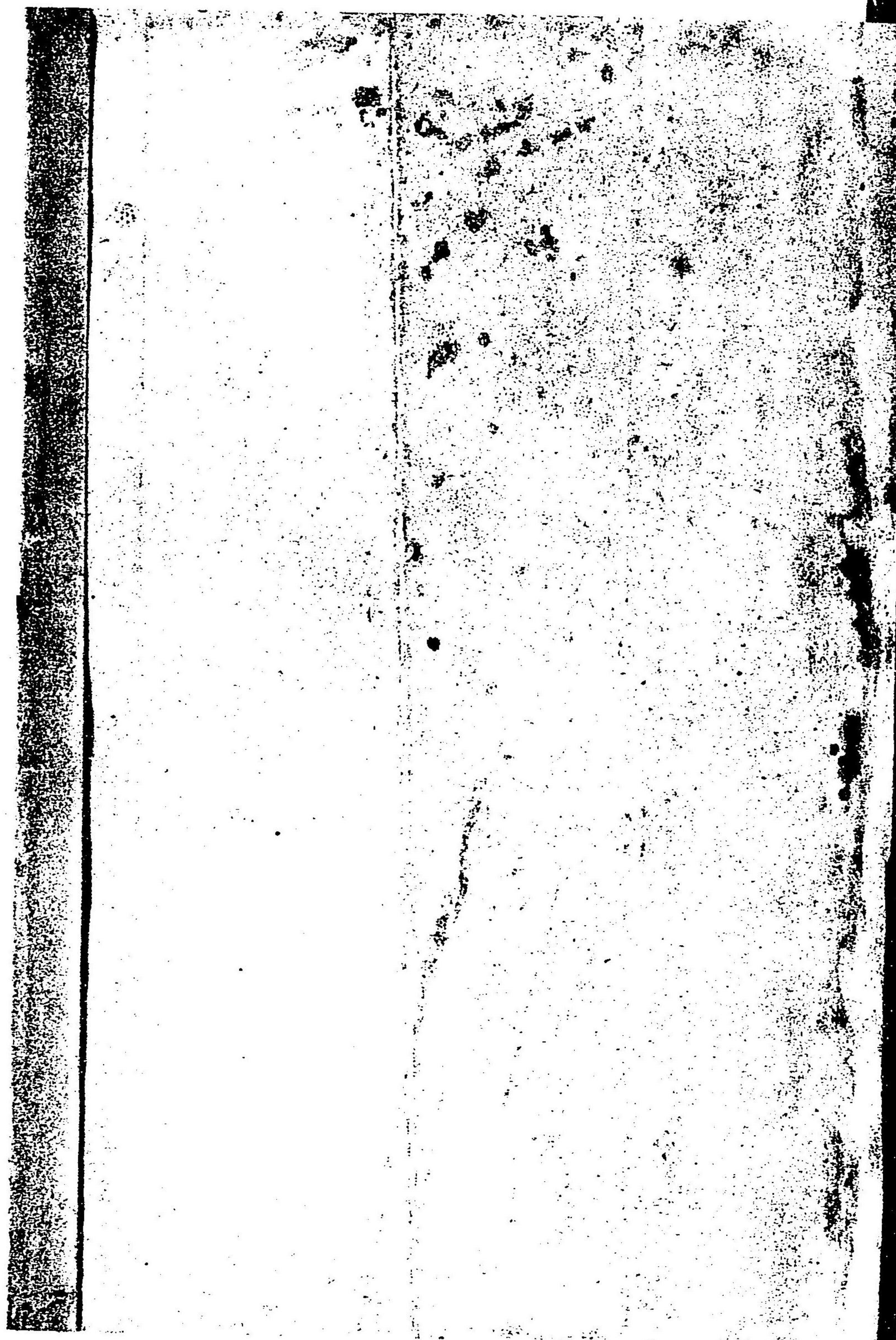
明治何年何月何日於何地

射擊第何日

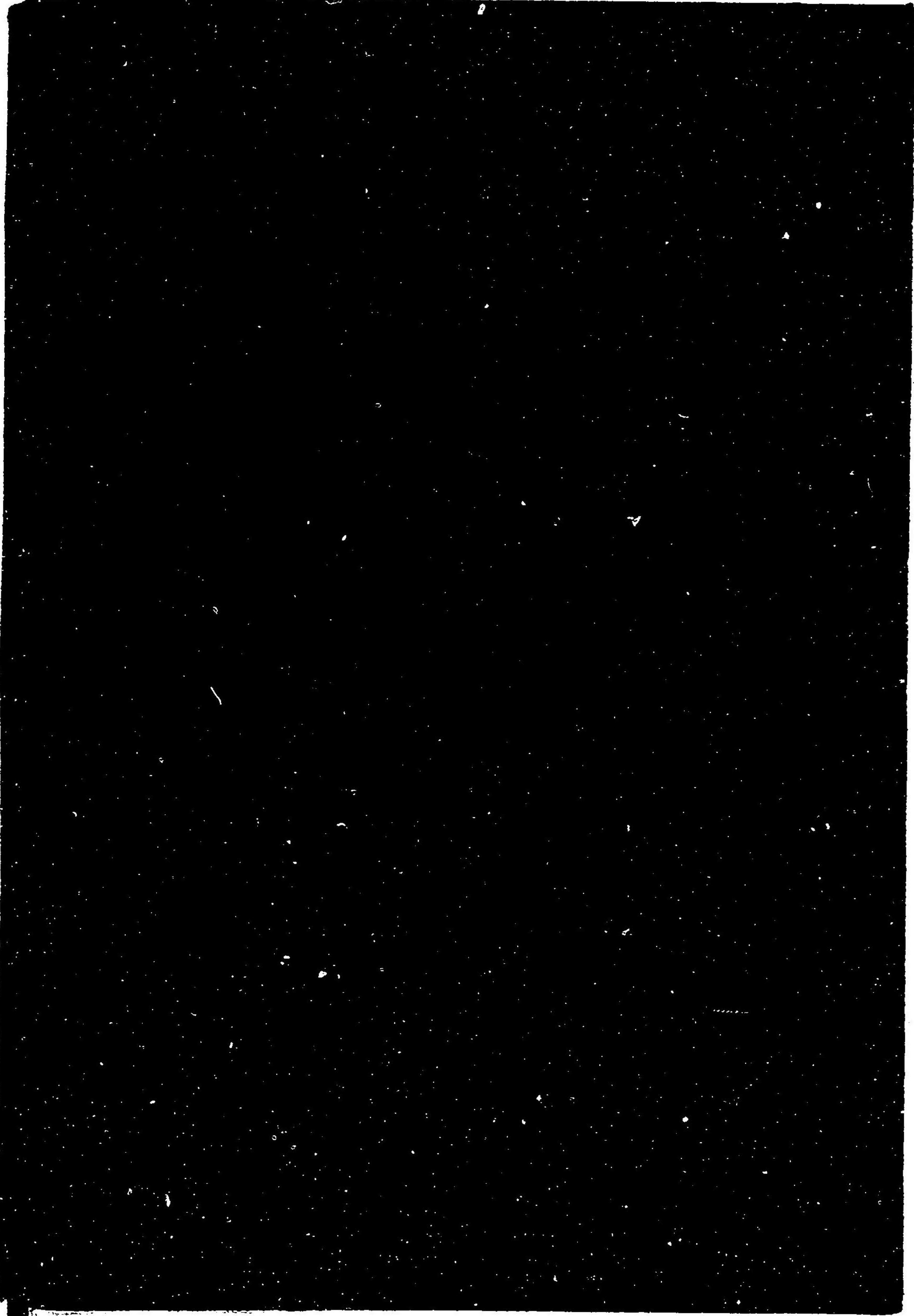
統監	隊副	監視哨長	中隊長	小隊		長左	目標順次
				右	中央		

目標順次	目標距離	著發彈數	曳火彈數	觀				測破裂點	命中彈片	被彈人馬數	被彈馬數	夾又成否	
				疑著發	彈現發	不見彈	不觀測彈						誤著發
1	3500	11	18	3	8			2	17	14 (3)	14	31	成
2	3000	10	18		7				8	8	8	20	成
II	2500	64	18	15	4	5	1		半速蔽防楯的 大門間隔23步			成	
備考					4								成

本隊形二番大朝

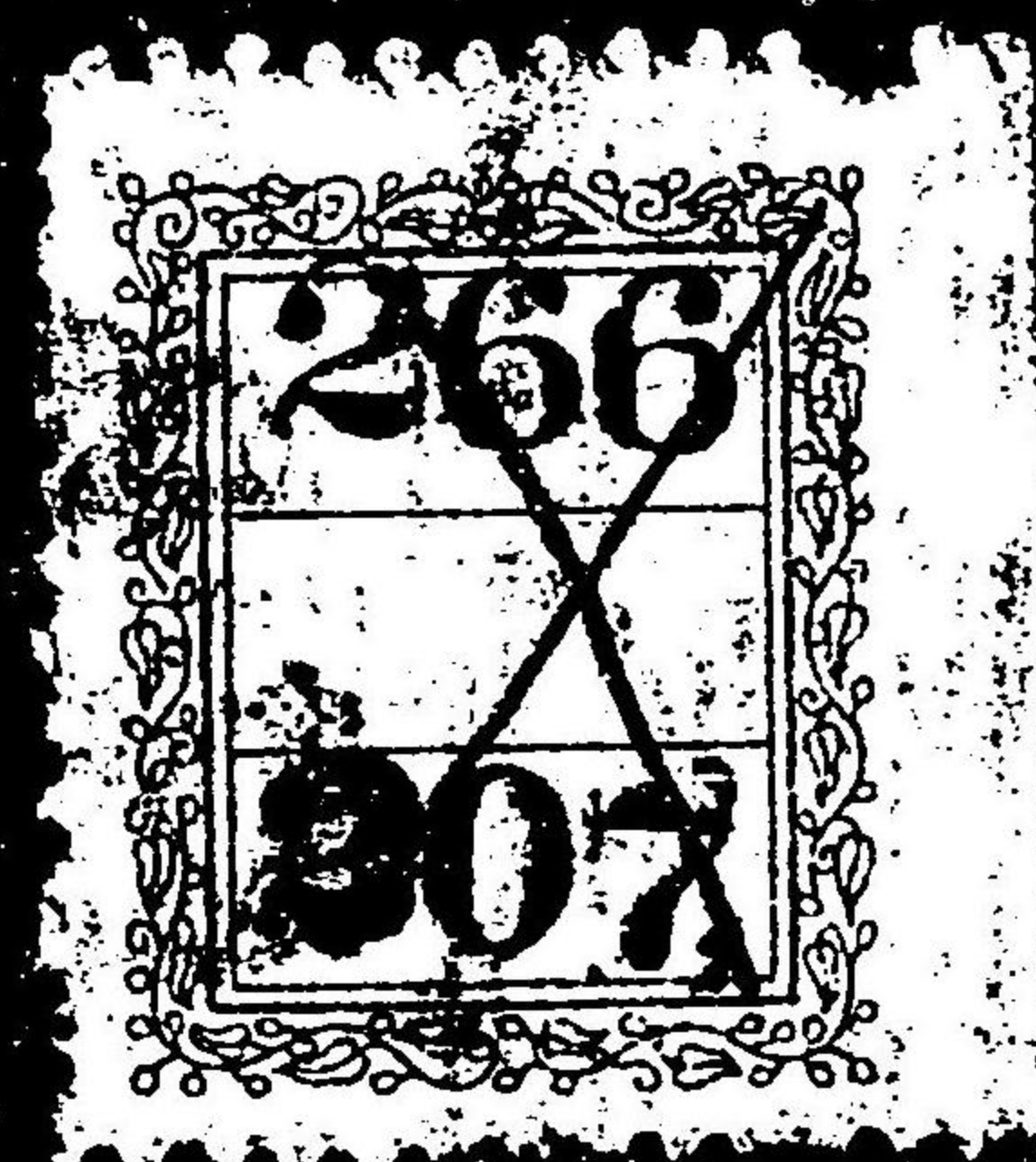


266
207



特 71

676



301259-001-8

特71-676

野戰砲兵射擊教範

M44.5

BFB-0001

